

エゼキエル書

エゼキエルの召命

1 第三十年の四月五日のことである。わたしはケバル川の河畔に住んでいた捕囚の人々の間にいたが、そのとき天が開かれ、わたしは神の顕現に接した。2 それは、ヨヤキン王が捕囚となって第五年の、その月の五日のことであった。3 カルデアの地ケバル川の河畔で、主の言葉が祭司ブジの子エゼキエルに臨み、また、主の御手が彼の上に臨んだ。

4 わたしが見ていると、北の方から激しい風が大きな雲を巻き起こし、火を発し、周囲に光を放ちながら吹いてくるではないか。その中、つまりその火の中には、琥珀金の輝きのようなものがあった。5 またその中には、四つの生き物の姿があった。その有様はこうであった。彼らは人間のようなものであった。6 それぞれが四つの顔を持ち、四つの翼を持っていた。7 脚はまっすぐで、足の裏は子牛の足の裏に似ており、磨いた青銅が輝くように光を放っていた。8 また、翼の下には四つの方向に人間の手があった。四つとも、それぞれの顔と翼を持っていた。9 翼は互いに触れ合っていた。それらは移動するとき向きを変えず、

20 それらは霊が行かせる方向に、霊が行かせる所にはどこにでも進み、車輪もまた、共に引き上げられた。生き物の霊が、車輪の中にあつたからである。21 生き物が進むときには車輪も進み、生き物が止まるときには車輪も止まった。また、生き物が地上から引き上げられるとき、車輪も共に引き上げられた。生き物の霊が、車輪の中にあつたからである。

22 生き物の頭上には、恐れを呼び起こす、水晶のように輝く大空のようなものがあった。それは生き物の頭上に高く広がっていた。23 大空の下では、生き物の一對の翼がまっすぐに伸びて互いに触れ合い、他の一對の翼が体を覆っていた。すなわち、それぞれの一對の翼が彼らの体を覆っていた。24 それらが移動するとき、翼の羽ばたく音をわたしは聞いたが、それは大水の音のように、全能なる神の御声のように聞こえ、また、陣営のごよめきのようにも聞こえた。それらが止まっているとき、翼は垂れていた。25 生き物の頭上にある大空から音が響いた。それらが止まっているとき、翼は垂れていた。

26 生き物の頭上にある大空の上に、サファイアのように見える王座の形をしたものがあり、王座のようなものの上には高く人間のように見える姿をしたものがあった。27 腰のように見えるところから上は、琥珀金

それぞれ顔の向いている方向に進んだ。10 その顔は人間の顔のようであり、四つとも右に獅子の顔、左に牛の顔、そして四つとも後ろには鷲の顔を持っていた。11 顔はそのようになつていった。翼は上に向かつて広げられ、二つは互いに触れ合い、ほかの二つは体を覆っていた。12 それらはそれぞれの顔の向いている方向に進み、霊の行かせる所へ進んで、移動するとき向きを変えることはなかった。13 生き物の姿、彼らの有様は燃える炭火の輝くようであり、松明の輝くように生き物の間を行き巡っていた。火は光り輝き、火から稲妻が出ていた。14 そして生き物もまた、稲妻の光るように出たり戻ったりしていた。

15 わたしが生き物を見ていると、四つの顔を持つ生き物の傍らの地の一つの車輪が見えた。16 それらの車輪の有様と構造は、緑柱石のように輝いていて、四つとも同じような姿をしていた。その有様と構造は車輪の中にもう一つの車輪があるかのようであった。17 それらが移動するとき、四つの方向のどちらにも進むことができ、移動するとき向きを変えることはなかった。18 車輪の外枠は高く、恐ろしかった。車輪の外枠には、四つとも周囲一面に目がつけられていた。19 生き物が移動するとき、傍らの車輪も進み、生き物が地上から引き上げられるとき、車輪も引き上げられ

2 1 彼はわたしに言われた。「人の子よ、自分の足で立て。わたしはあなたに命じる。」2 彼がわたしに語り始めたとき、霊がわたしの中に入り、わたしを自分の足で立たせた。わたしは語りかける者に耳を傾けた。3 主は言われた。「人の子よ、わたしはあなたを、イスラエルの人々、わたしに逆らつた叛逆の民に遣わす。彼らは、その先祖たちと同様わたしに背いて、今日この日に至っている。4 恥知らずで、強情な人々のもとに、わたしはあなたを遣わす。彼らに言いなさい、主なる神はこう言われる、と。5 彼らが聞き入れようと、また、叛逆の家なのだから拒もうとも、彼らは自分たちの間に預言者がいたことを知るであろう。6 人の子よ、あなたはあざみと次に押しつけられ、

蠍の上に座らされても、彼らを恐れてはならない。またその言葉を恐れてはならない。彼らが叛逆の家だからといって、彼らの言葉を恐れ、彼らの前にたじろい

ではならない。7 たとえ彼らが聞き入れようと拒もうと、あなたはわたしの言葉を語らなければならぬ。彼らは反逆の家なのだ。8 人の子よ、わたしがあなたに語ることを聞きなさい。あなたは反逆の家のように背いてはならない。口を開いて、わたしが与えるものを食べなさい。9 わたしが見ていると、手がわたしに差し伸べられており、その手に巻物があるではないか。10 彼がそれをわたしの前に開くと、表にも裏にも文字が記されていた。それは哀歌と、呻きと、嘆きの言葉であった。

3 1 彼はわたしに言われた。「人の子よ、目の前にあるものを食べなさい。この巻物を食べ、行ってイスラエルの家に語りなさい。」2 わたしが口を開くと、主はこの巻物をわたしに食べさせて、3 言われた。「人の子よ、わたしが与えるこの巻物を胃袋に入れ、腹を満たせ。」わたしがそれを食べると、それは蜜のように口に甘かった。

4 主はわたしに言われた。「人の子よ、イスラエルの家に行き、わたしの言葉を彼らに語りなさい。5 まことに、あなたは、不可解な言語や難しい言葉を語る民には聞き取ることができない不可解な言語や難しい言葉を語る多くの民に遣わされるのではない。もしわたしをそのところに座り、ぼう然として七日間、彼らの間にとどまっていた。

預言者の務め
16 七日の後、主の言葉がわたしに臨んだ。17 人の子よ、わたしはあなたを、イスラエルの家の見張りとする。わたしの口から言葉を聞かぬなら、あなたはわたしに代わって彼らに警告せねばならない。18 わたしが悪人に向かって、『お前は必ず死ぬ』と言うとき、もしあなたがその悪人に警告して、悪人が悪の道から離れて命を得るよう論議しないなら、悪人は自分の罪のゆえに死ぬが、彼の死の責任をあなたに問う。19 しかし、あなたが悪人に警告したのに、悪人が自分の悪と悪の道から立ち帰らなかつた場合には、彼は自分の罪のゆえに死に、あなたは自分の命を救う。20 また、正しい人が自分の正しい生き方を離れて不正を行うなら、わたしは彼をつまずかせ、彼は死ぬ。あなたが彼に警告しなかつたので、彼は自分の過ちのゆえに死ぬ。彼がなしてきた正しい生き方は覚えられない。また彼の死の責任をわたしはあなたに問う。21 しかし、あなたが正しい人に過ちを犯さないように警告し、彼が過ちを犯さなければ、彼は警告を受け入れたのだから命を得、あなたも自分の命を救う。」

があなたをそれらの民に遣わすのなら、彼らはあなたに聞き従うであろう。7 しかし、イスラエルの家は、あなたに聞こうとはしない。まことに、彼らはわたしに聞こうとしない者だ。まことにイスラエルの家はすべて、額も硬く心も硬い。8 今やわたしは、あなたの顔を彼らの顔のように硬くし、あなたの額を彼らの額のように硬くする。9 あなたの額を岩よりも硬いダイヤモンドのようににする。彼らが反逆の家だからといって、彼らを恐れ、彼らの前にたじろいではならない。10 更に主は言われた。「人の子よ、わたしがあなたに語るすべての言葉を心におさめ、耳に入れておきなさい。11 そして捕囚となつている同胞のもとに行き、たとえ彼らが聞き入れようと拒もうと、『主なる神はこう言われる』と言いなさい。」

12 そのとき、霊がわたしを引き上げた。わたしは背後に、大きなどろく音を聞いた。主の栄光が、その御座から上るとき音である。13 あの生き物の翼が互いに触れ合う音、生き物の傍らの車輪の音、かの大きなどろく音を聞いた。14 霊はわたしを引き上げて連れて出た。わたしは苦々しく、怒りに燃える心をもつて出て行ったが、主の御手がわたしを強く捕らえていた。15 こうしてわたしは、ケバル川の河畔のテル・アビブに住む捕囚民のもとに來たが、彼らの住んでい

エゼキエルの沈黙
22 主の御手が、そこで、わたしに臨んだ。主はわたしに言われた。「立って、平野に出て行きなさい。そこでわたしはあなたに語る。」23 わたしが立って平野に出て行くと、そこにケバル川の河畔で見た栄光と同じ主の栄光がとどまっているではないか。わたしはひれ伏した。24 霊がわたしの中に入り、わたしを自分の足で立たせた。そのとき彼はわたしに語りかけ、わたしに言われた。「あなたは自分の家に入って閉じこもりなさい。25 人の子よ、あなたは縄をかけられ、縛られ、彼らの所へ出て行けないようにされる。26 また、わたしはあなたの舌を上顎につかせ、ものが言えないようにする。こうして彼らに責める者としてのあなたの役割は終わる。まことに彼らは反逆の家だ。27 しかし、わたしが語りかけるとき、あなたの口を開く。そこであなたは彼らに言わねばならない。主なる神はこう言われる。聞き入れようとする者は聞き入れよ。拒もうとする者は拒むがよい。彼らは反逆の家だから。」

エルサレム包圍のしるし
4 1 人の子よ、れんがを一つ取って目の前に置き、その上に都であるエルサレムを刻みなさ

の毛とひげをそり、その毛を秤にかけて分けなさい。
 2 その三分の一は包圍の期間が終わったときに都の中で火で燃やし、ほかの三分の一は都の周りで剣で打ち、残り三分の一は風に乗せて散らさない。わたしは剣を抜いてその後を追う。3 あなたはその中から毛を少し取って着物の裾に包み、4 更にその幾らかを取って火に投げ入れ、火で燃やしなさい。そこからまた火が出て、イスラエルの全家に及ぶであろう。
 5 主なる神はこう言われる。「これはエルサレムのことである。わたしはこの都を国々の中に置き、その周りを諸国が取り巻くようにした。6 しかし、この都はそれらの国々よりも、いっそうわたしの裁きに逆らい、周りの諸国より激しくわたしの掟に逆らった。まことに彼らはわたしの裁きを拒み、わたしの掟に従って歩もうとしなかった。」
 7 それゆえ、主なる神はこう言われる。「お前たちが周りの国々よりもいっそうかたくなで、わたしの掟に従って歩まず、わたしの裁きを行わず、周りの国々で定められている裁きほどにも行わなかったので、8 主なる神はこう言われる。わたしもお前に立ち向かい、国々の目の前でお前の中で裁きを行う。9 わたしがお前に対して行うことは、わたしが今まで行ったこととなければ、またこれから再び行うこともないようなこ

とである。それはお前が行ったあらゆる忌まわしいことのゆえである。
 10 それゆえ、お前の中で親がその子を食べ、子がその親を食べるようなことが起こる。わたしはお前に対して裁きを行い、残っている者をすべてあらゆる方向に散らせてしまう。
 11 それゆえ——わたしは生きていて、と主なる神は言われる——お前はあらゆる憎むべきものと忌まわしいものをもつてわたしの聖所を汚したので、わたしもまた必ずお前をそり落とす。わたしは憐れみの目をかけず、同情もしない。12 お前の中で三分の一は疫病で死んだり、飢えで息絶えたりし、三分の一は都の周りで剣にかけられて倒れ、残る三分の一は、わたしがあらゆる方向に散らし、剣を抜いてその後を追う。13 わたしは彼らに向かって怒れるだけ怒り、憤りに身をまかせて、恨みを晴らす。そのとき、主であるわたしが憤れるだけ憤り、熱情をもって語ったということ

を彼らは知るようになる。
 14 わたしはお前を廃虚とし、すべての旅人の目にも、周りの国々にも、嘲りの的とする。15 わたしが怒りと憤りと激しい懲らしめをもってお前を裁くとき、お前は周りの国々の嘲りとそしりの的となり、教訓となり脅威となる。主なるわたしがこれを告げる。16 わ

い。2 そして、これを包圍し、これに向かって堡壘を建て、壘を築き、陣營を敷き、破城槌を周圍に配備しなさい。3 自ら鉄の板を取り、それを自分と都との間に鉄の壁とし、あなたの顔を都に向けなさい。こうして都は包圍される。あなたがそれを包圍するのだ。これはイスラエルの家に対するしるしである。
 4 左脇を下にして横たわり、イスラエルの家の罪を負いなさい。あなたは横たわっている日の数だけ、彼らの罪を負わなければならない。5 わたしは彼らの罪の年数を、日の数にして、三百九十日と定める。こうして、あなたはイスラエルの家の罪を負わねばならない。6 その期間が終わったら、次に右脇を下にして横たわり、ユダの家の罪を四十日間負わねばならない。各一年を一日として、それをあなたに課す。7 あなたは包圍されたエルサレムに顔を向け、腕をまくり上げて、これに向かって預言しなさい。8 わたしがあるに繩をかけるので、あなたはその包圍の日が終わるまで、一方の脇から他の脇へと寝返りを打つことができなくなる。
 9 あなたは小麦、大麦、そば、豆、ひら豆、きび、裸麦を取って、一つの器に入れ、パンを作りなさい。あなたが脇を下にして横たわっている日数、つまり三百九十日間、それを食べなさい。10 あなたの食べる食物

の分量は一日につき二十シケルで、それを一定の間隔をおいて食べなければならない。11 あなたの飲む水の分量は六分の一ヒンで、それを一定の間隔をおいて飲まなければならない。12 大麦のパン菓子のようにそれを食べなければならない。それを人々の目の前で人糞で焼きなさい。
 13 更に主は言われた。「このようにイスラエルの人はわたしが追いやる先の国々で、汚れたパンを食べる。」14 そこで、わたしは言った。「ああ、主なる神よ、わたしはわが身を汚したことがあります。若いころから今に至るまで、死んだ動物や、野獣が引き裂いた動物の肉を食べたことはなく、定められた日数を過ぎたいけにえの肉を口に入れたこともありません。」
 15 主はわたしに言われた。「あなたが人糞の代わりに牛糞を用いることをわたしは許す。あなたはその上でパンを焼くがよい。」16 また、主はわたしに言われた。「人の子よ、わたしはエルサレムのパンをつるして蓄える棒を折る。彼らはおびえながらパンの目方を量って食べ、硬直した様で水を升で量って飲むようになる。17 彼らは罪のゆえにパンにも水にも事欠き、やせ衰えて、互いに恐れに取りつかれる。」
 5 1 人の子よ、あなたは鋭い剣を取って理髪師のかみそりのようにそれを手に持ち、あなたの髪

の分量は一日につき二十シケルで、それを一定の間隔をおいて食べなければならない。11 あなたの飲む水の分量は六分の一ヒンで、それを一定の間隔をおいて飲まなければならない。12 大麦のパン菓子のようにそれを食べなければならない。それを人々の目の前で人糞で焼きなさい。
 13 更に主は言われた。「このようにイスラエルの人はわたしが追いやる先の国々で、汚れたパンを食べる。」14 そこで、わたしは言った。「ああ、主なる神よ、わたしはわが身を汚したことがあります。若いころから今に至るまで、死んだ動物や、野獣が引き裂いた動物の肉を食べたことはなく、定められた日数を過ぎたいけにえの肉を口に入れたこともありません。」
 15 主はわたしに言われた。「あなたが人糞の代わりに牛糞を用いることをわたしは許す。あなたはその上でパンを焼くがよい。」16 また、主はわたしに言われた。「人の子よ、わたしはエルサレムのパンをつるして蓄える棒を折る。彼らはおびえながらパンの目方を量って食べ、硬直した様で水を升で量って飲むようになる。17 彼らは罪のゆえにパンにも水にも事欠き、やせ衰えて、互いに恐れに取りつかれる。」
 5 1 人の子よ、あなたは鋭い剣を取って理髪師のかみそりのようにそれを手に持ち、あなたの髪

7 主の怒りの日
 1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 人の子よ、言いなさい。主なる神がイスラエルの地に向かつてこう言われる。
 終わりが来る。地の四隅に終わりが来る。
 3 今こそ終わりがお前の上に来る。
 わたしは怒りを送り
 お前の行いに従って裁き
 忌まわしいすべてのことをお前に報いる。
 4 わたしは、お前に慈しみの目を注がす
 憐れみをかけることもしない。
 お前の行いをわたしは報いる。
 お前の忌まわしいことはお前の中にとどまる。
 そのとき、お前たちは
 わたしが主であることを知るようになる。

5 主なる神はこう言われる。
 災いに続く災いが来る。

6 終わりが来る。終わりが来る。
 終わりの時がお前のために熟す。
 今や見よ、その時が来る。
 7 この地に住む者よ、お前の順番が来た。時は来た。その日は近い。
 それは大混乱の日で、山々には喜びの声が絶える。
 8 今や、わたしはお前に向かって憤りを注ぎお前に対して、わが怒りを注ぎ尽くす。
 わたしは、お前の行いに従って裁き
 忌まわしいすべてのことをお前に報いる。
 9 わたしは慈しみの目を注がす
 憐れみをかけることもしない。
 お前の行いに応じてわたしは報いる。
 お前の忌まわしいことはお前の中にとどまる。
 そのとき、お前たちは知るようになる。
 わたしが、お前たちを打つ主であることを。
 10 見よ、その日を。今やその日が来る。
 順番が巡って来る。
 王杖に花が咲き、傲慢の芽が萌え出た。
 11 不法が起こって、背きの王杖となった。
 彼らのものはひとつも残らず、群衆は絶える。
 彼らの騒ぎも残らず、嘆きの声すら絶える。

わたしは滅びに定められた者に対して悲惨な飢えの矢を放つ。お前たちを滅ぼすためにそれを放つとき、わたしは飢えをますますひどくし、パンをつるして蓄える棒を折る。17 わたしは飢えと狂暴な獣をお前たちに送り込み、子供たちを奪わせる。疫病と流血はお前の中を通り抜ける。またわたしは剣をお前に臨ませる。主なるわたしがこれを告げる。」

偶像礼拝の山

6 主の言葉がわたしに臨んだ。2 人の子よ、顔をイスラエルの山々に向け、それに向かって預言して、3 言え。イスラエルの山々よ、主なる神の言葉を聞け。主なる神は、山と丘、川と谷に向かって、こう言われる。わたしは剣をお前たちに臨ませ、聖なる高台を破壊する。4 祭壇は荒れ果て、香炉台は砕かれる。また、わたしは、お前たちの中の殺された者を、偶像の前に投げ捨てる。5 わたしはイスラエルの人々の死体をその偶像の前に置き、お前たちの骨を祭壇の周りにまき散らす。6 お前たちの住む所はどこにおいても、町は廃虚とされ、聖なる高台は荒らされる。祭壇も廃虚とされて荒らされ、偶像は粉々に砕かれ、香炉台は打ち壊され、こうしてお前たちの作ったものは一掃される。7 また、殺された者がお前たちの真ん中

に倒れる。そのとき、お前たちはわたしの主であることを知るようになる。8 しかし、お前たちが諸国に散らされるとき、わたしはお前たちのために、剣を逃れた者を諸国民の間に残しておく。9 お前たちのうちで逃れた者は、捕囚として連れ去られる先の国々でわたしを思い起こす。わたしを離れ去る姦淫の心と、偶像にひかれる姦淫の目をわたしは打ち砕くからだ。そして彼らは自ら行った悪のゆえに、その忌まわしいすべてのことのゆえに、自分を嫌悪するようになる。10 そして彼らは、わたしが主であり、理由もなくこの災いを彼らにくだと告げたのではなかったことを知るようになる。
 11 主なる神はこう言われる。手をたたき、足を踏み鳴らして、イスラエルの家の忌まわしいすべての悪事を喚べ。彼らは剣と、飢饉と、疫病によって倒れるからだ。12 遠くにいる者は疫病で死に、近くにいる者は剣で倒れる。それを免れ、生き残る者も飢饉で死ぬ。こうしてわたしは彼らに対して怒りを注ぎ尽くす。13 殺された者たちが、祭壇の周りの偶像の間や、高い丘の上、山々の頂で、またすべての緑豊かな木、すべての茂った櫛の木の下、あるいはかつて、あらゆる偶像に宥めの香りをささげた場所で倒れるとき、お前たちは、わたしが主であることを知るようになる。14 わ

12 時が来る。その日が到来する。
 買う者も喜ぶな、売る者も悲しむな。
 怒りが、国の群衆すべてに及ぶからだ。
 13 売る者がたとえ生き長らえても
 売った物を買戻すことはできない。
 すべての群衆に対する審判の幻が
 撤回されないからだ。

罪のゆえに、だれひとり命を保つことはできない。
 14 角笛が吹き鳴らされ、準備がすべて整っても
 だれひとり戦いに出る者はない。
 わたしの怒りが群衆のすべてに及ぶからだ。

15 外には剣があり、内には疫病と飢饉がある。
 野に在る者は、剣にかけられて死に
 町に在る者は、飢えと疫病が滅ぼす。
 16 たとえ、逃れた者たちが逃れて山に行っても
 皆、おのれの自分の罪のゆえに
 谷間の鳩のように嘆く。

17 手は力なく垂れ
 膝は水のように力を失う。
 18 彼らは粗布を身にまとい、戦慄が彼らを包む。
 どの顔も恥を表し、髪はみなそり落とされる。

彼らの聖所は汚される。

25 恐怖が臨む。
 彼らが平和を求めても、どこにもない。
 26 災いに災いが続き
 悪い知らせが相次いで来る。
 彼らが幻を預言者に求めても得ず
 律法は祭司から失われ
 助言は長老たちから失われる。
 27 王は嘆き
 君侯たちは恐怖にとらわれ
 国の民の手は震える。
 わたしは彼らの行いに従って報い
 彼らの法に従って彼らを裁く。
 そのとき、彼らは
 わたしが主であることを知るようになる。」

エルサレムの墮落

8 1 第六年の六月五日のことである。わたしは自
 分の家に座っており、ユダの長老たちがわたし
 の前に座っていた。そのとき、主なる神の御手がわた
 しの上に下った。2 わたしが見ていると、人の有様の
 ような姿があるではないか。その腰のように見えると

19 彼らは銀を外に投げ捨て
 金は汚れたものとなる。
 主の怒りの日には、銀も金も
 彼らを救うことができないからだ。
 銀も金も、彼らの飢えを鎮めることができず
 腹を満たすこともできない。

かえって、それは彼らをつまずかせ罪を犯させた。
 20 彼らは美しい飾りを騎り高ぶるために用い
 憎むべき忌まわしい偶像を造った。
 それゆえ、わたしはそれを汚れたものとし
 21 戦利品として、他国人の手に渡し
 分捕物として、地上の悪人たちに与える。
 彼らはそれを汚す。

22 わたしは彼らから顔をそむける。
 彼らはわたしの宝を汚し
 乱暴な者が襲いかかって汚す。
 23 鎖を用意せよ。
 この地は流血の罪に満ち
 24 わたしは諸国から悪者どもを来させ
 彼らの家を奪い取らせる。
 わたしは力ある者の誇りを挫く。

ころから下は火であり、腰から上は琥珀金の輝きのよ
 うに光輝に満ちた有様をしていた。3 彼が手の形をし
 たものを差し伸べて、わたしの髪の毛の房をつかむ
 と、霊はわたしを地と天の間に引き上げ、神の幻のう
 ちにわたしをエルサレムへと運び、北に面する内側の
 門の入り口に連れて行った。そこには、激怒を起かさ
 せる像が収められていた。4 そこには、かつてわたし
 が平野で見た有様と同じような、イスラエルの神の栄
 光があった。5 彼がわたしに、「人の子よ、目を上げて
 北の方を見なさい」と言ったので、北の方に目を上げ
 ると、門の北側に祭壇があり、入り口にはまさにその
 激怒を招く像があるではないか。6 彼はわたしに言っ
 た。「人の子よ、イスラエルの人々がわたしを聖所から
 遠ざけるために行っている甚だ忌まわしいことを見る
 か。しかし、あなたは更に甚だしく忌まわしいことを
 見る。」
 7 彼はわたしを庭の入り口に連れて行った。見る
 と、壁に一つの穴があるではないか。8 彼がわたしに、
 「人の子よ、壁に穴をうがちなさい」と言ったので、壁
 に穴をうがうと、そこに一つの入り口があるではない
 か。9 彼は、「入って、彼らがここでやっている邪悪で
 忌まわしいことを見なさい」と言った。10 入って見て
 いると、周りの壁一面に、あらゆる地を這うものと獸

と、壁に一つの穴があるではないか。8 彼がわたしに、
 「人の子よ、壁に穴をうがちなさい」と言ったので、壁
 に穴をうがうと、そこに一つの入り口があるではない
 か。9 彼は、「入って、彼らがここでやっている邪悪で
 忌まわしいことを見なさい」と言った。10 入って見て
 いると、周りの壁一面に、あらゆる地を這うものと獸

の憎むべき像、およびイスラエルの家のあらゆる偶像が彫り込まれているではないか。11その前に、イスラエルの長老七十人が、シャファンの子ヤアザンヤを中心にして立っていた。彼らは、それぞれ香炉を手にしており、かぐわしい煙が立ち昇っていた。12彼はわたしに言った。「人の子よ、イスラエルの家の長老たちが、闇の中でのおのおの、自分の偶像の部屋で行っていることを見たか。彼らは、主は我々を御覧にならない。主はこの地を捨てられたと言っている。」13彼はまた、わたしに言った。「あなたは、彼らが行っている更に甚だしく忌まわしいことを見る」と。

14彼はわたしを、主の神殿の北に面した門の入り口に連れて行った。そこには、女たちがタンムズ神のために泣きながら座っているではないか。15そこで彼はわたしに言った。「人の子よ、見たか。あなたは、これより更に甚だしく忌まわしいことを見る」と。

16彼はわたしを主の神殿の中庭に連れて行った。すると、主の聖所の入り口で、廊と祭壇の間に、二十五人ほどの人がいて、主の聖所を背にし、顔を東に向けていた。彼らは東に向かって太陽を拝んでいるではないか。17彼はわたしに言った。「人の子よ、見たか。ユダの家がここで数々の忌まわしいことを行っているのは些細なことであろうか。彼らはこの地を不法で満た

した。また、わたしの鼻に木の枝を突きつけて、わたしを更に怒らせようとしている。18わたしも憤って行い、慈しみの目を注ぐことも、憐れみをかけることもしない。彼らがわたしの耳に向かって大声をあげても、わたしは彼らに聞きはしない。」

9 1 彼は大声でわたしの耳に語った。「この都を罰する者たちよ、おのおの破壊する道具を手にして近寄れ。」2すると、北に面する上の門に通ずる道から、六人の男がそれぞれ突き崩す道具を手にしてやって来るではないか。そのうちの一人は亜麻布をまとい、腰に書記の筆入れを着けていた。彼らはやって来ると、青銅の祭壇の傍らに立った。3すると、ケルビムの上にとどまっていたイスラエルの神の栄光はそこから昇って、神殿の敷居の方に向かい、亜麻布をまとい、腰に書記の筆入れを着けた者に呼びかけた。

4 主は彼に言われた。「都の中、エルサレムの中を巡り、その中で行われているあらゆる忌まわしいことのゆえに、嘆き悲しんでいる者の額に印を付けよ。」5 また、他の者たちに言っておられるのが、わたしの耳に入った。「彼の後ろについて都の中を巡れ。打て。慈しみの目を注いでほならない。憐れみをかけてはならない。6 老人も若者も、おとめも子供も人妻も殺して、滅ぼし尽くさなければならぬ。しかし、あの印

のある者に近づいてはならない。さあ、わたしの神殿から始めよ。」彼らは、神殿の前にいた長老たちから始めた。7 主はまた彼らに言われた。「神殿を汚し、その庭を、殺された者で満たせ。さあ、出て行くのだ。」彼らは出て行き、都の人々を打った。8 彼らが打っているとき、わたしはひとり残され、顔を伏せ、助けを求めて言った。「ああ、主なる神よ、エルサレムの上に憤りを注いで、イスラエルの残りの者をすべて滅ぼし尽くされるのですか。」9 主はわたしに言われた。「イスラエルとユダの家の罪はあまりにも大きい。この地は流血に満ち、この都は不正に満ちている。彼らは、『主はこの地を見捨てられた。主は顧みられない』と言っている。10 それゆえ、わたしも彼らに慈しみの目を注がず、憐れみをかけることもしない。彼らの行いの報いを、わたしは彼らの頭上に帰する。」11 そのとき、亜麻布をまとい腰に筆入れを着けている者が報告して言った。「わたしは、あなたが命じられたとおりにいたしました。」

主の栄光が神殿を去る

10

1 わたしが見ていると、ケルビムの頭上の大空の上に、サファイアの石のようで、形は王座のように見えるものがあるではないか。それはケルビム

の上に見えた。2 主は亜麻布をまとった者に向かって言われた。「ケルビムの下の回転するものの中に入れ。そして、ケルビムの間にある燃える炭火を両手に満たし、それを都の上になき散らせ」と。彼は、わたしの目の前で行って行った。3 その人が入って行ったとき、ケルビムは神殿の南側に止まっており、雲が中庭を満たしていた。4 主の栄光はケルビムの上から立ち上がり、神殿の敷居に向かった。神殿は雲で満たされ、庭は主の栄光の輝きで満たされた。5 ケルビムの翼の羽ばたく音は外庭にまで聞こえ、全能の神が語られる御声のようであった。6 主が亜麻布をまとった人に命じて、「火を、回転するものの中、ケルビムの間から取れ」と言われたので、彼は来て、車輪の傍らに立った。7 すると、ケルビムのひとりが、手をケルビムの間から、ケルビムの間にある火に向かって伸ばして火を取り上げ、亜麻布をまとった者の両手に置いた。その人は火を受け取って、出て行った。

8 ケルビムには、その翼の下に、人間の手の形が見えていた。9 わたしが見ていると、四つの車輪が、ケルビムの傍らにあるではないか。一つの手車輪が、ひとりのケルビムの傍らに、また一つの手車輪が、ひとりのケルビムの傍らに、また一つの手車輪が、ひとりのケルビムの傍らに、また一つの手車輪が、ひとりのケルビムの傍らに、それぞれ傍らにあって、それらの車輪の有様は緑柱石のように輝い

ていた。10 それぞれの形の有様は、四つとも同じで、一つの車輪がもう一つの車輪の中にあるかのようであった。11 それらが移動するときは、四つの方向に進み、移動するときに、向きを変えることはなかった。先頭のケルビムが向かうところに他のものも従って進み、向きを変えなかつたからである。12 ケルビムの全身、すなわち、背、手、翼と、車輪にはその周囲一面に目がつけられていた。ケルビムの車輪は四つともそうであった。13 それらの車輪は「回転するもの」と呼ばれているのが、わたしの耳に聞こえた。14 ケルビムにはそれぞれ四つの顔があり、第一の顔はケルビムの顔、第二の顔は人間の顔、第三の顔は獅子の顔、そして第四の顔は鷲の顔であった。

15 ケルビムは上った。これがケバル川のほとりでわたしが見たあの生き物である。16 ケルビムが移動するとき、車輪もその傍らを進み、ケルビムが翼を広げて地上から上るとき、車輪もその傍らを離れて回ることにはなかつた。17 ケルビムが止まると、車輪も止まり、ケルビムが上ると、車輪も共に上った。生き物の霊がその中であつたからである。

18 主の栄光は神殿の敷居の上から出て、ケルビムの上にとどまつた。19 ケルビムは翼を広げ、傍らの車輪と共に出て行くとき、わたしの目の前で地から上って

行き、主の神殿の東の門の入り口で止まつた。イスラエルの神の栄光は高くその上にあつた。20 これがケバル川の河畔で、わたしがイスラエルの神のもとにいるのを見たあの生き物である。わたしは、それがケルビムであることを知つた。21 そのそれぞれに四つの顔と四つの翼があり、翼の下には人間の手の形をしたものがあつた。22 これらの顔の形は、まさしく、わたしがケバル川の河畔で見た顔であつた。それらは同じような有様をしており、おのおのまつすぐに進んで行つた。

11 1 霊はまた、わたしを引き上げ、主の神殿の東に面する東の門へ運んで行つた。門の入り口に二十五人の男がおり、その中に民の指導者であるアズルの子ヤアザンヤとベナヤの子ペラトヤがいるのをわたしは見た。2 主はわたしに言われた。「人の子よ、この人々はこの都の中で悪をたくらみ、悪い計画を立てている。3 彼らは、『家をすぐに建てて必要はない。この都は鍋で、我々は肉だ』と言っている。4 それゆえ、彼らに向かつて預言せよ。人の子よ、預言せよ。5 また、主の霊がわたしに降り、主は言われた。あなたは言わねばならない。主はこう言われる。イスラエルの家よ、お前たちはそのように言い張っている。わたしはお前たちが心に抱えていることを知っている。6 し

かし、お前たちはこの都の中で殺される者を数多く出し、路上は殺された者で満たされる。7 それゆえ、主なる神はこう言われる。お前たちがこの都の中に積み上げる殺された者こそ、その肉にほかならず、都は鍋である。しかしわたしは、お前たちをそこから引き出す。8 お前たちは剣を恐れているが、わたしはお前たちの上に剣を臨ませる、と主なる神は言われる。9 わたしは、お前たちをそこから引き出して、異国人の手に渡し、お前たちに対する裁きを行う。10 お前たちは剣に撃たれて倒れる。わたしはイスラエルの国境でお前たちを裁く。そのとき、お前たちは、わたしが主であることを知るようになる。11 この都が、お前たちにとつて鍋となることはない。お前たちがその中で肉であることを知るようになる。12 そのとき、お前たちは、わたしが主であることを知るようになる。お前たちはわたしの掟に従つて歩まず、わたしの法を行わず、かえつて周囲の国々のならわしに従つてきた。13 わたしが預言している、ベナヤの子ペラトヤは死んだ。わたしは倒れ伏し、大声で叫んで言った。「ああ、主なる神よ。イスラエルの残りの者を滅ぼし尽くされるのですか」と。

14 主の言葉がわたしに臨んだ。15 「人の子よ、エルサ

レムの住民は、あなたの兄弟たち、すなわちあなたの親族である兄弟たち、およびイスラエルの家のすべての者に対して言っている。『主から遠く離れておれ。この土地は我々の所有地として与えられている。』16 それゆえ、あなたは言わねばならない。主なる神はこう言われる。『確かに、わたしは彼らを遠くの国々に追いやり、諸国に散らした。しかしわたしは、彼らが行つた国々において、彼らのためにささやかな聖所となつた。』17 それゆえ、あなたは言わねばならない。主なる神はこう言われる。『わたしはお前たちを諸国の民の間から集め、散らされていた諸国から呼び集め、イスラエルの土地を与える。18 彼らは帰つて来て、あらゆる憎むべきものと、あらゆる忌まわしいものをその地から取り除く。19 わたしは彼らに一つの心を与え、彼らの心に新しい霊を授ける。わたしは彼らの肉から石の心を除き、肉の心を与える。20 彼らがわたしの掟に従つて歩み、わたしの法を守り行うためである。こうして、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。21 しかし、憎むべきもの、忌まわしいもの、心を寄せている者には、彼らの行つてきたことが頭上になりかかるとする。』と主なる神は言われる。22 そのとき、ケルビムは翼を広げ、車輪もまた共に行つた。イスラエルの神の栄光は高くその上にあつ

た。23 主の栄光は都の中から昇り、都の東にある山の上にとどまった。24 霊はわたしを引き上げ、カルデアの方に運び、わたしを幻のうちにも、神の霊によって、捕囚の民のもとに連れて行った。こうして、わたしの見た幻は、わたしを離れて上って行った。25 わたしは、主が示されたすべてのことを、捕囚の民に語り聞かせた。

捕囚のしるし

12

1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 人の子よ、あなたは叛逆の家の中に住んでいる。彼らは見る目を持っていないが、見えず、聞く耳を持っていないが聞かない。まことに彼らは叛逆の家である。3 それゆえ、人の子よ、あなたは捕囚の荷物を造り、白昼彼らの目の前で捕らわれの身となって行きなさい。あなたがいる所から他の場所へ、彼らの目の前で捕らわれの身となって行きなさい。彼らは叛逆の家であるが、あるいは、それに目を留めるかもしれない。4 あなたは、白昼彼らの目の前で、自分の荷物を、捕囚の荷物として持ち出しなさい。また、夕方彼らの目の前で捕囚の民が出て行くように、出て行きなさい。5 彼らの目の前で、壁に穴をうがち、そこから荷物を運び出しなさい。6 彼らの目の前で、荷物を肩に担ぎ、暗闇の中

で運び出しなさい。顔を覆ってこの土地を見ないようにしなさい。わたしはあなたを、イスラエルの家に対するしるしとする。7 わたしは命じられたとおりに行った。わたしは、白昼彼らの目の前で、自分の荷物を捕囚の荷物として運び出し、夕方、手で壁に穴をうち、暗闇の中で肩に担いで運び出した。

8 朝になって、主の言葉がわたしに臨んだ。9 人の子よ、叛逆の家、イスラエルの家は、あなたに向かつて、『何をしているのか』と尋ねなかったか。10 あなたは、彼らに言わねばならない。主なる神はこう言われる。この託宣は、エルサレムの首長と、そこにいるイスラエルの家すべてにかかわる。11 あなたは言わねばならない。『わたしは、あなたたちのためのしるしである。わたしがやって見せたようなことが、彼らに起こる。彼らは捕囚として、捕囚の地へ行く。12 彼らの中の首長も、暗闇の中で荷物を肩に担ぎ、壁に運び出すための穴をうがって出て行く。彼は目でこの土地を見ないように顔を覆う。』13 わたしは、彼の上に網を広げ、彼はわたしの罫にかかる。その彼をわたしはカルデアの地、バビロンに連れて行くが、彼はその地を見ることができず、そこで死ぬ。14 わたしは、彼を取り巻くすべての従者と軍隊とを、四方にまき散らし、剣を抜いてその後を追う。15 わたしが彼らを国々の中に

散らし、諸国にまき散らすとき、彼らは、わたしが主なる神であることを知るようになる。16 しかし、わたしは彼らの中から少数の人々を残し、剣と飢えと疫病から守る。彼らが自分たちの行った忌まわしいすべてのことを、行く先々の国の中で語り聞かせるためである。そのとき、彼らは、わたしが主であることを知るようになる。」

17 主の言葉がわたしに臨んだ。18 人の子よ、震えながらパンを食べ、恐れ、おびえながら水を飲み、19 国の民に言いなさい。主なる神は、イスラエルの土地にいるエルサレムの住民に向かってこう言われる。彼らはおびえながらパンを食べ、硬直した様で水を飲むようになる。その地が住民すべての不法のゆえに、地を満たしていたものを失い、荒れ廃れるからである。20 人の住んでいた町々は荒れ果て、この地は荒廃に帰する。そのとき、お前たちは、わたしが主であることを知るようになる。」

21 また、主の言葉がわたしに臨んだ。22 人の子よ、イスラエルの土地について伝えられている、『日々は長引くが、幻はすべて消えうせる』というこのことわざは、お前たちにとって一体何か。23 それゆえ、彼らに言いなさい。主なる神はこう言われる。『わたしはこのことわざをやめさせる。彼らは再びイスラエルで、

このことわざを用いることはない』と。かえって彼らにこう語りなさい。『その日は近く、幻はすべて実現する。』24 もはや、イスラエルの家には、むなししい幻はひとつもない。気休めの占いもない。25 なぜなら、主なるわたしが告げる言葉を告げるからであり、それは表現され、もはや、引き延ばされることはない。26 逆の家よ、お前たちの生きている時代に、わたしは自分の語ることを実行する、と主なる神は言われる。」

26 主の言葉がわたしに臨んだ。27 人の子よ、イスラエルの家は言っているではないか。『彼の見た幻はるか先の時についてであり、その預言は遠い将来についてである』と。28 それゆえ、彼らに言いなさい。主なる神はこう言われる。わたしが告げるすべての言葉は、もはや引き延ばされず、実現される、と主なる神は言われる。」

偽りの預言者

13

1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 人の子よ、イスラエルの預言者たちに向かって、預言しなさい。自分の心のままに預言する者たちに向かって預言し、言いなさい。主の言葉を聞け。3 主なる神はこう言われる。災いだ、何も示されることがなく、自分の霊の赴くままに歩む愚かな預言者たちは。4 イスラエル

とす。19 お前たちは、ひと握りの大妻とひとかけらのパンのゆえに、わが民の前でわたしを汚し、欺きの言葉に聞き入るわが民を欺くことよって、死ぬべきではない者を殺し、生きるべきではない者を生かしている。

20 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしは、お前たちが、人々の魂を鳥を捕らえるように捕らえるために使っている呪術のひもに立ち向かい、それをお前たちの腕から引きちぎり、お前たちが鳥を捕らえるように捕らえた魂を解き放つ。21 また、わたしはお前たちの頭巾を引き裂き、わが民をお前たちの手から救い出す。二度と、彼らがお前たちの手に捕らえられることはない。そのときお前たちは、わたしが主であることを知るようになる。22 お前たちは、わたしは苦しめようとはしていないのに、神に從う者の心を偽りをもつて苦しめ、神に逆らう者の手を強め、彼らが悪い道から立ち帰って、命を得ることができないようにしている。23 それゆえ、もはやお前たちがむなししい幻を見ることも占いをすることもなくなる。わたしは、お前たちの手からわが民を救い出す。そのときお前たちは、わたしが主であることを知るようになる。

14 偶像礼拝と神の審判

1 イスラエルの長老数名がわたしのもとに来て、わたしの前に座った。2 そのとき、主の言葉がわたしに臨んだ。3 人の子よ、この人々は偶像を心に抱き、彼らをつまずかせる罪を目の前に置いている。それなのに、わたしは彼らの求めに応じられようか。4 それゆえ、彼らと語り、彼らに告げなさい。主なる神はこう言われる。イスラエルの家の者で、偶像を心に抱き、つまずかせる罪を目の前に置いていながら、預言者のもとに来る者には、だれに対しても、主なるわたし自身は、彼の多くの偶像のゆえに答えよう。5 それは、偶像のゆえにわたしから離れ去ったイスラエルの家の心をすべて、わたしが捕らえるためである。

6 それゆえ、あなたはイスラエルの家に言いなさい。主なる神はこう言われる。悔い改めて、お前たちの偶像から離れ、すべての忌まわしいものから顔を背けよう。7 イスラエルの家の者と、イスラエルの中に寄留している外国人のうち、わたしから離れて偶像を心に抱き、つまずかせる罪を目の前に置いていながら、わたしに尋ねようと預言者のもとに来る者には、だれに対しても、主なるわたし自身が答えよう。8 わたしはその者に向かって顔を向け、彼をしるしとし、

よ、お前の預言者たちは廃虚にいる山犬のようだ。5 お前たちは、主の日の戦いに耐えるために、城壁の破れ口を上ろうとせず、イスラエルの家を守る石垣を築こうともしない。6 彼らはむなししい幻を見、欺きの占いを行い、主から遣わされてもいないのに、『主は言われる』と言って、その言葉が成就するのを待っている。7 お前たちが見ているのはむなししい幻、お前たちが口をしているのは欺きの占いではないか。わたしが語ってもいないのに、『主は言われる』と言っている。

8 それゆえ、主なる神はこう言われる。お前たちはむなししいことを語り、欺きの幻を見ているので、わたしはお前たちに立ち向かう、と主なる神は言われる。9 わたしの手は、むなししい幻を見る預言者たちと、欺きを占う占い師たちに向けられる。彼らはわたしの民の集いに加えられず、イスラエルの家の記録にも記されず、イスラエルの土地に入ることもできない。そのとき、お前たちはわたしが主なる神であることを知るようになる。10 平和がないのに、彼らが『平和だ』と言ってわたしの民を惑わすのは、壁を築くときに漆喰を上塗りするようなものだ。11 漆喰を上塗りする者に言いなさい。『それは、はがれ落ちる』と。豪雨が襲えば、雹よ、お前たちも石のように落ちてくるし、暴

風も突如として起こる。12 壁が崩れ落ちれば、『先に施した上塗りはどこに行ったのか』とお前たちは言われるに違いない。

13 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしは憤りをもつて、暴風を起こし、怒りをもつて豪雨を降らせ、怒り狂って雹を石のように降らせ、すべてを破壊する。14 お前たちが漆喰を塗った壁をわたしは破壊し、地面に打ちつけて、その基礎をむき出しにする。それが崩れ落ちるとき、お前たちもその中で滅びる。そのとき、お前たちは、わたしが主であることを知るようになる。15 わたしは、壁とそれに漆喰を塗った者たちに対し怒りを注ぎ尽くし、『壁もなくなり、それに上塗りをした者たちもいなくなった』とお前たちに言う。16 エルサレムに預言するイスラエルの預言者たちよ、平和がないのに、都のために平和の幻を見る者たちよ、と主なる神は言われる。

17 人の子よ、自分の心のままに預言するあなたの民の娘たちに顔を向け、彼女らに預言しなさい。18 あなたは言わねばならない。主なる神はこう言われる。災いだ、人々の魂を捕らえようとして、どの手首にも呪術のひもを縫い付け、どんな大きさの頭にも合わせて呪術の頭巾を作る女たちよ。お前たちはわたしの民の魂を捕らえ、自分たちの仲間の魂を生かしておこう

ことわざとして、わが民の中から断つ。そのときお前たちは、わたしが主であることを知るようになる。

9 もし、預言者が惑わされて言葉語るがあるなら、主なるわたし自身がその預言者を惑わしたのである。わたしは彼の上に手を伸べ、わが民イスラエルの中から絶ち滅ぼす。10 彼らは共に自分の罪を負う。尋ねる者の罪は、預言者の罪と同じである。11 それは、イスラエルの家もはやわたしから迷い出ず、あらゆる背きによって二度と自分を汚さないためである。こうして、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる」と主なる神は言われる。

12 主の言葉がわたしに臨んだ。13 「人の子よ、もし、ある国がわたしに対して不信を重ね、罪を犯すなら、わたしは手をその上に伸ばし、パンをつるして蓄える棒を折り、その地に飢饉を送って、そこから人も家畜も絶ち滅ぼす。14 たとえ、その中に、かの三人の人物、ノア、ダニエル、ヨブがいたとしても、彼らはその正しさによって自分自身の命を救うだけだ、と主なる神は言われる。

15 もし、わたしが悪い獣をその国に横行させ、それによって住む人がいなくなり、獣を恐れて通る人がないために国が荒れ廢れるなら、16 その中に、かの三人の人物がいたとしても——わたしは生きていて、と主なる神は言われる。

たしがエルサレムにくだした災い、わたしがそこに臨ませたすべてのことについて慰められる。23 お前たちは、彼らの歩みと行いとを見て、それによって慰められ、わたしがそこで行ったすべてのことは、理由なく行ったのではないことを知るようになる」と主なる神は言われる。

役に立たぬぶどうの木

15 1 主なる神の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、ぶどうの木は森の木々の中で、枝のあるどの木よりもすぐれているであろうか。3 ぶどうの木から、何か役に立つものを作るための木材がとれるだろうか。それで、何かの器物を掛ける釘を作ることができるだろうか。4 それが火に投げ込まれると、火はその両端を焼き、真ん中も焦がされてしまう。それでも何かの役に立つだろうか。5 完全なときでさえ何も作れないのに、まして火に焼かれて焦げてしまったら、もはや何の役にも立たないではないか。

6 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしが薪として火に投げ込んだ、森の木の中のぶどうの木のように、わたしはエルサレムの住民を火に投げ入れる。7 わたしは顔を彼らに向ける。彼らが火から逃れても、火は彼らを食い尽くす。わたしが顔を彼らに向け

なる神は言われる——彼らは自分の息子、娘たちすら救うことができない。彼らは自分自身を救うだけであり、その国は荒廢に帰するであろう。

17 また、もしわたしが剣をその国に送って、『剣よ、この国を行き巡れ』と言って、その国から人も家畜も絶ち滅ぼすなら、18 たとえ、その中にかの三人の人物がいたとしても——わたしは生きていて、と主なる神は言われる——彼らは自分の息子、娘たちすら救うことができない。彼らは自分自身を救うだけである。

19 また、もしわたしがその国に疫病を送り、わたしの怒りをその上に血と共に注ぎ、そこから人も家畜も絶ち滅ぼすなら、20 たとえ、その中にノア、ダニエル、ヨブがいたとしても——わたしは生きていて、と主なる神は言われる——彼らは自分の息子、娘たちすら救うことができない。彼らはその正しさによって、自分自身の命を救うだけである。

21 また、主なる神はこう言われる。わたしがこの四つの厳しい裁き、すなわち、剣、飢饉、悪い獣、疫病をエルサレムに送り、そこから人も家畜も絶ち滅ぼすとき、22 そのに、わずかの者が残されるであろう。息子、娘たちは逃れて救い出され、お前たちの所に出て来る。お前たちは彼らの歩みと行いを見るとき、わ

るとき、彼らはわたしが主なる神であることを知るようになる。23 わたしはこの地を荒廢させる。彼らがわたしに不信を重ねたからである」と主なる神は言われる。

エルサレムの背信

16 1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、エルサレムにその忌まわしいことを知らせなさい。3 あなたは言わねばならない。主なる神は、エルサレムに対してこう言われる。お前の出身、お前の生まれはカナン人の地。父はアモリ人、母はヘト人である。4 誕生について言えば、お前の生まれた日に、お前のへその緒を切ってくれる者も、水で洗い、油を塗ってくれる者も、塩でこすり、布にくるんでくれる者もいなかった。5 だれもお前に目をかけず、これらのことの一つでも行って、憐れみをかける者はいなかった。6 しかし、わたしがお前の傍らを通って、お前が自分の血の中でもがいているのを見たとき、わたしは血まみれのお前に向かって、『生きよ』と言った。血まみれのお前に向かって、『生きよ』と言ったのだ。

7 わたしは、野の若草のようにお前を栄えさせた。それでお前は、健やかに育ち、成熟して美しくなり、胸

の形も整い、髪も伸びた。だが、お前は裸のままであつた。8その後、わたしがお前の傍らを通つてお前を見たときには、お前は愛される年ごろになつてゐた。そこでわたしは、衣の裾を広げてお前に掛け、裸を覆つた。わたしはお前に誓いを立てて、契約を結び、お前は、わたしのものになつた、と主なる神は言われる。

9わたしはお前を水で洗い、血を洗い落とし、油を塗つた。10そして、美しく織つた服を着せ、上質の革靴を履かせ、亜麻布を頭にかぶらせ、絹の衣を掛けてやつた。11わたしはまた、装身具をお前につけ、腕には腕輪、首には首飾りをつけた。12また、鼻に飾りの輪を、耳には耳輪を、頭には美しい冠をかぶらせた。13こうして、お前は金銀で身を飾り、亜麻布と絹とで美しく織つた服を身に着けた。そして小麦粉と蜂蜜と油を食物とした。こうしてお前は非常に美しくなり、女王のようになつた。14その美しさのゆえに、お前の名は国々の間に広まつた。わたしがお前を装わせた装いには、少しも欠けるところがなかつたからである、と主なる神は言われる。

15それなのに、お前はその美しさを頼みとし、自分の名声のゆえに姦淫を行つた。お前は通りかかる者すべてにこびを売り、身をまかせた。16また、自分の着てお前の上に乗ばして、お前の分け前を奪ひ、敵であるペリシテの女たちに渡し、その意のままにさせる。彼女たちはお前のみだらな行いにあきれ果ててゐる。28それでも、お前は飽き足らず、アシュルの人々と姦淫を行つた。彼らと姦淫を行つてもまだ飽きず、29商業の地カルデアと淫行を重ねたが、それでもなお飽き足らなかつた。30お前の心はなんとひどい熱病にかかつてゐることか、と主なる神は言われる。厚かましい淫婦が行うこれらすべてのことをしてゐるとは、31お前はすべての四つ辻に祭儀台を設け、すべての広場に高い所を造つた。お前は報酬を受け取ることを潔しとしなかつたから、娼婦とは違つてゐた。

32お前は、自分の夫の代わりに外国の男と通じる淫行の妻だ。33すべての娼婦に対して人は金を払う。ところが、お前はすべてをお前を愛する者に、お前の方から贈り物をし、賄賂を贈り、姦淫をするために人々を四方からお前のもとに來させる。34お前の姦淫は他の女たちとは逆である。だれも、お前を誘つて姦淫したのではない。お前が報酬を支払われるのではなく、お前の方から報酬を支払つてゐるところが逆である。

35それゆえ、姦淫の女よ、主の言葉を聞け。36主なる神はこう言われる。お前が、愛を求める者と姦淫するために、欲情を注ぎ、裸をさらしたために、また、

物の中から選び出して、華やかな床をすつらえ、その上で姦淫を行つた。このようなことは、かつてなかつたし、これからもあつてはならないことだ。17お前はまた、わたしが与えた金銀の美しい品々を取つて男の像を造り、それと姦淫を行つた。18お前は美しく織つた服をとつてそれらの像に着せ、わたしの油と香をその前に供えた。19また、お前はわたしが与えた食物、お前を養つてきた小麦粉、油、蜜をその前に供えて、有めの香りとした、と主なる神は言われる。

20お前はまた、わたしのために産んだお前の息子、娘たちをととり、偶像の食物として供えた。お前の姦淫はまだ足りないのか。21お前はわたしの子供たちを殺し、火に焼いて偶像にささげた。22お前は、あらゆる忌まわしいことや姦淫を行つてゐるあいだ、幼いときに裸で血の中をながいでいたことを思い起こさなかつた。

23ああ、なんと災いなことか、お前は、と主なる神は言われる。すべての悪事の後に、24お前は祭儀台を設け、すべての広場に高い所を造り、25すべての四つ辻には高い所を設けて、お前の美しさを活した。また、傍らを通るすべての者に両脚を広げ、姦淫を重ねた。26お前はまた、肉欲の強い隣国エジプト人たちと姦淫を行い、姦淫を重ねてわたしを怒らせた。27わたしは

すべての忌まわしい偶像と、それにささげたお前の息子たちの血のゆえに、27わたしは、お前がもてなしたすべての愛人たち、お前の好きだつた者も嫌いだつた者もすべて集める。わたしは彼らを至るところからお前のもとに集め、お前の裸を彼らにさらす。彼らはお前の裸をくまなく見る。38わたしは、お前を淫行と流血のゆえに裁く。また、怒りと熱情をもって、お前の流血に報いる。39更にわたしは、お前を彼らの手に渡す。彼らはお前の祭儀台を倒し、高い所を破壊し、お前の着物をはぎ取り、美しい飾りを取り去つてお前を裸にする。40彼らは群衆を駆り立ててお前に向かわせ、石を投げさせ、剣で切りつけさせる。41彼らは火でお前の家を焼き、多くの女たちの見ている前でお前を裁く。こうして、わたしはお前に姦淫をやめさせる。お前は二度と報酬を支払わない。42わたしがお前に対する怒りを静め、わたしの熱情がお前から離れるとき、わたしの心は休まり、もはや怒ることはない。43お前が、若い日々のことを思い起こさず、これらすべてのお前の行いを頭に報いる、と主なる神は言われる。お前はすべての忌まわしいことに加えて、この悪事を行つたではないか。44お前についてことわざを語る者は、すべて、ことわざを用いてこう言う。『この母に

してこの娘あり」と。45 お前は、自分の夫と息子たちを捨てた母の娘であり、自分の夫と息子たちを捨てた姉妹たちの一人である。お前の母はヘト人、父はアモリ人である。46 お前の姉はサマリアであり、彼女とその娘たちはお前の北に住んでいる。また、お前の南に住んでいるお前の妹はソドムとその娘たちである。47 お前は彼女たちの道を歩んで、忌まわしいことを行つたばかりでなく、やがて、すべての道において、彼女たちよりもいっそう墮落した。

48 わたしは生きていて、と主なる神は言われる。お前の妹であるソドムも、その娘たちも、お前とお前の娘たちが行つたようなことはしなかった。49 お前の妹、ソドムの罪はこれである。彼女とその娘たちは高慢で、食物に飽き安閑と暮らしていながら、貧しい者、乏しい者を助けようとしなかった。50 彼女たちは傲慢にも、わたしの目の前で忌まわしいことを行つた。そのために、わたしが彼女たちを滅ぼしたのは、お前の見たとおりである。51 また、サマリアは、お前の過ちの半分も過ちを犯さなかった。お前は彼女たちよりも多くの忌まわしいことを行つた。お前が行つたすべての忌まわしいことに比べれば、お前の姉妹は正しい者のようにさえ見えた。52 お前は、姉妹よりも忌まわしいことを行つた罪によって、彼女たちの咎を軽

姉たちと妹たちを受け入れるとき、恥を負うであらう。わたしは、彼女たちを娘としてお前に与える。しかしお前が契約を守つたからではない。62 わたしがお前と契約を立てるとき、お前はわたしが主であることを知るようになる。63 こうして、お前が行つたすべてのことについて、わたしがお前を救すとき、お前は自分のしたことを思い起こして恥じ、自分の不名誉のゆえに、二度と口を開くことはできなくなる」と主なる神は言われる。

二羽の鷲とぶどうの木

17 1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、イスラエルの家に向かつて謎をかけ、たとえを語

りなさい。3 あなたは言わねばならない。主なる神はこう言われる。大きな翼と長い羽をもち、彩り豊かな羽毛に覆われた大鷲がレバノンに飛来する。

4 その鷲はレバノン杉の梢を切り取り

その頂の若い枝を折つて、商業の地に運び、商人の町に置いた。

5 また、その地の種を取って苗床に蒔き、苗を豊かな水のほとりに柳のように植えた。

くした恥辱を負わねばならない。お前は自分の姉妹を正しい者のようにしたことを恥じ、その恥辱を負わねばならない。53 わたしは、捕らわれた彼女たちを帰らせる。すなわち、捕らわれたソドムとその娘たち、捕らわれたサマリアとその娘たち、および彼女たちと共に捕らわれたお前たちを帰らせる。54 お前は自分の不名誉を負わねばならない。また、お前が彼女たちを慰める結果となつたすべての行いのゆえに、不名誉を負わねばならない。55 お前の妹であるソドムと、その娘たちは元の姿に帰り、サマリアとその娘たちも元の姿に帰り、また、お前と娘たちも元の姿に帰るであろう。56 お前が高慢になつたとき、妹ソドムのうわさは既にお前の口にも上つていたのでないか。57 それは、お前の悪があらわになる前のことである。しかし今では、アラムの娘たちとその周囲の者たち、および、お前を周囲から侮つていっているペリシテの娘たちに嘲られている。58 お前は自分の悪と忌まわしい行いと責めを負わねばならない、と主は言われる。

59 主なる神はこう言われる。お前が行つたように、わたしもお前に対して行う。お前は誓いを軽んじ、契約を破つた。60 だが、わたしは、お前の若い日にお前と結んだわたしの契約を思い起こし、お前に対して永遠の契約を立てる。61 お前は自分の道を思い起こし、

6 やがてそれは育ち、低く生い茂るぶどうの木となった。

その枝は鷲の方に向かつて伸び

根はその鷲の下に張り

若枝を広げ、つるの伸びたぶどうの木となった。

7 また、もう一羽の大鷲がいた。

これも大きな翼と多くの羽毛を持っていた。

このぶどうの木は

その植えられていた場所から

根をこの鷲の方に向け

若枝をこの鷲の方に伸ばして

水を得ようとした。

8 このぶどうの木は

枝を伸ばし、実を結ぶ

立派なぶどうの木となるように

水の豊かなよい地に植えられていた。

9 語れ。主なる神はこう言われる。

このぶどうの木は成長するだろうか。

その根は引き抜かれ

実ほもぎ取られないだろうか。

芽生えた葉はすべてしおれてしまわないだろうか。

それはしおれてしまう。

それを根から引き抜くのに

大きな力も、多くの人も必要としない。
 10 それは植えられたが、果たして成長するだろうか。東風が吹きつけたなら、

おれてしまわないだろうか。その芽を出した場所、しおれるであろう。

11 主なる神の言葉がわたしに臨んだ。12 さあ、この叛逆の家に語りなさい。このたとえが何を意味するか、お前たちには分からないのか。バビロンの王がエルサレムに来て、王とその家来たちを捕らえ、彼らをバビロンへ連れて行った。13 そして、王の子らの一人を選び、これと契約を結び、誓いを立てさせ、更に、この国の有力者をも連れて行った。14 それは、この王国が高ぶることなく従順になり、契約を守り続けるようにさせるためであった。15 しかし、彼は王に背き、エジプトに使者を送って馬と軍勢を得ようとした。果たして、それでうまくいくだろうか。こんなことをして助かるだろうか。契約を破っておきながら、助かるだろうか。16 わたしは生きていて、と主なる神は言われる。彼は、自分を王位につけた大王に対する誓いを軽んじ、彼との契約を破ったので、大王の国バビロンで必ず死ぬ。17 戦いになって、壘が築かれ、堡壘が建てられ、多くの命が滅ぼされようとも、フアラオは彼

のために、強力な軍隊や多数の兵隊をもって戦いしない。18 彼は誓いを軽んじ、契約を破った。彼は約束をしながら、これらすべての事を行った。彼は逃れることができない。

19 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしは生きていて。わたしは、彼が軽んじたわたしの誓いと、彼が破ったわたしの契約とを、必ず彼の頭上に報いやる。20 わたしは彼の上に網を広げ、彼はわたしの罠にかかる。わたしは彼をバビロンへ連れて行き、彼がわたしに対して行った背信のゆえに、その地で彼を裁く。21 彼の全軍の中で、逃れた者もすべて剣に倒れ、更に残った者がいても四方に散らされる。そのとき、お前たちは、主であるわたしが語ったことを知るようになる。

22 主なる神はこう言われる。わたしは高いレバノン杉の梢を切り取って植え、その柔らかい若枝を折って、高くそびえる山の上に移植植える。23 イスラエルの高い山にそれを移植植えると、それは枝を伸ばし実をつけ、うっそうとしたレバノン杉となり、あらゆる鳥がそのもとに宿り、翼のあるものはすべてその枝の陰に住むようになる。24 そのとき、野のすべての木々は、主であるわたしが、高い木を低くし、低い木を高くし、また生き生きとした木を枯らし、枯れた木を茂

らせることを知るようになる。主であるわたしがこれを語り、実行する。

各人の責任

18 1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 「お前たちがイスラエルの地で、このことわざを繰り返して口

にしているのはどういふことか。『先祖が酸いぶどうを食べれば子孫の歯が浮く』と。

3 わたしは生きていて、と主なる神は言われる。お前たちはイスラエルにおいて、このことわざを二度と口にするのではない。4 すべての命はわたしのものである。父の命も子の命も、同様にわたしのものである。罪を犯した者、その人が死ぬ。

5 もし、ある人が正しく、正義と恵みの業を行うなら、6 すなわち、山の上で偶像の供え物を食べず、イスラエルの家の偶像を仰ぎ見ず、隣人の妻を犯さず、生理中の女性に近づかず、人を抑圧せず、負債者の質物を返し、力づくで奪わず、飢えた者に自分のパンを与え、裸の者に衣服を着せ、8 利息を天引きして金を貸さず、高利を取らず、9 わたしの掟に従って歩み、わたしの裁きを忠実に守るなら、彼こそ正しい人で、彼

は必ず生きる、と主なる神は言われる。

10 彼に生まれた息子が乱暴者で、これらの事の一つでも行う人の血を流し、11 自分自身はこれらすべての事の一つですら行わず、かえって山の上で偶像の供え物を食べ、隣人の妻を犯し、12 貧しい者、乏しい者を抑圧し、力づくで奪い、質物を返さず、偶像を仰ぎ見て忌まわしいことを行い、13 利息を天引きして金を貸し、高利を取るならば、彼は生きることができようか。彼は生きることができない。彼はこれらの忌まわしいことをしたのだから、必ず死ぬ。その死の責任は彼にある。

14 ところで、その人にまた息子が生まれ、彼が父の行ったすべての過ちを見て省み、このような事を行わないなら、15 すなわち、山の上で偶像の供え物を食べず、イスラエルの家の偶像を仰ぎ見ず、隣人の妻を犯さず、16 人を抑圧せず、質物を取らず、力づくで奪わず、飢えた者に自分のパンを与え、裸の者に衣服を着せ、17 貧しい者の抑圧から手を引き、天引きの利息や高利を取らず、わたしの裁きを行い、わたしの掟に従って歩むなら、彼は父の罪のゆえに死ぬことはない。必ず生きる。18 彼の父は搾取を行い、兄弟のものを力づくで奪い、自分の民の中で善くない事をしたので、自分の罪のゆえに死んだのである。19 それなのに

お前たちは、『なぜ、子は父の罪を負わないのか』と云う。しかし、その子は正義と恵みの業を行い、わたしの掟をことごとく守り、行ったのだから、必ず生きる。20 罪を犯した本人が死ぬのであって、子は父の罪を負わず、父もまた子の罪を負うことはない。正しい人の正しさはその人だけのものであり、悪人の悪もその人だけのものである。

21 悪人であっても、もし犯したすべての過ちから離れて、わたしの掟をことごとく守り、正義と恵みの業を行うなら、必ず生きる。死ぬことはない。22 彼が行ったすべての背きは思い起こされることなく、行った正義のゆえに生きる。23 わたしは悪人の死を喜ぶだろうか、と主なる神は言われる。彼がその道から立ち帰ることによって、生きることを喜ばないだろうか。24 しかし、正しい人でも、その正しさから離れて不正を行い、悪人がするようなすべての忌まわしい事を行うなら、彼は生きることができようか。彼の行ったすべての正義は思い起こされることなく、彼の背信の行為と犯した過ちのゆえに彼は死ぬ。

25 それなのにお前たちは、『主の道は正しくない』と云う。聞け、イスラエルの家よ。わたしの道が正しくないのか。正しくないのは、お前たちの道ではないのか。26 正しい人がその正しさから離れて不正を行い、

そのゆえに死ぬなら、それは彼が行った不正のゆえに死ぬのである。27 しかし、悪人が自分の行った悪から離れて正義と恵みの業を行うなら、彼は自分の命を救うことができる。28 彼は悔い改めて、自分の行ったすべての背きから離れたのだから、必ず生きる。死ぬことはない。29 それなのにイスラエルの家は、『主の道は正しくない』と言う。イスラエルの家よ、わたしの道が正しくないのか。正しくないのは、お前たちの道ではないのか。

30 それゆえ、イスラエルの家よ。わたしはお前たちひとりひとりをその道に従って裁く、と主なる神は言われる。悔い改めて、お前たちのすべての背きから立ち帰れ。罪がお前たちをつまずかせないようにせよ。

31 お前たちが犯したあらゆる背きを投げ捨てて、新しい心と新しい霊を造り出せ。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。32 わたしはだれの死をも喜ばない。お前たちは立ち帰って、生きよ」と主なる神は言われる。

君侯たちの悲しみの歌

19 1 イスラエルの君侯たちのために、あなたは悲しみの歌をうたって、2 言いなさい。
お前の母は獅子たちの中であって

ベビロンの王のもとに連れて行かれた。

彼らは獄に彼を閉じ込め

二度とその声が、イスラエルの山々に

聞こえないようにした。

10 お前の母は水のほとりに植えられた

園のぶどうの木のようにだ。

多くの水のゆえに

豊かに実を結ぶ枝を張った。

11 その木には

支配者たちの杖となる強い枝があった。

丈は雲間に届くほど高くなり

丈高く、枝が多いゆえに際立って見えた。

12 怒りによって、木は引き抜かれ

地に投げ捨てられた。

東風はその実を枯らし

強い枝はもぎ取られて枯れ

火がそれを焼き尽くした。

13 今や、その木は

荒れ野に、乾いた水なき地に

移し植えられた。

14 また、若枝の茂る太い枝から

どんな雌獅子だったろうか。

お前の母は子獅子の間に伏し

若獅子たちを育てた。

3 お前の母は子獅子の中から一頭を取り上げた。

その子獅子は若獅子に成長し

獲物を取ることを覚え

人々を餌食とした。

4 しかし、諸国の民は子獅子について聞いた。

畏に捕らえられ、鉤にかけられて

エジプトの地へ連れて行かれたと。

5 お前の母は期待が破れ、望みがうせたのを見て

別の子獅子を取り、若獅子に育てた。

6 この子獅子は獅子たちの間を歩き回り

若獅子に成長し

獲物を取ることを覚え

人々を餌食とした。

7 彼は彼らの城郭を破壊し、町々を荒廃させた。

そのほえたける声に

地と地を満たすものはおびえた。

8 諸国民は周囲の国々から彼に立ち向かい

彼の上に網を広げ

彼は畏に捕らえられた。

9 彼は鉤にかけられ、籠に入れられ

18 わたしは、荒れ野で彼らの子供たちに語った。『お前たちの父祖の掟に従って歩んではならない。彼らの裁きを守ってはならない。また、彼らの偶像で自らを汚してはならない。』19 わたしはお前たちの神、主である。お前たちは、わたしの掟に従って歩み、わたしの裁きを守り行い、20 わたしの安息日を聖別して、わたしとお前たちとの間のしるしとし、わたしがお前たち

ラエルの家は荒れ野でわたしに背き、人がそれを行えば生きることができるとわたしの掟に歩まず、わたしの裁きを退け、更に、わたしの安息日を甚だしく汚した。それゆえ、わたしは荒れ野で、憤りを彼らの上に注ぎ、彼らを滅ぼし尽くそうとした。14 しかし、わが名のために、わたしがイスラエルを連れ出したときに見ていた諸国民の前で、わが名を汚すことがないようにした。15 ただし、荒れ野で彼らに誓い、わたしが与えた土地、乳と蜜の流れる地、すべての国々の中で最も美しい土地に、彼らを導き入れることはしないと告げた。16 それは、彼らがわたしの裁きを退け、わたしの掟に従って歩まず、わたしの安息日を汚したからだ。彼らの心は、自分たちの偶像にひかれていたのだからである。17 それでも、わたしの目は彼らを憐れんで、彼らを滅ぼさなかった。彼らを荒れ野で滅ぼし尽くすことはしなかった。

の神、主であることを知れ』と。21 しかし、子供たちもわたしに背き、人がそれを行えば生きることができるとわたしの掟に歩まず、わたしの裁きを守り行わず、わたしの安息日を汚した。それゆえ、わたしは荒れ野で彼らの上に憤りを注ぎ、怒りを浴びせると言った。22 しかし、わたしは手を引き戻し、わが名のために、わたしがイスラエルを連れ出したときに見ていた諸国民の前でわたしの名を汚すことがないようにした。23 ただし、わたしは荒れ野で彼らに誓い、彼らを諸国民の間に散らし、諸国に追いやると告げた。24 なぜなら、彼らがわたしの裁きを行わず、わたしの掟を退け、わたしの安息日を汚し、彼らの父祖の偶像に目をひかれていたからである。25 わたしもまた、良くない掟と、それによって生きることができない裁きを彼らに与えた。26 また、彼らが初子をすべてささげたとき、わたしは彼らの献げ物によって彼らを汚した。それは、わたしが彼らを荒廃させ、わたしが主であることを知らせるためであった。

27 それゆえ、イスラエルの家に語りなさい。人の子よ、彼らに言いなさい。主なる神はこう言われる。お前たちの父祖は、わたしに対して裏切りを行い、またもや、わたしを冒瀆した。28 わたしが与えると誓ったその地に彼らを導き入れたとき、彼らは高い丘や茂っ

火が出て、実を焼き尽くした。それゆえ、この木には支配者の杖となる強い枝はなくなった。この歌は悲しみの歌。悲しみの歌としてうたわれた。

エジプトからの救いと背信

20

1 第七年の五月のことであった。その月の十日に、イスラエルの長老たち数人が、主の御心を問うために来て、わたしの前に座った。2 そのとき、主の言葉がわたしに臨んだ。3 人の子よ、イスラエルの長老たちに語り、彼らに言いなさい。主なる神はこう言われる。お前たちはわたしの意志を問うために来たのか。わたしは生きています。お前たちが尋ねても、わたしは答えない、と主なる神は言われる。4 あなたは彼らを裁くのか。人の子よ。彼らを裁くのなら、彼らの先祖たちの行った忌まわしいことを彼らに告げなさい。5 彼らに言いなさい、と主なる神はこう言われる。

わたしがイスラエルを選んだ日に、わたしはヤコブの子孫に誓い、エジプトの地で彼らにわたしを知らせたとき、彼らに誓って、わたしはお前たちの神、主であると誓った。6 その日、わたしは彼らに誓い、

わたしは彼らをエジプトの地から連れ出して、彼らのために探し求めた土地、乳と蜜の流れる地、すべての国々の中で最も美しい土地に導く、と言った。7 わたしはまた、彼らに言った。『おのおの、目の前にある憎むべきものを投げ捨てよ。エジプトの偶像によって自分を汚してはならない。わたしはお前たちの神、主である』と。8 しかし、彼らはわたしに逆らい、わたしに聞き従おうとはしなかった。おのおの、目の前の憎むべきものを投げ捨てず、エジプトの偶像を捨てようとはしなかった。そこで、わたしは言った。『わたしは憤りを彼らの上に注ぎ、エジプトの地でわたしの怒りを浴びせると。』9 しかし、わたしはわが名のために、彼らがその中に住んでいる諸国民の目の前では、わが名を汚すことがないようにした。その諸国民の目の前で、わたしはイスラエルをエジプトの地から導き出して、わたしを示したのである。

10 わたしは、彼らをエジプトの地から連れ出し、荒れ野に導いた。11 そして、彼らにわたしの掟を与え、わたしの裁きを示した。人がそれを行えば、それによって生きることができると。12 また、わたしは、彼らにわたしの安息日を与えた。これは、わたしと彼らとの間のしるしとなり、わたしが彼らを聖別する主であることを、彼らが知るためであった。13 しかし、イス

た木を見ると、どこでも、いけにえをささげ、わたしを怒らせる供え物をささげた。彼らはまた、そこで有めの香りをたき、ぶどう酒の献げ物を注ぎかけた。29 わたしは彼らに言った。『お前たちが通う聖なる高台は一体何か』と。それゆえ、今日までその場所の名は、聖なる高台と呼ばれている。

30 それゆえ、イスラエルの家に言いなさい。主なる神はこう言われる。お前たちは父祖の歩みに従って自らを汚し、彼らの憎むべき偶像と姦淫を行ってきた。

31 また、自分の子供を献げ物として火の中を通らせ、すべての偶像によって今日に至るまで自らを汚している。それなのに、イスラエルの家よ、わたしはお前たちの求めに応じられようか。わたしは生きている、と主なる神は言われる。わたしは決してお前たちの求めには応じない。

32 お前たちは、『我々は諸国民のように、また、世界各地の種族のように、木や石の偶像に仕えよう』と言っているが、お前たちが心に思うそのようなことは決して実現しない。33 わたしは生きている、と主なる神は言われる。わたしは必ず、強い手と伸ばした腕と、溢れる憤りをもって、お前たちを治める。34 強い手と伸ばした腕と、溢れる憤りをもって、わたしはお前たちを諸国民の民の中から連れ出し、散らされた国々から

集める。35 わたしはお前たちを、諸国民の荒れ野に導き、顔と顔を合わせてお前たちを裁く。36 お前たちの父祖をエジプトの国の荒れ野で裁いたように裁く、と主なる神は言われる。37 わたしは、お前たちを牧者の杖の下を通して、契約のきずなのもとに導く。38 わたしはお前たちの中から、わたしに逆らい、背く者を分離する。わたしは、彼らを寄留の地から連れ出すが、彼らはイスラエルの土地に入ることはできない。そのとき、お前たちはわたしの主であることを知るようになる。

39 お前たちイスラエルの家よ、主なる神はこう言われる。おの自分の偶像のもとに行き、それに仕えよ。その後、お前たちは必ずわたしに聞き従い、二度と偶像に贈り物をささげて、わたしの聖なる名を汚すことはなくなる。40 わたしの聖なる山、イスラエルの高い山で、と主なる神は言われる。そこにおいてのみ、この地にいるイスラエルの家はすべて、こぞってわたしに仕える。そこでのみ、わたしは彼らを受け入れ、その所で、献げ物と聖なる最上の供え物を求める。41 わたしは、有めの香りと共に、お前たちを受け入れる。わたしが諸国民の民の中から連れ出し、散らされていた国々から集めるとき、わたしは諸国民の前で、お前たちに自分を聖なる者として示す。42 わたしが、先

祖に与えたと誓った地、イスラエルの土地に導き入れるとき、お前たちはわたしの主であることを知るようになる。43 その所で、お前たちは自分の歩んだ道、自分を汚したすべての行いを思い起こし、自分の行ったあらゆる悪のゆえに自分を嫌悪するようになる。44 お前たちの悪い道や墮落した行いによることなく、わが名のゆえに、わたしが働きかけるとき、イスラエルの家よ、お前たちはわたしの主であることを知るようになる』と主なる神は言われる。

エルサレムに向けられる剣

21

1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、顔をテマンに向け、ダロムに向かって言葉を書き出し、ネゲブの野の森に向かって預言せよ。3 ネゲブの森に言いなさい。主の言葉を聞け。主なる神はこう言われる。わたしはお前に火をつける。火は、お前の青木も枯れ木も焼き尽くす。燃え盛る炎は消えず、地の面は南から北まで、ことごとく焦土と化する。4 生ける者は皆、主なるわたしがそれを焼き尽くしたことを認めるようになる。その火は消えることがない。5 そのとき、わたしは言った。『ああ、主なる神よ、彼らはわたしについて、『彼はことわざを語る者にすぎないではないか』と言っています』と。

6 そのとき、主の言葉がわたしに臨んだ。7 「人の子よ、顔をエルサレムに向け、聖所に向かって言葉を書き出し、イスラエルの地に対して預言せよ。8 イスラエルの地に向かって言いなさい。主はこう言われる。わたしはお前に立ち向かい、わたしの剣の鞘をはらい、お前たちの中の正しい者も悪い者も切り捨てる。9 わたしがお前たちの中から、正しい者も悪い者も切り捨てるために、わたしの剣は鞘を離れ、南から北まで、すべての生ける者に向かう。10 そのとき、生ける者は皆、主なるわたしが剣を鞘から抜いたことを知るようになる。剣は二度と鞘には戻らない。

11 人の子よ、呻け。人々の前で腰をよるめかし、苦しみを呻け。12 人々があなたに、『どうして呻いているのか』と問うならば、彼らに答えて言いなさい。『この知らせが届いたからだ』と。すべての人は勇気を失い、手は力なく垂れ、すべての霊は力を失い、すべての膝は水のように力を失う。知らせが届いた。それは実現する』と主なる神は言われる。

13 主の言葉がわたしに臨んだ。14 「人の子よ、預言して言いなさい。主なる神はこう言われる。剣だ。剣が研がれ、磨かれた。15 殺戮のためにそれは研がれ、稲妻のように磨かれた。

我らは喜びうるか
わが子の王笏が
他のすべての杖を侮るのを。
16 この剣は磨くために渡され
手に握られる。
また、殺す者の手に渡されるために
研がれ、磨かれる。

17 泣き叫べ、人の子よ。
剣がわが民に臨む。

また、イスラエルのすべての君侯に臨む。
彼らはわが民と共に

剣の前に投げ出される。

それゆえ、お前は腿を打って悲しめ。
18 それは試みを経たものである。もし、それが侮る杖
でないとしたら、一体何であろう、と主なる神は言わ
れる。

19 人の子よ、手を打ち鳴らして預言しなさい。

剣は二倍になり、また三倍になる。

それは殺戮の剣

彼らに貫く大いなる殺戮の剣。

20 それにより、人々の心は溶け
つまずく者が増える。

に頼っている。しかし、それは彼らの罪を思い起こさ
せ、彼らは捕らわれの身となる。

29 それゆえ、主なる神はこう言われる。お前たちは
罪を思い起こされ、背きがあらわにされ、過ちが自ら
のすべての行いによって示され、まさにこれらのこと
が思い起こされたゆえに、お前たちは敵の手に捕らえ
られる。30 悪に汚れたイスラエルの君主よ、お前の日
が、終わりの刑罰の時にやって来る。

31 主なる神はこう言われる。頭巾をはずし、冠を取
れ。これはこのままであるはずがない。高い者は低く
され、低い者は高くされる。32 荒廃、荒廃、荒廃をわ
たしは都にもたらず。かつてこのようなことが起こっ
たことはない。それは権威を身に帯びた者が到来する
までである。わたしは権威を彼に与える。」

33 人の子よ、あなたは預言して言いなさい。主なる
神は、アンモン人とその嘲りに対してこう言われる。
あなたは言いなさい。

「剣よ。剣は殺戮のために抜かれ、きらめくまでに
磨き上げられる。34 彼らがお前に空しい幻を示し、
欺きの占いを行なったゆえに、剣は悪に汚れた者どもの
首に置かれる。彼らの日が、終わりの刑罰の時にやっ
て来る。」

すべての門に、殺戮の剣をわたしは送る。

ああ、剣は稲妻のようにきらめき
殺すために、引き抜かれる。

21 刃を鋭くせよ。

右に向かい、また、左に向かい

お前の向かう所へどこへでも。

22 わたしもまた手を打ち鳴らし

憤りに身をまかせよう。」

主なるわたしがこれを語った。

23 主の言葉がわたしに臨んだ。24 人の子よ、あなた
はバビロンの王の剣が来るために、二つの道を用意せ
よ。二つの道の一つの国から延ばし、それぞれの町へ
至る道が分かれる地点に標識を作り、25 剣が、アンモ
ン人のラバおよびユダの堅固な都エルサレムに進みう
るように道を備えなさい。26 バビロンの王は二つの道
の分かれる地点に立ち、そこで占いを行う。彼は矢を
振り、テラフイムに問い、肝臓を見る。27 彼の右の手
に、エルサレムに対する占いが出る。占いは破城槌を
置き、殺戮を宣言し、戦いの呼び声をあげ、門に向
かって破城槌を置き、塁を築き、堡塁を建てよ、と命
ずる。28 それはエルサレムの民の目には空しい占いの
ように思われる。彼らは自分のために立てられた誓い

35 剣をもとの鞘に納めよ。お前が創造された場所、
お前の出身地で、わたしはお前を裁く。36 わたしは
憤りをお前の上に注ぎかけ、怒りの火をお前に吹き
つける。わたしは、滅ぼすことにつけた荒々しい者た
ちの手にお前を渡す。37 火はお前を焼き尽くし、お前
の血は国の真ん中に流されるが、お前は思い出される
こともない。」主なるわたしがこれを語った。

流血の町

22

1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 人の子よ、あ
なたはこの流血の都を裁くのか。それならば、
この都にそのすべての忌まわしいことを知らせよ。
3 そして言いなさい。主なる神はこう言われる。自ら
の真ん中に血を流し、自分の時を来させようとする都
よ。自分のために偶像を造って、自らを汚す都よ。
4 流した血によってお前は罪を負い、造った偶像に
よって汚される。こうしてお前は自分の日を近づか
せ、自分の年を来させる。それゆえ、わたしはお前を
諸国民の嘲りの的とし、すべての国々の笑いものとし
る。5 近くの者も遠くの者も、自分の名を汚して混乱
に満ちているお前を嘲笑うだろう。6 イスラエルの君
侯たちは、お前のおの力を振るい、血を流し
ている。7 父と母はお前の中で軽んじられ、お前の中

に住む他国人は虐げられ、孤児や寡婦はお前の中で苦しめられている。8 お前はわたしの聖なるものをさげすみ、わたしの安息日を汚した。9 お前の中には、血を流すために人を中傷する者がおり、山の上の聖所で食事し、お前の中で恥ずべき事を行う者たちがいる。10 またお前の中には、父を辱めたり、生理中の女性を犯す者たちがいる。11 ある者は隣人の妻と忌まわしい事を行い、ある者は、恥ずべき事を行って嫁を犯し、またある者は異母姉妹を凌辱する。12 お前の中には賄賂を取って流血の罪を犯す者、利息を天引きして金を貸したり、高利を取って隣人を抑圧する者がいる。お前はわたしを忘れた、と主なる神は言われる。13 わたしは、お前が得た不正の利益に対し、またお前の中で流された血に対して、わたしの手を打ち鳴らす。14 わたしが裁きを行う日に、お前の心は耐えられようか。お前の手の力はうせないだろうか。主であるわたしが、これを語りこれを行う。15 わたしはお前を諸国民の間に散らし、国々にまき散らす。わたしはお前の汚れを取り除く。16 お前は諸国民の前で自分の罪によって汚される。こうして、お前はわたしが主であることを知るようになる。

17 主の言葉がわたしに臨んだ。18 人の子よ、イスラエルの家はわたしにとって金滓のようになった。彼らをお殺す。28 また、預言者たちは、城壁に漆喰で上塗りをした。彼らは空しい幻を見、欺きの占いをし、主が語られないのに、『主なる神はこう言われる』と言った。29 国の民は抑圧を行い、強奪をした。彼らは貧しい者、乏しい者を苦しめ、寄留の外国人を不当に抑圧した。30 この地を滅ぼすことがないように、わたしは、わが前に石垣を築き、石垣の破れ口に立つ者を彼らの中から探し求めたが、見いだすことができなかった。31 それゆえ、わたしは憤りを彼らの上に注ぎ、怒りの火によって彼らを滅ぼし、彼らの行いの報いをその頭上に返す」と主なる神は言われる。

オホラとオホリバ

23

1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 人の子よ、かつて二人の女性がいた。彼女たちは同じ母の娘であった。3 彼女たちはエジプトで淫行を行った。まだ若いのに淫行を行った。その地で、彼女たちの乳房は握られ、処女の乳首は摘まれた。4 彼女たちの名は、姉はオホラ、妹はオホリバといった。彼女たちはわたしのものとなり、息子、娘たちを産んだ。彼女たちの名前であるオホラはサマリア、オホリバはエルサレムのことである。

5 オホラはわたしのもとにいながら、姦淫を行い、

は妒の中で、みな銀、銅、錫、鉄、鉛などであった。ところが彼らは金滓となってしまった。19 それゆえ、主なる神はこう言われる。お前たちがみな金滓となったので、わたしはお前たちをエルサレムの真ん中に集める。20 銀、銅、鉄、鉛、錫が妒の中に集められ、火を吹きつけて溶かされるように、わたしも怒りと憤りをもってお前たちを集め、火を吹きつけて溶かす。21 わたしがお前たちを集め、わたしの怒りの火を吹きつけると、お前たちはその中で溶ける。22 銀が妒の中で溶けるように、お前たちもその中で溶ける。そのとき、お前たちは主なるわたしが、憤りをお前たちの上に注いだことを知るようになる。

23 主の言葉がわたしに臨んだ。24 人の子よ、エルサレムに語りなさい。お前は憤りの日に、雨も降らず清められることもない土地だ。25 都の中に預言者たちの陰謀がある。獅子がほえ、獲物を引き裂くように、都の中で人々は食われ、富や財宝が奪われ、やもめの数は増した。26 祭司たちはわたしの律法を犯し、わたしの聖なるものを汚した。彼らは聖と俗とを区別せず、浄と汚れの区別を教えず、わたしの安息日に目を覆った。こうして、わたしは彼らの間で汚されている。27 また、高官たちは都の中で獲物を引き裂く狼のようだ。彼らは不正の利を得るために、血を流し、人々

その愛人である戦士アッシリア人に欲情を抱いた。6 それは紫の衣を着た高官、知事、長官という皆、好ましい男たち、馬に乗る騎士たちであった。7 彼女はこの者どもと姦淫を行ったが、彼らは皆、アッシリアの支配者たちであった。彼女は欲情を抱いていたすべての者、およびその偶像によって身を汚した。8 彼女はエジプト以来の淫行から離れなかった。人々は彼女の若いときに彼女と寝て、処女の乳首を摘み、淫行を彼女に注いだからである。9 それゆえ、わたしは彼女をその愛人の手に、彼女が欲情を抱いたアッシリアの人々の手に渡した。10 彼らは彼女の裸をあらわにし、彼女の息子、娘たちを奪い、ついに彼女を剣で殺した。このように彼らは彼女を裁き、彼女は女たちの物笑いとなった。

11 妹オホリバはこれを見たが、彼女の欲情は姉よりも激しく、その淫行は姉よりもひどかった。12 彼女はアッシリアの人々に欲情を抱いた。彼らは知事、長官、戦士、盛装した者、馬に乗る騎兵たちで、皆、好ましい男たちであった。13 彼女が自らを汚すのをわたしは見だが、二人とも同じ仕方であった。14 彼女は淫行を更に加え、次には壁に浮き彫りされた人々、朱色に描かれたカルデア人の像に目を留めた。15 彼らは腰に帯を締め、頭には端を垂らすターバンを巻いてお

お前は嘲られ、侮られる。
 杯は満ち溢れている。
 33 お前は酔いと悲しみに満たされる。
 恐れと滅びの杯
 34 お前はそれを飲み干して
 杯のかけらまでかまねばならない。
 35 それゆえ、主なる神はこう言われる。お前はわたしを忘れ、わたしを後ろに投げ捨てたのだから、不貞と淫行の責めを自分で負わねばならぬ。
 36 主はわたしに言われた。人の子よ、あなたはオホラとオホリバを裁くのか。あなたは彼女らにその忌まわしいことを告げ知らせるがよい。37 彼女たちは姦淫を行い、その手には血がある。彼女たちは自分の偶像と姦淫を行った。そしてわたしのために産んだ彼女たちの息子らさえ、食物として偶像にささげた。38 更に、彼女たちはわたしに対して次のことを行った。すなわち、その日にわたしの聖所を汚し、わたしの安息日を汚した。39 彼女たちはその息子を殺して偶像にささげたその日に、わたしの聖所に来てそれを汚した。

このようなことを、彼女たちはわたしの家の中で行った。40 また、彼女たちは遠くから来る者たちのために人を遣わした。彼らのもとに使者が遣わされた。そして、彼らがやって来ると、彼女は彼らのために身を洗い、目にくま取りをし、飾り物で身を飾り、41 華やかなベッドに座った。また、その前に宴の座を用意し、わたしの香と油をそこに置いた。42 そこには、軽薄な群衆、荒れ野から連れて来られた多くの人々の騒ぎの声が起こった。彼らは彼女たちの手に、腕輪をはめ、頭には美しい冠をかぶせた。43 わたしは、淫行に疲れ果てた彼女について言った。今も彼らは彼女と淫行を重ねるのか。また彼女も、44 やはり、彼らは彼女のものとへ行った。遊女のもとに行くように、彼らはこの不貞の女オホラとオホリバのもとへ行った。45 正しい人々は、姦淫の女の裁きと血を流す者の裁きに從って、彼女たちを裁く。彼女たちが姦淫の女であり、その手が血に染まっているからである。
 46 主なる神はこう言われる。彼女たちのために会衆を召集せよ。彼女らを恐怖と略奪の的とせよ。47 会衆は彼女らを石で打ち殺し、剣で切り倒す。また、彼女らの息子、娘たちを殺し、家を火で焼く。48 こうして、わたしはこの地の不貞をやめさせる。すべての女たちはこれに学び、お前たちの不貞に從うことは

り、皆、指揮官のようであった。彼らはカルデア出身のバビロン人の様子をしていた。16 彼女が彼らの有様に目を留めると欲情を抱き、使者をカルデアの彼らのもとに遣わした。17 そこで、バビロンの人々は愛の床を共にするために彼女のもとに來り、淫行をもって彼女を汚した。彼女は彼らと共に自分を汚したが、やがてその心は彼らから離れた。18 彼女がこれ見よがしに姦淫を行い、裸をあらわにしたので、わたしの心は、姉から離れたように彼女からも離れた。19 彼女は、かつてエジプトの地で淫行を行った若いころを思い起こして、淫行を重ねた。20 彼女は、ろばのような肉をもち、馬のような精をもった者の側女であることに欲情を燃やした。21 このように、彼女はエジプトでその若い乳房を握られ、乳首を摘まれた若い日の不貞を再び味わった。
 22 それゆえ、オホリバよ、主なる神はこう言われる。わたしは、お前の心が離れた愛人どもを呼び起こし、お前に立ち向かわせ、彼らを周囲からお前のもとに來させる。23 それはバビロンの人々とカルデアのすべての人々、ペコド、シヨア、コアおよびアッシリアのすべての人々である。彼らは皆、好ましい男たちで、知事、長官、指揮官、戦士、すべて馬に乗る者たちである。24 彼らは、武装した戦車、車、軍勢をもってお前

を攻め、大盾、小盾、兜をもってお前を取り囲む。わたしが裁きを彼らにゆだねたので、彼らは自分たちの裁きの仕方でお前を裁く。25 わたしは熱情をもってお前に立ち向かい、彼らは憤りをもってお前をあしらう。彼らはお前の鼻と耳をそぎ取り、残った者は剣に倒れる。彼らはお前の息子、娘たちを連れ去り、残った者は火で焼き尽くされる。26 彼らはお前の衣服をほぎ取り、美しい飾りを奪う。27 わたしはお前の不貞と、エジプトの地にいたとき以来の淫行をやめさせる。お前はそれらに目を向けず、もはやエジプトを思い起こさない。
 28 主なる神はこう言われる。わたしはお前が憎む者の手に、既にお前の心が離れてしまった者の手にお前を渡す。29 彼らは憎しみをもってお前をあしらい、労苦によって得たものを奪い、お前を裸にして捨てる。
 お前の淫行と不貞と姦淫は、裸にされて暴かれる。30 これらのことが臨むのは、お前が諸国民と姦淫を行い、彼らの偶像によって身を汚したためである。31 お前は姉の歩んだ道を歩んだので、わたしは彼女の杯をお前の手に渡す。
 32 主なる神はこう言われる。
 姉の杯を、お前は飲まねばならぬ
 深くて大きい杯を。

ない。49 お前たちの不貞の報いはお前たちに帰し、お前たちは偶像による過ちの責めを負わねばならない。そのとき、お前たちはわたしに主なる神であることを知るようになる。」

火の上の鍋

24 1 第九年の十月十日のことである。その月の十日に、主の言葉がわたしに臨んだ。 2 「人の子よ、この日付、まさにこの日を書き記しなさい。バビロンの王は、まさにこの日にエルサレムの攻城を始めた。 3 あなたは叛逆の家に対してたとえを語り、彼らに言いなさい。主なる神はこう言われる。

- 据えよ、鍋を据えよ。
- またその中に水を注げ。
- 4 それに肉の切れを入れよ。
- 腿や肩肉、すべて上質の肉切れを集め
- 最上の骨で鍋を満たせ。
- 5 また、最上の羊を取り
- その下に骨を積み重ねよ。
- これを十分に沸騰させ
- 6 それゆえ、主なる神はこう言われる。
- 災いだ、流血の都よ。

鍋のついた鍋、その鍋は取り除きえない。肉を一切れ一切れ取り出せ。

- くじがそのために引かれることはない。
- 7 流血が都の中にあるからだ。
- 彼女が血を裸の岩の上に流し
- 8 わたしは復讐のため憤りをかき立て
- 土で覆うために地面に注ぐことをしなかった。
- 9 それゆえ、主なる神はこう言われる。
- 災いだ、流血の都よ。
- わたしもまた、薪の山を大きくする。
- 10 まきを積み重ね、火をつけよ。
- 肉を煮込んで肉汁を作り、骨を焦がせ。
- 11 鍋を空にして炭火にのせ
- 熱して、青銅が赤くなるまで焼け。
- 12 汚れがその中で溶け、錆がなくなるように。
- しかし、努力のかいもなく
- 13 厚い錆は火でも取り除きえない。
- 13 不貞によってお前が汚れたので、わたしは清めようとしたが、お前は汚れから清くならなかった。わたしが憤りを晴らすまでは、清くなることは決してない。 14 主なるわたしが語ったのだ。それは実現する。

わたしがそれを行う。わたしはそれをやめず、惜しまず、憐れみもしない。お前の道と行いに従って、お前は裁かれる」と主なる神は言われる。

エゼキエルの妻の死

15 主の言葉がわたしに臨んだ。 16 「人の子よ、わたしはあなたの目の喜びを、一撃をもってあなたから取り去る。あなたは嘆いてはならない。泣いてはならない。涙を流してはならない。 17 声をあげずに悲しめ。死者の喪に服すな。頭にターバンを巻き、足に靴を履きなさい。口ひげを覆うな。嘆きのパンを食べてはならない。」

18 朝、わたしは人々に語っていた。その夕、わたしの妻は死んだ。翌朝、わたしは命じられたとおりに行った。 19 人々はわたしに尋ねた。「あなたが行っているこれらの事は、我々にどんな意味があるのか告げてくれないか」と。 20 そこでわたしは、彼らに語った。「主の言葉がわたしに臨んだ。 21 イスラエルの家になさい。主なる神はこう言われる。わたしは、わたしの聖所を汚す。それはお前たちの誇る砦であり、目の喜び、心の慕うものであった。お前たちが残してきた息子、娘たちは、剣によって滅びる。 22 わたしがしたように、お前たちもするようになる。お前たちは口

ひげを覆ってはならない。嘆きのパンを食べてはならない。 23 頭にターバンを巻き、足に靴を履け。また、嘆いてはならない。泣いてはならない。お前たちは自分の罪のゆえに衰え、互いに嘆くようになる。 24 エゼキエルは、お前たちにとってしるしとなる。すべて彼が行ったように、お前たちもするであろう。すべてが実現したとき、お前たちは、わたしが主なる神であることを知るようになる。」

アンモン人への預言

25 1 主の言葉がわたしに臨んだ。 2 「人の子よ、顔をアンモン人に向けて、彼らに預言せよ。 3 アンモン人に言いなさい。主なる神の言葉を聞け、主なる神はこう言われる。お前はわたしの聖所が汚され、イスラエルの地が荒らされ、ユダの家が捕囚となって行ったことを、あは、と言って嘲った。 4 それゆえ、

わたしはお前を東の人々に渡して彼らに所有させる。彼らはお前の中に陣営を張り、住まいを定める。彼らはお前の果实を食べ、お前の乳を飲む。わたしは都ラバを、らくだが草をはむ所とし、アンモンの地を羊の憩う所とする。そのとき、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。

6 主なる神はこう言われる。お前は手を打ち、足を踏み鳴らし、イスラエルの地に対する嘲りの思いに満ちて喜んだ。7 それゆえ、わたしはお前に向かって手を伸ばし、お前を国々の略奪にゆだね、諸国民の中から断ち、諸国から一掃して滅ぼし尽くす。そのとき、お前はわたしが主であることを知るようになる。」

モアブへの預言

8 主なる神はこう言われる。「モアブとセイルは、『ユダの家も他のすべての国のようになった』と言った。9 それゆえ、わたしはモアブの脇腹を引き裂き、この国の町々をすべて、その誇りであるベト・エシモト、パアル・メオン、キルヤタイムをはじめひとつ残らず滅ぼし尽くす。10 わたしは、アンモン人と共にモアブを東の人々に渡して所有させる。アンモン人が諸国民の間で思い起こされることはない。11 わたしはモアブに裁きを行う。そのとき、彼らはわたしが主である

ことを知るようになる。」

エドムへの預言

12 主なる神はこう言われる。「エドムはユダの家に復讐をした。彼らはその復讐によって、大いに罪を犯した。13 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしはエドムに向かつて手を伸ばし、その中から人と獣を断つて荒地とする。彼らはテマンからデダンにいたるまで剣で倒れる。14 わたしは、わが民イスラエルによってエドムに復讐する。彼らは、わたしの怒りと憤りのままにエドムに対して行う。そのとき、彼らはわたしの復讐を知るようになる」と主なる神は言われる。

ペリシテへの預言

15 主なる神はこう言われる。「ペリシテ人は復讐し、嘲りの思いをもって大いに仇を報い、昔からの憎しみから滅ぼそうとした。16 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしは手をペリシテ人に向かつて伸ばし、クレタ人を断ち、海辺に残っている者を一掃する。17 わたしは、彼らを憤りをもって懲らしめ、大いに復讐する。わたしが彼らに仇を報いるとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。」

ティルスへの預言

26 1 第十一年、その月の第一日に、主の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、ティルスがエルサレムを嘲る。『ああ、諸国民の門であったお前は打ち破られ、わたしのものになった。わたしは富み、お前は廢れる。』3 それゆえ、主なる神はこう言われる。

ティルスよ、わたしがお前に立ち向かう。

わたしは、海が波を巻き起こすように多くの国々をお前に立ち向かわせる。

4 彼らはティルスの城壁を倒し、塔を破壊する。

わたしはその土くれまでめぐい去り

ティルスを裸の岩にする。

5 ティルスは海の中にある網干し場となる。

これはわたし自身が語ったことだと

主なる神は言われる。

ティルスは諸国民に略奪され

陸にある周囲の町々も剣で滅ぼされる。

そのとき彼らは

わたしが主であることを知るようになる。

7 主なる神はこう言われる。

わたしは、王の王であるバビロンの王、ネブカドレツアルを北からティルスに來させる。彼は馬と戦車と

騎兵と多くの軍勢を引き連れてくる。

8 彼は陸にある周囲の町々を剣で滅ぼし

お前に向かつて堡壘を築き

壘を積み、大盾を立てる。

9 彼は破城槌で城壁を突き崩し

鉄の棒で塔を打ち壊す。

10 軍馬が怒濤のように襲い

土煙がお前を覆う。

打ち破られた町に敵が突入するように

彼らがお前の城門に攻め入るとき

騎兵と戦車の車輪の音で城壁は揺れ動く。

11 軍馬のひづめで、町並みはすべて踏みじられ

民は剣で殺され、巨大な柱は地に倒れる。

12 彼らは財宝を奪い、商品を略奪し

城壁を破壊し、華やかな宮殿を壊し

石や木や土くれまで海に投げ込む。

13 わたしはお前の騒がしい歌声をやめさせ

堅琴の音が再び聞かれることはない。

14 わたしはお前を裸の岩にする。

お前は網干し場となり

再び建て直されることはない。

これは主なるわたしが語ったことだと

主なる神は言われる。

主なる神は言われる。

15 主なる神は、ティルスに向かつてこう言われる。お前の中で、倒れた者が呻き、虐殺が行われるとき、町の倒れ落ちる響きで、島々は揺れ動かないだろう。16 海の支配者たちは、皆その座から降り、礼服を取り去り、美しく織った衣服を脱ぐ。彼らは恐怖を身にまとい、地に座り、絶え間なく震えながらお前を見て驚きあきれれる。17 彼らはお前に向かつて嘆きの歌をうたって言う。

ああ、あなたは滅びてしまった。
海のかなたから来て住み着き
誉れある町となったのに。

この町とそこに住む民は海のつわものとなり
海に住むすべての者を震え上がらせたのに。
18 今や、その島々はあなたの倒れた日におのき
海の島々は、あなたの終わりを見て恐れる。

19 まことに、主なる神はこう言われる。わたしは、
お前を住む者のない町のように荒れ果てた町とし、淵
から水を湧き上がらせ、大水で覆う。20 こうしてわた
しは、穴に下る者たちと共に、お前をいにしえの民の
中に落とす。また、お前を穴に下る者たちと共に、永
遠の昔からの廃虚のような深い地に住まわせ、お前が
生ける者の地で栄誉をもって住むことができないう
にする。21 わたしはお前を恐怖に落とす。それゆえ、

お前は無に帰する。人が探し求めても、お前は永久に
見いだされることはない」と主なる神は言われる。
1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、あ
なたはティルスのために、嘆きの歌をうたいな
さい。3 海の出入り口を支配し、多くの島々を巡り、
諸国の民と取り引きを行うティルスに向かつて言いな
さい。

主なる神はこう言われる。

ティルスよ、お前は言う。

『わたしの姿は美しさの極み』と。

4 お前の国境は海の真ん中にある。

お前を築いた者は、お前の美しさを完全にした。

5 彼らはセニルの楡でお前の外板を造り

レバノンの杉で、帆柱を立てた。

6 バシヤンの樫の木で、櫂を造り

キタイムの島々の糸杉に象牙をはめこみ
甲板を造った。

7 美しく織ったエジプトの麻が

お前の帆となり、旗となり

エリシヤの海岸から得た紫と赤紫の毛織物が

甲板の日よけとなった。

8 シドンとアルワドの住民が漕ぎ手となり

ティルスよ、熟練した者が

乗り込んで水夫となり

9 ゲバルの老練な者が乗り込んで

水漏れを繕う者となった。

海のすべての船と船乗りたちは

お前のもとに来て、物品を引き渡した。

10 ペルシア、リディア、プトの人々は

お前の部隊に入って戦士となり

盾と兜をお前の中に掛け

お前を美しく飾り立てた。

11 アルワドとキリキアの人々は城壁の上をくまな

く囲んで立ち、ガマデイムの人々は塔を固めていた。

彼らは小盾を城壁の周りにくまなく掛け、それはお前

の美しさを完成した。12 タルシシュはお前の豊かな富

のゆえに商いに来て、銀、鉄、錫、鉛をお前の商品と

交換した。13 ヤワン、トバル、メシエクの人々は取り

引きを行い、彼らは奴隷と青銅の製品をお前の物品と

交換した。14 彼らはベト・トガルマから、馬、軍馬、

らばを仕入れて、お前の商品と交換した。15 ロドス島

の人々はお前と取り引きを行い、多くの島々はお前の

下で商いをし、彼らは象牙と黒檀を貢ぎ物として献

上した。16 アラムはお前の豊かな産物のゆえに商いに

来て、トルコ石、赤紫の毛織物、美しく織った布地、
上質の亜麻織物、さんご、赤めのうをお前の商品と

交換した。17 ユダとイスラエルの国もまた、お前と取

り引きを行い、ミニトの小麦、きび、蜜、油、乳香を、

お前の物品と交換した。18 ダマスコはお前の多くの産

物と豊かな富のゆえに商いをし、ヘルボンのぶどう酒

とツアハルの羊毛を運んで来た。19 ウザル地方のウエ

ダンとヤワンは、お前の商品と交換し、銑鉄、桂皮、

香水をお前の物品と取り替えた。20 デガンは乗馬用

の粗い布地で、お前と取り引きを行った。21 アラブの

人々とケゲルの首長たちもまた、お前の下で商いを

し、小羊、雄羊、山羊を商った。22 シエバとラマの商

人たちは、お前と取り引きを行い、極上のあらゆる香

料、あらゆる宝石、黄金をお前の商品と交換した。

23 ハラン、カンネ、エデンとシエバの商人たち、ア

シユルとキルマドは、お前と取り引きを行った。24 彼

らはお前と取り引きを行い、豪華な衣服、紫の衣、美

しく織った布地、多彩な敷物、堅く丈夫によった網

で、お前と取り引きを行った。

25 タルシシュの船はお前の物品を運び回った。

お前は荷を重く積み

海の真ん中を進んだ。

26 漕ぎ手がお前を大海原に漕ぎ出したが
東風がお前を打ち砕いた
海の真ん中で。

10 と言い張るのか。お前は人であって、神ではなく、切り倒す者の手にある。11 お前は割礼のない者として、外国人の手にかかって死ぬ。まことにわたしがこのことを語った」と主なる神は言われる。

12 主の言葉がわたしに臨んだ。13 「人の子よ、ティルス¹⁰の王に対して嘆きの歌をうたい、彼に言いなさい。主なる神はこう言われる。

14 お前はあるべき姿を印章としたものであり、知恵に満ち、美しさの極みである。

15 お前は神の園であるエデンにいた。あらゆる寶石がお前を包んでいた。ルビー、黄玉、紫水晶、かんらん石、縞めのう、碧玉、サファイア、ざくろ石、エメラルド。それらは金で作られた留め金で、お前に着けられていた。

16 それらはお前が創造された日に整えられた。わたしはお前を翼を広げて覆うケルブとして造った。お前は神の聖なる山にいて、火の石の間を歩いていた。

17 お前が創造された日から、お前の歩みは無垢であったが

27 お前の富、商品、物品、船乗り、水夫、水漏れを繕う者、物品を交換する者、船上のすべての戦士、すべての乗組員たちは、お前が滅びる日に海の真ん中に沈む。

28 水夫たちの叫び声で、町を取りまく地は震える。29 権を漕ぐ者は皆、その船から降り、船乗りと水夫たちは皆、陸に立ち

30 お前のために声をあげて、いたく泣き叫ぶ。彼らは頭に塵をかぶり、灰の中で転げ回る。

31 彼らはお前のために頭をそり、粗布を身にまとい、お前のために心を痛めて泣き、痛ましい悲しみの声をあげる。

32 また嘆きの声をあげて、哀歌をうたい、お前のために挽歌をうたう。誰が海の真ん中で、ティルスと同じようになったらうか。

33 お前は海を越えて商品輸出し、多くの国々の民を飽き足らせ、豊かな富と産物で、地上の王たちを富ませた。

34 今、お前は海で難破し、水中深く沈んだ。お前の積み荷とすべての乗組員は沈んだ。

35 海沿いの国々の住民は皆、お前のことで驚き

王たちは恐れおののき、顔はゆがんでいた。

36 諸国の民の商人は、口笛を吹いて、お前を嘲る。お前は人々に恐怖を引き起こし、とこしえに消えうせる。」

28 1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、ティルスの君主に向かって言いなさい。主なる神はこう言われる。お前の心は高慢になり、そして言った。『わたしは神だ。わたしは海の真ん中にある神の住みかに住まう』と。しかし、お前は人であって神ではない。ただ、自分の心が神の心のように、と思っ込んでいただけだ。3 お前はダニエルよりも賢く、いかなる奥義もお前には隠されていない。4 お前は知恵と悟りによって富を積み、金銀を宝庫に蓄えた。5 お前は取り引きに知恵を大いに働かせて富を増し加え、お前の心は富のゆえに高慢になった。

6 それゆえ、主なる神はこう言われる。お前は自分の心が神の心のようにだと思っ込んでいる。7 それゆえ、わたしはお前に対して諸国の中でも最も暴虐な外国人を立ち向かわせる。彼らはお前の知恵の誇りに向かって剣を抜き、お前の栄華を汚し、8 お前を陰府に突き落とす。お前は海の真ん中で切り倒されて死ぬ。9 お前は自分を殺す者の前でもなお、『わたしは神だ』

ついに不正がお前の中に、見いだされるようになった。

10 お前の取り引きが盛んになると、お前の中に不法が満ち、罪を犯すようになった。

11 そこで、わたしはお前を神の山から追い出し、翼で覆うケルブであるお前を、火の石の間から滅ぼした。

12 お前の心は美しさのゆえに高慢となり、栄華のゆえに知恵を墮落させた。わたしはお前を地の上に投げ落とし、王たちの前で見せ物とした。

13 お前は悪行を重ね、不正な取り引きを行って、自分の聖所を汚した。それゆえ、わたしはお前の中から火を出させ、お前を焼き尽くさせた。わたしは見ていた者すべての前で、お前を地上の灰にした。

14 諸国の民のなかで、お前を知っていた者は皆、お前のゆえにぼう然とする。お前は人々に恐怖を引き起こし、とこしえに消えうせる。」

シドンへの預言

20 主の言葉がわたしに臨んだ。21「人の子よ、あなたの顔をシドンに向けて預言しなさい。

22 主なる神はこう言われる。

シドンよ、わたしはお前に立ち向かう。

わたしの栄光がお前の真ん中で現される。

わたしはそこで裁きを行い

自分の聖なることを示す。

そのとき彼らは

わたしは主であることを知るようになる。

23 わたしは、町の中に疫病を送り

また、通りに血を流れさせる。

剣が周囲から迫るとき

殺された者がその中に倒れる。

そのとき彼らは

わたしが主であることを知るようになる。

24 イスラエルの家には二度と、彼らを侮辱する周囲のすべての人々の突き刺す茨や、痛みを与えるものが臨むことはない。そのとき、彼らはわたしが主なる神であることを知るようになる。

25 主なる神はこう言われる。わたしがイスラエルの家を、彼らの散らされた諸国の民の中から集めるとき、彼らによって、わたしは自分の聖なることを諸国

5 わたしはお前を荒れ野に捨てて

ナイル川のすべての魚と共に。

お前は地面に倒れたままで

引き取る者も、葬る者もない。

わたしは野の獣、空の鳥に

お前を食物として与える。

6 エジプトのすべての住民は

わたしが主であることを知るようになる。

お前は、イスラエルの家にとって

葦の杖にすぎない。

7 彼らがお前の手をつかむと

お前は折れ、彼らの肩は砕けた。

彼らが寄りかかると、お前は裂け

彼らの腰はすべてふらついた。

8 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしはお前に剣を臨ませ、お前の中から人も獣も絶ち滅ぼす。

9 エジプトの地は荒野に変わり、廃虚となる。そのとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。

お前が、『ナイル川はわたしのもの、わたしが造ったものだ』と言ったからだ。

10 それゆえ、わたしはお前とお前のナイル川に立ち向かい、エジプトの地を廃虚とし、ミグドルからセベネを経て、クシユの境に至るまで荒野にする。11 もは

民の前に示す。彼らは、わたしがわたしの僕ヤコブに与えた土地に住む。26 彼らはそこに安らかに住み、家を建て、ぶどう園を植え、安らかに住み着く。彼らを侮辱する周囲のすべての人々に、わたしが裁きを行うからである。そのとき彼らは、わたしが彼らの神、主であることを知るようになる。」

エジプトの王、ファラオへの預言

29

1 第十年の十月十二日に主の言葉がわたしに臨んだ。2「人の子よ、あなたの顔をエジプトの王ファラオに向けて、王とエジプトの全土に対して預言し、3 語って言いなさい。

主なる神はこう言われる。

エジプトの王、ファラオよ

わたしはお前に立ち向かう。

ナイル川の真ん中に横たわる巨大なわによ

お前は言う。

『ナイル川はわたしのもの

わたしが自分のために造ったものだ』と。

4 わたしはお前の頸に鉤をかけた

うろこにナイル川の魚をつけさせ

ナイル川の真ん中から引き上げる

お前のうろこについた川のすべての魚と共に。

や人の足はそこを通らず、動物の足すら通ることなく、こうして四十年の間住む人はない。12 わたしはエジプト人の地を、荒れ果てた国々の中で、最も荒れ果てた地とする。その町々は荒れ廃れた町々の中で、四十年の間最も荒れ果てたものとなる。わたしはエジプト人を諸国民の中に散らし、国々の間に追いやる。

13 まことに主なる神はこう言われる。四十年が終わると、わたしは散らされていた諸国民の間からエジプト人を集める。14 わたしはエジプトの繁栄を回復する。わたしは彼らを出身地である上エジプト人の地に帰らせる。そこで彼らはささやかな王国を造る。15 それは他の王国よりも低く、もはや彼らが他の国々の上に立つことはない。彼らが他の国々を踏みつけることがないように、わたしは彼らを小さくする。16 イスラエルの家は、もはや、彼らに頼らず、かつて彼らを頼みにして犯した罪を思い起こす。そのとき、彼らはわたしの主なる神であることを知るようになる。」

ネブカドレツアルの報酬

17 第二十七年の一月一日に、主の言葉がわたしに臨んだ。18「人の子よ、バビロンの王ネブカドレツアルはティルスに対し、軍隊を差し向けて労苦の多い戦いを行わせた。すべての戦士の頭ははげ、肩は擦りむけて

しまった。しかし、王もその軍隊も、ティルスに対して費やした労苦の報酬を何も得なかつた。19 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしはバビロンの王ネブカドレツアルにエジプトの土地を与える。彼はその富を運び去り、戦利品を分捕り、略奪をほしいままにする。こうして、エジプトは彼の軍隊の報酬となる。20 ティルスに対して費やした王の働きの報いとして、わたしは王にエジプトの土地を与える。彼らが、わたしに代わって、このことをしたからである、と主なる神は言われる。

21 その日、わたしはイスラエルの家のために一つの角を生えさせ、彼らの間であつてその口を開かせる。そのとき、彼らはわたしが生であることを知るようになる。」

エジプトに対する裁き

30

1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、預言して言いなさい。

主なる神はこう言われる。

泣き叫べ、ああ、その日は災いだ。

3 その日は近い。主の日は近い。

それは密雲の日、諸国民の裁きの時である。

4 剣がエジプトに臨み、戦慄がクシュを襲う。

て、その地とその地を満たしているものを滅ぼし尽くす、と主なるわたしが告げる。

13 主なる神はこう言われる。わたしは偶像を打ち壊し、メンフィスから偽りの神々を絶つ。エジプトの国には、もはや支配者がいなくなる。わたしはエジプトの地に恐れを与える。14 わたしは上エジプトを滅ぼし、ツォアンに火を放ち、テーベに裁きを下さす。15 また、わが憤りをエジプトの些であるシンに注ぎ、テーベの富を絶つ。16 わたしはエジプトに火を放つ。シンは苦しみにもたえ、テーベは引き裂かれ、メンフィスは白昼、敵に襲われる。17 オンとピ・ベセトの若者たちは剣に倒れ、他の人々は捕囚として連れ去られる。

18 わたしがテハフネヘスで、エジプトの軛を砕くとき、そこでは昼も暗くなり、その驕れる力は絶たれる。密雲が町を覆い、その娘たちも捕囚として連れ去られる。19 わたしがエジプトに裁きを行うとき、彼らはわたしが生であることを知るようになる。」

20 第十一年の一月七日に、主の言葉がわたしに臨んだ。21 「人の子よ、わたしはエジプトの王ファラオの腕を折った。見よ、彼の腕は手当てを受けて巻かれることなく、力を補う添え木を当てて巻かれることもないので、剣を取ることができない。わたしはエ

22 それゆえ、主なる神はこう言われる。わたしはエ

エジプトで、人々は刺されて倒れ

富は奪い去られ、国の基は覆される。

5 クシュ、プト、リディア、諸種族の群れ、クブおよびその他の同盟国の住民も、彼らと共に剣で倒れる。

6 主はこう言われる。

エジプトを支える者は倒れ

その驕れる力は覆る。

ミグドルからセベネに至るまで

人々は剣に倒れる、と主なる神は言われる。

7 荒れ果てた国々の中でも、エジプトの荒廃は甚だしく、荒れ廃れた町々の中でも、その町々は甚だしい

廃虚となる。8 わたしがエジプトに火を放って、これを助ける者がすべて滅ぼされるとき、彼らはわたしが生であることを知るようになる。9 その日、わたしの

もたら使者が船で出発し、安心してクシュをお

ののかせる。エジプトの日に、戦慄が彼らを襲う。その

の日が来るからである。10 主なる神がこう言われる。

わたしはバビロンの王ネブカドレツアルの手によって

エジプトの富を絶つ。11 彼とその軍隊、諸国の中で最

も凶暴な軍隊が、この国を滅ぼすために動員される。

彼らは剣を抜いてエジプトを攻め、この国を殺された

者で満たす。12 わたしはナイル川を干上がらせ、この

国を悪しき者たちの手に売り渡し、他国の人々によつ

て、その地とその地を満たしているものを滅ぼし尽くす、と主なるわたしが告げる。

13 主なる神はこう言われる。わたしは偶像を打ち壊し、メンフィスから偽りの神々を絶つ。エジプトの国には、もはや支配者がいなくなる。わたしはエジプトの地に恐れを与える。14 わたしは上エジプトを滅ぼし、ツォアンに火を放ち、テーベに裁きを下さす。15 また、わが憤りをエジプトの些であるシンに注ぎ、テーベの富を絶つ。16 わたしはエジプトに火を放つ。シンは苦しみにもたえ、テーベは引き裂かれ、メンフィスは白昼、敵に襲われる。17 オンとピ・ベセトの若者たちは剣に倒れ、他の人々は捕囚として連れ去られる。

18 わたしがテハフネヘスで、エジプトの軛を砕くとき、そこでは昼も暗くなり、その驕れる力は絶たれる。密雲が町を覆い、その娘たちも捕囚として連れ去られる。19 わたしがエジプトに裁きを行うとき、彼らはわたしが生であることを知るようになる。」

31 第十一年の三月一日に、主の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、エジプトの王ファラオとその軍勢に向かつて言いなさい。

お前の偉大さは誰と比べられよう。

3 見よ、あなたは糸杉、レバノンの杉だ。

その枝は美しく、豊かな陰をつくり

文は高く、梢は雲間にとどいた。

水がそれを育て、淵がそれを大きくした。

淵から流れる川は杉の周りを潤し

水路は野のすべての木に水を送った。

26 わたしがエジプトの人々を諸国民の中に散らし、国

の間に追いやる時、彼らはわたしが生であることを

知るようになる。」

31 第十一年の三月一日に、主の言葉がわたしに臨んだ。2 「人の子よ、エジプトの王ファラオとその軍勢に向かつて言いなさい。

お前の偉大さは誰と比べられよう。

3 見よ、あなたは糸杉、レバノンの杉だ。

その枝は美しく、豊かな陰をつくり

文は高く、梢は雲間にとどいた。

水がそれを育て、淵がそれを大きくした。

淵から流れる川は杉の周りを潤し

水路は野のすべての木に水を送った。

26 わたしがエジプトの人々を諸国民の中に散らし、国

の間に追いやる時、彼らはわたしが生であることを

知るようになる。」

5 その丈は野のすべての木より高くなり豊かに注ぐ水のゆえに
 6 大枝は茂り、若枝は伸びた。
 7 大枝には空のすべての鳥が巢を作り、若枝の下では野のすべての獣が子を産み、多くの国民が皆、その木陰に住んだ。
 8 丈は高く、枝は長く伸びて美しかった。豊かな水に根をおろしていたからだ。
 9 神の園の杉もこれに及ばず
 10 神の園のどの木もその若枝と競いえず
 11 わたしが、多くの枝で美しく飾ったので
 12 神の園エデンのすべての木もうらやんだ。
 13 それゆえ、主なる神はこう言われる。彼の丈は高くされ、その梢を雲の間に伸ばしたので、心は驕り高ぶった。
 14 わたしは彼を諸国の民の最も強い者の手に渡す。その者は彼を悪行に耽じて扱う。わたしは彼を追放する。
 15 諸国の最も凶暴な民である異国人が彼を切り倒し、山々の上に捨てて、その枝はすべての谷間に落ち、若枝は切られて地のすべての谷を埋める。地上のすべての民は、その木陰から逃げ去り、彼を捨て

13 彼の倒された幹には、空のすべての鳥が住み、若枝のもとには、野のすべての獣がやどる。
 14 もはや、水のほとりの木もすべて丈を高くしえず、梢を雲の間に伸ばしえず、水に潤う木も、高ぶってそびえ立つことはできない。彼らはすべて死に渡され、穴に下る人の子らと共に地の深き所へ行く。
 15 主なる神はこう言われる。彼が陰府に下る日に、わたしは彼のゆえに淵を喪に服させ、彼を覆う。わたしが川をせき止めるので、豊かな水も干上がる。またレバノンに彼の甲いをさせるので、野のすべての木も、彼のゆえにしおれる。16 穴に下る者と共に彼を陰府に下すとき、わたしは彼の倒れる音で諸国民を揺り動かす。そのとき地の深き所で、エデンのすべての木も、レバノンのえり抜き美しい木も、水に潤うすべての木も、再び慰められる。17 彼らも、彼と共に陰府に、剣で倒れた者たちのところに下って行った。かつて諸国民の間で、彼の陰に宿っていた仲間たちも共に。18 お前は、エデンの木の前で、栄光と偉大さを誰と比べられたか。しかし、お前はエデンの木々と共に地の深き所に落とされ、割礼のない者の間で、剣によって倒された者と共に住むであろう。これがファラオとそのすべての軍勢の運命である」と主なる神は言われる。

32 **ファラオに対する嘆きの歌**
 1 第十二年の十二月一日に、主の言葉がわたしに臨んだ。
 2 人の子よ、エジプトの王ファラオに向かって嘆きの歌をうたい、彼に言いなさい。
 3 国々の中で若獅子である者よ
 4 お前は滅びに定められた。
 5 お前は水中のわにのようだ。
 6 川の中であれば回り
 7 足で水をかき混ぜ、流れを濁らせた。
 8 主なる神はこう言われる。
 9 わたしは多くの民を集め
 10 お前の上に網として広げる。
 11 彼らはこの地引き網でお前を引き上げる。
 12 わたしは、お前を大地に投げ出し
 13 野に投げ捨てる。
 14 空のすべての鳥をお前の上にやどらせ
 15 地上のすべての獣をお前を
 16 食べさせて、飽かせる。
 17 わたしはお前の肉を山の上に捨て
 18 お前の腐った肉で谷を満たす。
 19 わたしはお前の流れ出た血を
 20 大地にのませ、山に注ぐ。

お前の血で谷間も満たされる。
 7 お前が消えうせるとき
 8 わたしは空を覆い、星を暗くする。
 9 また、太陽を雲で覆い、月も光を放たない。
 10 空に輝くすべての光を
 11 わたしはお前の上で暗くする。
 12 また、お前の地を闇で覆うと
 13 主なる神は言われる。
 14 わたしはお前の破滅を、お前の知らない国々の民に知らせ、多くの民の心をいらだたせる。
 15 わたしはお前のゆえに多くの民をぼう然とさせる。わたしが彼らの前で剣を振りかざすと、王たちもお前のゆえに毛が逆立つ。お前の倒れる日、彼らはそれぞれ命に不安を感じて絶え間なく震える。
 16 まことに、主なる神はこう言われる。
 17 パビロンの王の剣がお前に臨む。
 18 わたしは勇士たちの剣で、お前の軍勢を倒す。
 19 彼らは皆、諸国の中で最も凶暴な者だ。
 20 彼らはエジプトの誇りを踏みにじる。
 21 その軍勢も皆滅ぼされる。
 22 わたしはすべての家畜を
 23 豊かな水のほとりから追いやる。
 24 人の足はもはやその水を濁さず

14 家畜のひづめもこれを濁さない。
15 そのとき、わたしはその水を澄ませ
流れを油のように静かに流れさせると
主なる神は言われる。

16 わたしはエジプトの地を荒廃させ

その地を満たしているものを荒れるにまかせると
わたしがそこに住むすべての者を撃つとき

17 彼らは、わたしが主であることを知るようになる。
18 これは嘆きの歌。彼らは悲しんでこれを歌う。

19 国々の娘たちも、悲しんでこれを歌う。

20 彼らはエジプトとすべての軍勢のために
悲しんでこの歌をうたう」と
主なる神は言われる。

21 17 第十二年のその月の十五日に、主の言葉がわたし
に臨んだ。

22 「人の子よ、あなたと諸国の娘たちは

エジプトとその貴族たちのために泣き悲しめ。

23 わたしは彼らを地の低い所に下らせる

24 穴に下って行く者と共に。

25 お前はだれよりも美しいと思っていたのか。

26 下って行き、割礼のない者と共に横たわれ。

27 彼らは剣で殺された者の間に倒れる。

28 生ける者の地で恐れられていたが
穴に下る者と共に恥を負い
殺された者の間に置かれる。

29 そこには、メシエクとトバルと

30 そのすべての軍勢がいる。

31 彼らの墓はその周囲にある。

32 皆、割礼のない者、剣で殺された者。

33 生ける者の地で恐れられていた。

34 彼らは、遠い昔に倒れた勇士たちと共に

35 横たわることはない。

36 この人々は、武器をもって陰府に下り

37 剣を頭の下に、盾を骨の上に置いていた。

38 これらの勇士は

39 生ける者の地で恐れられていた。

40 お前は割礼のない者の間に

41 剣で殺された者と共に

42 打ち砕かれて横たわる。

43 そこには、エドムがその王たちと

44 すべての君侯たちと共にいる。

45 彼らは力をもっていたが

46 剣で殺された者と共に置かれ

47 割礼のない者、穴に下る者と共に横たわる。

48 そこには、北のすべての君主たち

エジプトは剣に渡された。

21 エジプトとその軍勢はすべて運び去られた。

22 陰府の中から、最も強い勇士たちが

エジプトとその同盟者たちに語る

23 割礼のない者、剣で殺された者たちは

24 下ってきてそこに横たわる、と。

25 そこには、アシウルとその仲間がすべており

26 彼らの墓はその周りにある。

27 彼らは皆、剣で殺され、倒れた者である。

28 アッシリアの墓は穴の最も深い所にあり

29 その周りには仲間たちの墓がある。

30 彼らは皆、剣で殺され、倒れた者

31 かつて、生ける者の地で恐れられていた。

32 そこには、エラムとそのすべての軍勢がいる。

33 彼らの墓はその周りにある。

34 彼らは皆、剣で殺され、倒れた者

35 割礼のない者で、地の最も低い所に下って行く。

36 生ける者の地で恐れられていたが

37 穴に下る者と共に恥を負う。

38 殺された者たちの間に、床が設けられた

39 エラムとそのすべての軍勢のために。

40 彼らの墓はその周りにある。

41 彼らは皆、割礼のない者、剣で殺された者。

シドンのすべての人々がいる。

42 彼らは殺された者と共に下る。

43 彼らはその力のゆえに恐れられていたが

44 辱められ、割礼のない者、剣で殺された者と

45 共に横たわる。

46 彼らは、穴に下る者と共に恥を負う。

47 31 ファラオは彼らを見て

48 失ったすべての軍勢について慰められる。

49 ファラオも、そのすべての軍隊も剣で殺されたと

50 主なる神は言われる。

51 32 まことに、わたしは生ける者の地に

52 恐れを置いた。

53 ファラオとそのすべての軍勢は

54 割礼のない者の間に

55 剣で殺された者と共に横たわる」と

56 主なる神は言われる。

見張りの務め

33 1 主の言葉がわたしに臨んだ。 2 「人の子よ、あ

なたの同胞に語りかけ、彼らに言いなさい。 わ
たしがある国に向かって剣を送るとき、その国の民は
彼らの中から一人の人を選んで見張りとする。 3 彼は
剣が国に向かって臨むのを見ると、角笛を吹き鳴らし

生きる。17 それなのに、あなたの同胞は言っている。『主の道は正しくない』と。しかし正しくないのは彼らの道である。18 正しい人でも、正しさから離れて不正を行うなら、その不正のゆえに彼は死ぬ。19 また、悪人でも、悪から離れて正義と恵みの業を行うなら、それゆえに彼は生きる。20 それなのに、お前たちは言っている。『主の道は正しくない』と。イスラエルの家よ、わたしは人をそれぞれの道に従って裁く。』

21 我々の捕囚の第十二年十月五日に、エルサレムから逃れた者がわたしのものに来て言った。「都は陥落した」と。22 その逃れた者が来る前の晩、主の手がわたしの上に置かれ、翌朝、彼がわたしのもとに来る前に、主はわたしの口を開かれた。口が開かれて、わたしはもはや黙していなかった。

23 主の言葉がわたしに臨んで言った。24 「人の子よ、イスラエルの土地のこれらの廃虚に住む者は言っている。『アブラハムはただひとりするとき、この土地を所有していた。我々の数は多い。我々にこの土地は所有とされて与えられている』と。25 それゆえ、彼らに言いなさい。主なる神はこう言われる。お前たちは血のついたまま肉を食べ、偶像に向かって目を上げ、人の血を流している。それでも、お前たちはこの土地を所有できているのか。26 お前たちは剣を頼みとし、忌まわしいこ

とを行い、おのおの隣人の妻を犯している。それでも、お前たちはこの土地を所有できるのか。

27 それゆえ、彼らにこう言いなさい。主なる神はこう言われる。わたしは生きています。廃虚にいる者たちは必ず剣に倒れる。野にいる者はすべて、獸に餌食として与え、砦と洞穴にいる者たちは疫病によって死ぬ。28 わたしはこの土地を荒地とし、荒廃した土地とする。この土地が誇った力はうせ、イスラエルの山は荒れ果て、そこを通る者はなくなる。29 彼らが行ったすべての忌まわしいことのゆえに、わたしがこの土地を荒地とし、荒廃した地にするとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。

30 人の子よ、あなたの同胞は城壁の傍らや家の戸口に立ってあなたのことを語り、互いに語り合っている。『さあ、行って、どんな言葉が主から出るのか、聞くのではないか』と。31 そして、彼らはあなたのもとに来る。民は来て、あなたの前に座り、あなたの言葉を聞きはするが、それを行いはしない。彼らは口では好意を示すが、心は利益に向かっていて。32 見よ、あなたは彼らにとって、樂器にあわせて美しい声でうたうみだらな歌の歌い手のようだ。彼らはあなたの語ることが起こるとき——見よ、それは近づいている——

て民に警告する。4 角笛の音を聞いた者が、聞いていながら警告を受け入れず、剣が彼に臨んで彼を殺したなら、血の責任は彼自身にある。5 彼は角笛の音を聞いても警告を受け入れなかったのだから、血の責任は彼にある。彼が警告を受け入れていれば、自分の命を救いえたはずである。6 しかし、見張りが、剣の臨むのを見ながら、角笛を吹かず、民が警告を受けぬままに剣が臨み、彼らのうちから一人の命でも奪われるなら、たとえその人は自分の罪のゆえに死んだとしても、血の責任をわたしは見張りの手に求める。

7 人の子よ、わたしはあなたをイスラエルの家の見張りとした。あなたが、わたしの口から言葉を聞いたなら、わたしの警告を彼らに伝えねばならない。8 わたしが悪人に向かって、『悪人よ、お前は必ず死なねばならない』と言うとき、あなたが悪人に警告し、彼がその道から離れるように語らないなら、悪人は自分の罪のゆえに死んでも、血の責任をわたしはお前の手に求める。9 しかし、もしあなたが悪人に対してその道から立ち帰るよう警告したのに、彼がその道から立ち帰らなかったのなら、彼は自分の罪のゆえに死に、あなたは自分の命を救う。

10 人の子よ、イスラエルの家に言いなさい。お前たちはこう言っている。『我々の背きと過ちは我々の上

にあり、我々はやせ衰える。どうして生きることができようか』と。11 彼らに言いなさい。わたしは生きています、と主なる神は言われる。わたしは悪人が死ぬのを喜ばない。むしろ、悪人がその道から立ち帰って生きることを喜ぶ。立ち帰れ、立ち帰れ、お前たちの悪しき道から。イスラエルの家よ、どうしてお前たちは死んでよいだろうか。

12 人の子よ、あなたの同胞に言いなさい。正しい人の正しさも、彼が背くときには、自分を救うことができな。また、悪人の悪も、彼がその悪から立ち帰るときには、自分をつまずかせることはない。正しい人でも、過ちを犯すときには、その正しさによって生きることができない。13 正しい人に向かって、わたしが、『お前は必ず生きる』と言ったとしても、もし彼が自身自身の正しさに頼って不正を行うなら、彼のすべての正しさは思い起こされることがなく、彼の行う不正のゆえに彼は死ぬ。14 また、悪人に向かって、わたしが、『お前は必ず死ぬ』と言ったとしても、もし彼がその過ちから立ち帰って正義と恵みの業を行うなら、15 すなわち、その悪人が質物を返し、奪ったものを償い、命の掟に従って歩き、不正を行わないなら、彼は必ず生きる。死ぬことはない。16 彼の犯したすべての過ちは思い起こされず、正義と恵みの業を行った者は必ず

彼らは自分たちの中に預言者がいたことを知るようになる。」

イスラエルの牧者

34 1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 人の子よ、イスラエルの牧者たちに対して預言し、牧者である彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。災いだ、自分自身を養うイスラエルの牧者たちは、牧者は群れを養うべきではないか。3 お前たちは乳を飲み、羊毛を身にまとい、肥えた動物を屠るが、群れを養おうとはしない。4 お前たちは弱いものを強めず、病めるものをいやさず、傷ついたものを包んでやらなかった。また、追われたものを連れ戻さず、失われたものを探し求めず、かえって力づくで、苛酷に群れを支配した。5 彼らは飼う者がいないので散らされ、あらゆる野の獣の餌食となり、ちりぢりになった。6 わたしの群れは、すべての山、すべての高い丘の上で迷う。また、わたしの群れは地の全面に散らされ、だれひとり、探す者もなく、尋ね求める者もない。7 それゆえ、牧者たちよ。主の言葉を聞け。8 わたしは生きている、と主なる神は言われる。まことに、わたしの群れは略奪にさらされ、わたしの群れは牧者がいないため、あらゆる野の獣の餌食になろうとしているのに、わたし

の牧者たちは群れを探しもしない。牧者は群れを養わず、自分自身を養っている。9 それゆえ牧者たちよ、主の言葉を聞け。10 主なる神はこう言われる。見よ、わたしは牧者たちに立ち向かう。わたしの群れを彼らの手から求め、彼らに群れを飼うことをやめさせる。牧者たちが、自分自身を養うことはもはやできない。わたしが彼らの口から群れを救い出し、彼らの餌食にはさせないからだ。

11 まことに、主なる神はこう言われる。見よ、わたしは自ら自分の群れを探し出し、彼らの世話をする。12 牧者が、自分の羊がちりぢりになっているときに、その群れを探すように、わたしは自分の羊を探す。わたしは雲と密雲の日に散らされた群れを、すべての場所から救い出す。13 わたしは彼らを諸国の民の中から連れ出し、諸国から集めて彼らの土地に導く。わたしはイスラエルの山々、谷間、また居住地で彼らを養う。14 わたしは良い牧草地で彼らを養う。イスラエルの高い山々は彼らの牧場となる。彼らはイスラエルの山々で憩い、良い牧場と肥沃な牧草地で養われる。15 わたしがわたしの群れを養い、憩わせる、と主なる神は言われる。16 わたしは失われたものを尋ね求め、追われたものを連れ戻し、傷ついたものを包み、弱ったものを強くする。しかし、肥えたものと強いものを

滅ぼす。わたしは公平をもって彼らを養う。

17 お前たち、わたしの群れよ。主なる神はこう言われる。わたしは羊と羊、雄羊と雄山羊との間を裁く。

18 お前たちは良い牧草地で養われていながら、牧草の残りを足で踏み荒らし、自分たちは澄んだ水を飲みながら、残りを足でかき回すことは、小さいことだろうか。19 わたしの群れは、お前たちが足で踏み荒らした草を食べ、足でかき回した水を飲んでい

20 それゆえ、主なる神は彼らにこう言われる。わたし自身が、肥えた羊とやせた羊の間を裁く。21 お前たちは、脇腹と肩ですべての弱いものを押しつけ、角で突き飛ばし、ついには外へ追いやった。22 しかし、わたしはわが群れを救い、二度と略奪にさらされないようにする。そして、羊と羊との間を裁く。

23 わたしは彼らのために一人の牧者を起こし、彼らを牧させる。それは、わが僕ダビデである。彼は彼らを養い、その牧者となる。24 また、主であるわたしが彼らの神となり、わが僕ダビデが彼らの真ん中で君主となる。主であるわたしがこれを語る。25 わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。悪い獣をこの土地から断ち、彼らが荒れ野においても安んじて住み、森の中でも眠れるようにする。26 わたしは、彼らとわたしの丘の周囲に祝福を与え、季節に従って雨を降らせる。それは

祝福の雨となる。27 野の木は実を結び、地は産物を生じ、彼らは自分の土地に安んじていることができ。わたしは彼らの軛の棒を折り、彼らを奴隷にした者の手から救い出すとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。28 彼らは二度と諸国民の略奪に遭うことなく、この土地の獣も彼らを餌食にしない。彼らは安らかに住み、彼らを恐れさせるものはない。29 わたしは彼らのためにすぐれた苗床を起こす。この土地には二度と凶作が臨むことはなく、彼らが諸国民に辱められることは二度とない。30 そのとき、彼らはわたしが彼らと共にいる主なる神であり、彼らはわが民イスラエルの家であることを知るようになる、と主なる神は言われる。31 お前たちはわたしの群れ、わたしの牧草地の群れである。お前たちは人間であり、わたしはお前たちの神である」と主なる神は言われる。

エドムに対して

35

1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 人の子よ、顔をセイル山に向け、それに向かって預言し、

3 彼に語りなさい。主なる神はこう言われる。セイル山よ、わたしはお前に立ち向かう。わたしはお前に向かって手を伸ばし、お前を荒れ果てた廃虚とする。

4 わたしはお前の町々を荒地地とする。

お前が廃虚になったとき

お前はわたしの主であることを知るようになる。

5 お前は果てしない敵意を抱き、イスラエルの子らが災いに遭い、最後の刑罰を受けたとき、彼らを剣に渡したからである。6 それゆえ、わたしは生きています、と主なる神は言われる。わたしはお前の血を流させ、血がお前につきまとう。血に飢えた憎しみのゆえに、血がお前につきまとう。

7 わたしはセイル山を荒れ果てた廃虚とし、行き来する者がないようにする。8 わたしは山々を殺された者で満たす。お前の丘にも谷にも、あらゆる谷間にも、剣で殺された者が倒れる。

9 わたしはお前を永久に荒れ果てた地とする。

お前の町々には住む者がなくなる。

そのとき、お前たちは

わたしが主であることを知るようになる。

10 それはお前が、『この二つの国、二つの土地はわたしのものである。我々はそれを占領する』と言ったからである。しかしそこに、主がおられた。11 それゆえ、わたしは生きています、と主なる神は言われる。お前が彼らを憎んで行った怒りとねたみに応じて、わたしもお前に行く。わたしがお前を裁くとき、わたしは彼ら

に知られるようになる。12 してお前は、主であるわたしがお前のもろもろの嘲りを聞いたことを知るようになる。お前はイスラエルの山々について言った。『それは荒れ果てて、我々の餌食となった』と。13 お前たちはわたしに向かって大口をたたき、わたしに向かつて多くの言葉を重ねた。わたしはそれを聞いた。

14 主なる神はこう言われる。わたしはお前を荒地地とする。全世界はそれを喜ぶ。15 お前がイスラエルの家の嗣業の荒れ果てたのを喜んだように、わたしもお前に同じようにする。セイル山よ、エドムの全地よ、お前は荒地地となる。そのとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。』

イスラエルの山々に向かって

1 人の子よ、あなたはイスラエルの山々に預

言して言いなさい。イスラエルの山々よ、主の

言葉を聞け。2 主なる神はこう言われる。敵がお前

ちに向かって、『ああ、永遠の丘が今や我々の所有と

なった』と言っている。3 それゆえ預言して言いな

さい。主なる神はこう言われる。お前たちは周囲の者に

荒らされ、踏みじられ、他の国々の所有となったの

で、人々の口へのぼり、うわさされるものとなった。

4 それゆえ、イスラエルの山々よ、主なる神の言葉を

栄えさせる。そのとき、お前たちはわたしが主である

ことを知るようになる。12 わたしはお前たちの上に人

人を、すなわちわが民イスラエルを歩ませる。彼らが

お前を所有し、お前は彼らの嗣業となる。二度と彼ら

の子たちを失わせることはない。

13 主なる神はこう言われる。人々はお前たちについ

て、『お前は人間を食らう地、自分の民の子を失わせる

地だ』と言っている。14 それゆえ、お前は二度と人間

を食らうことはなく、二度と自分の民の子を失わせる

ことはない、と主なる神は言われる。15 わたしは二度

と国々の辱めの声をお前に聞こえさせず、諸国の民

の侮りを二度と受けさせない。お前も自分の民を二度

とつまづかせることはない。と主なる神は言われる。

16 主の言葉がわたしに臨んだ。17 人の子よ、イスラ

エルの家は自分の土地に住んでいたとき、それを自分

の歩みと行いによって汚した。その歩みは、わたしの

前で生理中の女の汚れのようにであった。18 それゆえ、

わたしは憤りを彼らの上に注いだ。彼らが地の上に

血を流し、偶像によってそれを汚したからである。

19 わたしは彼らを国々の中に散らし、諸国に追いや

り、その歩みと行いに応じて裁いた。20 彼らはその行

く先の国々に行つて、わが聖なる名を汚した。事実、

人々は彼らについて、『これは主の民だ、彼らは自分の

聞け。主なる神は、山と丘、谷と低地、荒れ果てた廃

虚、また周囲の他の国々から略奪され侮られ、捨てら

れた町々に向かってこう言われる。5 それゆえ、主な

る神はこう言われる。わたしは燃える熱情をもって、

他の国々とエドムに対して語る。彼らはみな、心底か

らはしやぎ、嘲って、わたしの土地を取り、自分の所

有とし、牧草地を略奪した者だ。6 それゆえ、イスラ

エルの地に向かって預言し、その山々と丘、谷と低地

に語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしは熱

情と憤りをもって語った。それはお前たちが国々か

ら辱めを受けたからである。7 それゆえ、主なる神は

こう言われる。わたしは手を上げて誓う。必ず、お前

の周囲の国々は自分の恥を負う。8 しかし、お前たち

イスラエルの山々よ、お前たちは枝を出し、わが民イ

スラエルのために実を結ぶ。彼らが戻って来るのは間

近である。

9 わたしはお前たちのために、お前たちのもとへと

向かう。お前たちは耕され、種を蒔かれる。10 わたし

はお前たちの上に、イスラエル全家の人口をことごと

く増やす。町々には人が住むようになり、廃虚は建て

直される。11 わたしはお前たちの上に人と家畜を増や

す。彼らは子を産んで増える。わたしはお前たちを昔

のように人の住むところとし、初めのときよりも更に

土地から追われて来たのだ」と言った。21そこでわたしは、イスラエルの家が行った先の国々で汚したわが聖なる名を惜しんだ。

22 それゆえ、イスラエルの家に言いなさい。主なる神はこう言われる。イスラエルの家よ、わたしはお前たちのためではなく、お前たちが行った先の国々で汚したわが聖なる名のために行う。23 わたしは、お前たちが国々で汚したため、彼らの間で汚されたわが大いなる名を聖なるものとする。わたしが彼らの目の前で、お前たちを通して聖なるものとされる時、諸国民は、わたしが主であることを知るようになる、と主なる神は言われる。24 わたしはお前たちを国々の間から取り、すべての地から集め、お前たちの土地に導き入れる。

25 わたしが清い水をお前たちの上に振りかけるとき、お前たちは清められる。わたしはお前たちを、すべての汚れとすべての偶像から清める。26 わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える。27 また、わたしの霊をお前たちの中に置き、わたしの掟に従って歩ませ、わたしの裁きを守り行わせる。28 お前たちは、わたしが先祖に与えた地に住むようになる。お前たちはわたしの民となりわ

たしはお前たちの神となる。29 わたしはお前たちを、すべての汚れから救う。わたしは穀物に呼びかけ、それを増やし、お前たちに飢えを送ることはしない。30 わたしが木の実と畑の作物を豊かにするので、二度と飢饉のために、国々の間で恥をこうむることはない。31 そのとき、お前たちは自分の悪い歩み、善くない行いを思い起こし、罪と忌まわしいことのゆえに、自分自身を嫌悪する。32 わたしがこれを行うのは、お前たちのためではないことを知れ、と主なる神は言われる。イスラエルの家よ、恥じるがよい。自分の歩みを恥ずかしく思え。

33 主なる神はこう言われる。わたしがお前たちをすべての罪から清める日に、わたしは町々に人を住ませ、廃虚を建て直す。34 荒れ果てた地、そこを通るすべての人に荒地と見えていた土地が耕されるようになる。35 そのとき人々は、「荒れ果てていたこの土地がエデンの園のようになった。荒れ果て破壊されて廃虚となった町々が、城壁のある人の住む町になった」と言う。36 お前たちの周囲に残された国々も、主であるわたしがこの破壊された所を建て直し、荒れ果てていたところに植物を植えたことを知るようになる。主であるわたしが、これを語り、これを行う。

37 主なる神はこう言われる。わたしは、再びイスラ

エルの家を願うを受け入れ、彼らのために行う。わたしは彼らの人口を羊の群れのように増やす。38 祭りの時に、エルサレムが聖別された羊で満ち溢れるように、廃虚であった町々は人の群れで満たされる。そのとき、彼らはわたしが主なる神であることを知るようになる。」

枯れた骨の復活

37

1 主の手がわたしの上に臨んだ。わたしは主の霊によって連れ出され、ある谷の真ん中に降ろされた。そこは骨でいっぱいであった。2 主はわたしに、その周囲を行き巡らせた。見ると、谷の上には非常に多くの骨があり、また見ると、それらは甚だしく

枯れていた。3 そのとき、主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」わたしは答えた。「主なる神よ、あなたのみがご存じます。」4 そこで、主はわたしに言われた。「これらの骨に向かって預言し、彼らに言いなさい。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。5 これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。6 わたしは、お前たちの上に筋をおき、肉を付け、皮膚で覆い、霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。そして、お

前たちはわたしが主であることを知るようになる。」7 わたしは命じられたように預言した。わたしが預言していると、音がした。見よ、カタカタと音を立て、骨と骨とが近づいた。8 わたしが見ていると、見よ、それらの骨の上に筋と肉が生じ、皮膚がその上をすっかり覆った。しかし、その中に霊はなかった。9 主はわたしに言われた。「霊に預言せよ。人の子よ、預言して霊に言いなさい。主なる神はこう言われる。霊よ、四方から吹き来れ。霊よ、これらの殺されたものの上に吹きつけよ。そうすれば彼らは生き返る。」10 わたしは命じられたように預言した。すると、霊が彼らの中に入り、彼らは生き返って自分の足で立った。彼らは非常に大きな集団となった。

11 主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。彼らに言っている。『我々の骨は枯れた。我々の望みはうせ、我々は滅びる』と。12 それゆえ、預言して彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはお前たちの墓を開く。わが民よ、わたしはお前たちを墓から引き上げ、イスラエルの地へ連れて行く。13 わたしが墓を開いて、お前たちを墓から引き上げるとき、わが民よ、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。14 また、わたしがお前たちの中に霊を吹き込むと、お前たちは生き

る。わたしはお前たちを自分の土地に住まわせる。そのとき、お前たちは主であるわたしがこれを語り、行ったことを知るようになる」と主は言われる。

一つとなる神の民

15 主の言葉がわたしに臨んだ。16 人の子よ、あなたは一本の木を取り、その上に『ユダおよびそれと結ばれたイスラエルの子らのために』と書き記しなさい。また、別の木をとり、その上には『エフライムの木であるヨセフおよびそれと結ばれたイスラエルの全家のために』と書き記しなさい。17 それらを互いに近づけて一本の木としなさい。それらはあなたの手の中で一つとなる。18 あなたの民の子らがあなたに向かつて、『これらはあなたにとって何を意味するのか告げてくれないか』と言うとき、19 彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはエフライムの手の中にあるヨセフの木、およびそれと結ばれたイスラエルの諸部族を取り、それをユダの木に一つとなす一本の木とする。それらはわたしの手の中で一つとなる。20 あなたがその上に書き記した木は、彼らの目の前でああなたの手にある。21 そこで、彼らに語りなさい。主なる神はこう言われる。わたしはイスラエルの子らを、彼らが行っていた国々の中から取り、周囲から集め、彼らの

土地に連れて行く。22 わたしはわたしの地、イスラエルの山々で彼らを一つの国とする。一人の王が彼らすべての王となる。彼らは二度と二つの国となることなく、二度と二つの王国に分かれることはない。23 彼らは二度と彼らの偶像や憎むべきもの、もろもろの背きによって汚されることはない。わたしは、彼らが過ちを犯したすべての背信から彼らを救い清める。そして、彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。24 わたしの僕ダビデは彼らの王となり、一人の牧者が彼らすべての牧者となる。彼らはわたしの裁きに従って歩み、わたしの掟を守り行う。25 彼らはわたしがわが僕ヤコブに与えた土地に住む。そこはお前たちの先祖が住んだ土地である。彼らも、その子らも、孫たちも、皆、永遠に至るまでそこに住む。そして、わが僕ダビデが永遠に彼らの支配者となる。26 わたしは彼らと平和の契約を結ぶ。それは彼らとの永遠の契約となる。わたしは彼らの住居を定め、彼らを増し加える。わたしはまた、永遠に彼らの真ん中にわたしの聖所を置く。27 わたしの住まいは彼らと共にあり、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。28 わたしの聖所が永遠に彼らの真ん中に置かれるとき、諸国民は、わたしがイスラエルを聖別する主であることを知るようになる。」

マゴグのゴグに対して

38

1 主の言葉がわたしに臨んだ。2 人の子よ、マゴグの地のゴグ、すなわちメシエクトとトバルの総首長に対して顔を向け、彼に預言して、3 言いなさい。主なる神はこう言われる。メシエクトとトバルの総首長ゴグよ、わたしはお前に立ち向かう。4 わたしはお前を立ち帰らせ、お前の頸に鉤をかけて、お前とその全軍、馬と騎兵を連れ出す。彼らは皆完全に武装した大集団で、大盾と小盾を持ち、皆剣を持っている。5 ペルシア、クシュ、プトが彼らと共におり、皆、盾を持ち、兜をかぶっている。6 ゴメルとそのすべての軍隊、北の果てのベト・トガルマとそのすべての軍隊、それに多くの国民がお前と共にいる。7 備えをせよ。お前も、お前のもとに召集されるすべての集団も備えをせよ。お前は彼らの監督となれ。8 多くの日の後、お前は呼び出され、また、多くの年を経た後、一つの国を襲う。それは長く荒れ廃れていたイスラエルの山々で、そこには、剣の恐れから解放され、多くの民の中から集められた民がいる。彼らは多くの民の中から連れ出されて、今は皆、安らかに暮らしている。9 お前は嵐のように上って来て、地を覆う雲のように襲いかかる。お前とお前の全軍、お前と共にいる多く

の民は。10 主なる神はこう言われる。その日、お前の心に言葉が浮かぶ。お前は悪い計画を立て、11 そして言う。『わたしは囲いのない国へ攻め上る。城壁もかんぬきも門もなく安らかに生活している静かな国を襲う』と。12 お前はかつて廃虚であったが、今は人の住んでいる国、諸国民のもとから集められ、国の中心の山々に住み、家畜や財産を持っている民に対して手を上げ、戦利品を奪い、ほしいままに略奪しようとしている。13 シエバとデタン、タルシシュの商人たち、およびその富豪たちはすべてお前に言う。『お前は戦利品を奪うために来たのか。お前はほしいままに略奪するために集団を組んだのか。金銀を運び去り、家畜や財産を手に入れ、多くの戦利品を奪おうとするのか』と。14 それゆえ、人の子よ、ゴグに対して預言して言いなさい。主なる神はこう言われる。わが民イスラエルが安らかに暮らしているとき、お前はいきり立つのか。15 お前は北の果ての自分の所から、多くの民を伴って来る。彼らは皆、馬に乗っている大集団、大軍団だ。16 お前はわが民イスラエルに向かって、地を覆う雲のように上って来る。そのことは、終わりの日に起こる。わたしはお前を、わたしの地に連れて来る。それは、ゴグよ、わたしが国々の中で、お前を通して

自分の聖なることを示し、彼らがわたしを知るようになるためである。

17 主なる神はこう言われる。お前は、遠い昔、わたしが僕であるイスラエルの預言者たちを通して語ったその者ではないか。この預言者たちは、長年にわたって、彼らに向かってわたしがお前を来させる、と語った。

18 ゴグがイスラエルの地を襲う日、まさにその日に、と主なる神は言われる。わたしの憤りは激しく燃え上がる。19 わたしは熱情と怒りの火をもって語る。必ずその日に、イスラエルの地には大地震が起こる。20 海の魚、空の鳥、野の獣、地の上を這うすべてのもの、および地上のすべての人間は、わたしの前に震える。山々は裂け、崖は崩れ、すべての城壁は地に倒れる。21 わたしはすべての山の上で、ゴグに向かって剣を呼び寄せる、と主なる神は言われる。人はおの、剣をその兄弟に向ける。22 わたしは疫病と流血によって彼を裁く。わたしは彼とその軍勢、また、彼と共にいる多くの民の上に、大雨と雹と火と硫黄を注ぐ。23 わたしは自らの偉大さと聖とを多くの国々の前に示す。そのとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。

こともない。彼らは武器で火を燃やすからである。彼らは戦利品を取り返し、略奪されたものを奪い返す、と主なる神は言われる。

11 その日、わたしはゴグのために、イスラエルの中をよく知られている場所を墓地として与える。それは海の東の旅人の谷である。その墓は旅人の道をふさいでしまう。人々はそこにゴグとすべての軍勢を埋め、そこをゴグの軍勢の谷と呼ぶようになる。12 イスラエルの家はその地を清めるため、七か月の間彼らを埋める。13 その地のすべての民は彼らを埋め、わたしが栄光を受ける日に民はその名を知られるようになる、と主なる神は言われる。14 民は、常に国中を行き巡る人々を選び、彼らにその土地に残っている侵入者たちを埋めさせ、その地を清めさせる。彼らは七か月の終わりまで、残っている者を探すであろう。15 国中を行き巡る者たちが行き巡り、人間の骨を見付けると、埋める者がそれをゴグの軍勢の谷に埋め終わるまで、その傍らに標識を立てておく。16 そこで、ハモナ(軍勢)という名の町ができる。こうして、彼らはその土地を清める。

17 人の子よ、主なる神はこう言われる。あらゆる種類の猛禽と、あらゆる種類の野の獣に語りなさい。お前たちは集まれ。来て、わたしがお前たちのために

39

1 人の子よ、あなたはゴグに向かい預言して言いなさい。主なる神はこう言われる。メシエクトバルの総首長ゴグよ。わたしはお前に立ち向かう。2 わたしはお前を立ち帰らせ、お前を導いて北の果てから連れ上り、イスラエルの山々に来させる。3 そして、お前の左手から弓を叩き落とし、右手から矢を落とさせる。4 お前とすべての軍隊も、共にいる民も、イスラエルの山の上で倒れる。わたしはお前をあらゆる種類の猛禽と野の獣の餌食として与える。5 お前は野の上に倒れる。まことにわたしがこれを語った、と主なる神は言われる。6 わたしは、火をマゴグと海岸地方に安らかに住む者たちに送る。そのとき、彼らはわたしが主であることを知るようになる。7 わたしは、わが民イスラエルの中にわが聖なる名を知らせる。わたしはわが聖なる名を二度と汚さない。そのとき、諸国民はわたしが主であり、イスラエルの中の聖なる者であることを知るようになる。8 このことは到来し、実現する、と主なる神は言われる。それは、わたしが語った日である。

9 イスラエルの町々に住む者は出て来て、もろもろの武器、すなわち盾と大盾、弓矢、棍棒、槍を火で燃やす。彼らはそれで七年間火を燃やし続ける。10 彼らは、野から木を取ってくることも、森から薪を集める屠ったわたしの犠牲に向かい周囲から集まれ。それはイスラエルの山々の上での大いなる犠牲である。お前たちはその肉を食らい、その血を飲め。18 勇士たちの肉を食らい、国の支配者たちの血を飲め。それは雄羊、小羊、雄山羊、雄牛であり、みなバシヤンの肥えた動物たちである。19 お前たちは、わたしがお前たちのために屠った犠牲から、飽きるまで脂肪を食べ、酔うまで血を飲むがよい。20 お前たちはわたしの食卓で、馬や騎兵、勇士やすべての兵士たちの肉を飽きるまで食べる、と主なる神は言われる。21 わたしは国々の間にわが栄光を現し、国々はすべてわたしの行う裁きと、彼らの上に置くわたしの手を見る。

22 その日から後、イスラエルの家はわたしが彼らの神、主であることを知るようになる。23 国々は、イスラエルの家がわたしに不信の行為を行ったために捕囚となったこと、また、わたしが顔を隠し、彼らを敵の手に渡したため、彼らは皆、剣に倒れたことを知るようになる。24 わたしは、彼らの汚れと罪に応じて行い、わたしの顔を隠した。

25 それゆえ、主なる神はこう言われる。今やわたしはヤコブの繁栄を回復し、イスラエルの全家をわが聖なる名のゆえに熱い思いをもって憐れむ。26 彼らは自分の土地に安らかに住み、脅かす者がいなくなると

き、わたしに背いた恥とすべての不信の罪の責めを担う。27 わたしが彼らを諸国の民の中から帰らせ、敵の地から集めるとき、わたしは国々の前で、彼らを通して自分の聖なることを示す。28 わたしは彼らを国々に捕囚として送ったが、自分の土地に集めて、もはや、かの地には残さない。そのとき、彼らはわたしが彼らの神、主であることを知るようになる。29 わたしは二度とわが顔を彼らに隠すことなく、わが霊をイスラエルの家に注ぐ」と主なる神は言われる。

新しい神殿の幻

40

1 我々が捕囚になってから二十五年、都が破壊されてから十四年目、その年の初めの月の十日、まさにその日に、主の手がわたしに臨み、わたしをそこへ連れて行った。2 神の幻によって、わたしはイスラエルの地に伴われ、非常に高い山の上を下るされた。その南側に都のように建設された物があった。3 主がわたしをそこへ連れて行くと、その姿が青銅のように輝いている一人の人が門の傍らに立っており、手には麻繩と測り竿を持っていた。4 その人はわたしに向かつて言った。「人の子よ、自分の目で見、自分の耳で聞き、わたしがこれから示す、すべてのことを心に留めなさい。あなたがここに連れて来られたのは、

それを示すためです。あなたが見ることを、すべてイスラエルの家に告げなさい。」
5 見ると、神殿の周囲を囲んでいる外壁があった。その人は六アンマの測り竿を手持っていた。ここでいう一アンマは、普通のアンマに一トファを加えた長さである。彼がその壁を測ると、その厚さも、高さも一竿であった。
6 彼は東の方に向いている門を入った。その石段を上って、門の敷居を測ると、奥行きは一竿、つまり最初の敷居の奥行きは一竿であった。7 そして、控えの間は奥行きも間口も一竿、控えの間と控えの間の間隔は五アンマであり、廊門を内側に抜けるところにある門の敷居の奥行きは一竿であった。8 廊門の奥行きを測ると、9 アンマで、そこには厚さ二アンマの脇柱があり、それが内側の廊門であった。10 東の方に向いている門の控えの間は、通路の両側に三つずつあった。三つの部屋は同じ寸法であり、それに両側の脇柱も同じ寸法であった。11 門の入り口の幅を測ると、十アンマで、門全体の幅は十三アンマであった。12 それぞれの控えの間にある仕切りの厚さは一アンマ、向こう側の仕切りも一アンマであった。控えの間は両側ともに六アンマであった。13 門を、一方の控えの間の端から他方の控えの間の端まで測ると、二十五アンマ

であり、控えの間の入り口と入り口は向かい合っていた。14 廊門を測ると、六十アンマあり、柱は門に沿って庭の周囲を取り囲んでいた。15 正面入り口の門の前面から、内側に面した廊門の前面までは五十アンマであった。16 明かり取りの格子窓が、両側の門の内側の控えの間にも脇柱にもつけられており、同じように廊の内側にも、明かり取りの格子窓が向かい合っつけられていた。脇柱にはなつめやしの飾りがあった。17 更に、彼はわたしを外庭に連れて行った。すると、そこに部屋があった。庭の周りには敷石があった。敷石に沿って、その周りには三十の部屋があった。18 敷石は門の両側にあり、門の奥行きと同じ幅で敷き詰められていた。それが下の敷石である。19 下の庭の広さを、下の門の内側から内庭の門の外側までの距離で測ると、百アンマあった。これが東側であり、北側も同じであった。

20 外庭に続いて、北の方に向いている門があった。彼はその長さと幅を測った。21 控えの間は、両側に三部屋ずつあり、脇柱と廊は最初の門と同じ寸法であり、門の奥行きは五十アンマ、幅は二十五アンマであった。22 明かり取りの格子窓と廊となつめやしの飾りは、東の方に向いている門と同じ寸法であった。それから七段の石段を上って入ると、その先に廊があっ

た。23 内庭の門は、東の門と同じように、北の外門に相對していた。門から門までを測ると、百アンマであった。
24 更に、彼はわたしを南の方へ連れて行った。すると、南の門があった。その脇柱と廊を測ると、やはり前と同じ寸法であった。25 脇柱と廊の周りには、前と同じように明かり取りの格子窓があった。門の奥行きは五十アンマ、幅は二十五アンマであった。26 七段の石段を上ると、その先に廊があり、なつめやしの飾りが一つずつ両側の脇柱にあった。27 内庭の門は南の方に向いており、この門から南に向いている外門までを測ると、百アンマであった。
28 更に、彼は南に向いている門から、わたしを内庭に連れて行った。南の門を測ると、前の場合と同じ寸法であった。29 控えの間と脇柱と廊も前の場合と同じ寸法であり、脇柱と廊の周りには明かり取りの格子窓があった。門の奥行きは五十アンマ、幅は二十五アンマであった。30 その周囲の廊の長さは一十五アンマ、幅は五アンマであった。31 廊は外庭に向き、脇柱にはなつめやしの飾りがあり、石段は八段であった。
32 更に、彼はわたしを内庭の東側に連れて行った。門を測ると、前と同じ寸法であった。33 控えの間と脇柱と廊も前と同じ寸法であった。脇柱と廊の周りに

20 外庭に続いて、北の方に向いている門があった。彼はその長さと幅を測った。21 控えの間は、両側に三部屋ずつあり、脇柱と廊は最初の門と同じ寸法であり、門の奥行きは五十アンマ、幅は二十五アンマであった。22 明かり取りの格子窓と廊となつめやしの飾りは、東の方に向いている門と同じ寸法であった。それから七段の石段を上って入ると、その先に廊があっ

は、明かり取りの格子窓があった。門の奥行きは五十アンマ、幅は二十五アンマであった。34廊は外庭に向き、なつめやしの飾りが両側の脇柱に付けられており、石段は八段であった。

35更に、彼はわたしを北の門に連れて行った。彼がこれを測ると、前と同じ寸法であった。36控えの間、脇柱、廊、その周囲の明かり取りの格子窓も同じであった。門の奥行きは五十アンマ、幅は二十五アンマであった。37廊は外庭に向き、なつめやしの飾りが両側の脇柱に付けられていた。石段は八段であった。

38 また一つの部屋があって、その入り口は門の脇柱のそばにあった。そこで、人々は焼き尽くす献げ物の動物を洗うのである。39門の廊の両側には、それぞれ、二つの聖卓があった。この上で焼き尽くす献げ物、贖罪の献げ物、賠償の献げ物の動物が屠られる。40北の門の入り口の上って行くと、廊門の外側の片側に二つの聖卓があり、また、廊門の他の側にも二つの聖卓があった。41つまり廊門の内側と外側に、それぞれ四つの聖卓が置かれ、聖卓は全部で八つあり、その上で動物を屠るのであった。42焼き尽くす献げ物に用いる四つの聖卓は、長さ一アンマ半、幅も一アンマ半、そして、高さは一アンマの切り石であった。この上に、焼き尽くす献げ物と和解の献げ物を屠る道具を置くの

である。43一トファアの長さの二またの鉤が部屋の内側の周りに列をなして付けられていた。献げ物の肉は、そこから聖卓の上に置かれる。

44内庭には、内門の外側に歌い手の部屋がある。一つは北の門の傍らにあって南の方へ向いており、もう一つは東の門の傍らにあって、北の方へ向いていた。45彼はわたしに言った。「南の方へ向いている部屋は、神殿の務めを行う祭司のためである。46北の方へ向いている部屋は、祭壇の務めを行う祭司のためである。」彼らはツアドクの子らであり、彼らだけが、レビ人の中で、主に近づいて仕えることが許される。47彼が内庭を測ると、長さは百アンマ、幅も百アンマの正方形であり、神殿の前には祭壇があった。

48それから、彼はわたしを神殿の廊に連れて行った。廊の両側の脇柱を測ると、それぞれ五アンマであった。門の両側の壁の幅はそれぞれ三アンマ、49廊門の幅は二十アンマ、奥行きは十二アンマであった。そして十段の石段を上った両側の脇柱の傍らにそれぞれ一本の円柱があった。

41 彼はわたしを拝殿に連れて行った。まず、脇柱を測ると、こちら側の幅は六アンマ、あちら側の幅も六アンマであった。これが脇柱の幅である。2入り口の幅は十アンマ、入り口の両側の壁の幅はこ

であった。11脇間の入り口については、一つが北へ、他の一つが南へ向いており、その間に空き地があった。この空き地は周囲にあって、その幅は五アンマであった。

12神殿の西側にある神域に面した別殿は奥行き七十アンマ、建物の周囲の壁は厚さ五アンマ、建物の横幅は九十アンマであった。

13神殿を測ると、奥行きは百アンマであり、神域と別殿の奥行きとその壁の厚さを合計すると百アンマであった。14神殿の正面は、神域に面する裏側と同じくその幅は百アンマであり、15神域に面し、その裏側にある別殿の横幅を測ると、その両側のテラスを含めて百アンマであった。奥の拝殿とその前の廊と、16敷居、明かり取りの格子窓、敷居の前の三方にある周りのテラスは、それぞれ周囲を板で作り巡らされていた。その床から窓まで、それから窓枠も板張りであった。17そして、入り口の上まで、また、神殿の内側と外側にも、更に周囲の壁にも内側と外側に、くまなく、18ケルビムとなつめやしの模様が刻まれていた。なつめやしは、ケルビムとケルビムの間にあった。ケルビムには二つの顔があって、19人間の顔はこちらのなつめやしに向き、獅子の顔はあちらのなつめやしに向いていた。それは神殿の周りにも刻まれていた。20床か

こちら側が五アンマ、あちら側も五アンマであった。拝殿の奥行きを測ると四十アンマ、その横幅は二十アンマであった。3内部に入って、次の入り口の脇柱の厚さを測ると二アンマ、その入り口自体の幅は六アンマ、入り口の両側の壁の幅はそれぞれ七アンマであった。4更に、拝殿の奥の面まで奥行きを測ると二十アンマ、その横幅も二十アンマであった。そして彼はわたしに、「ここが至聖所である」と言った。

5彼が神殿の壁の厚さを測ると六アンマ、脇間の幅は四アンマで、神殿の周囲を囲んでいた。6脇間の上には脇間があって、三階建になっていた。各階に三十の脇間があった。神殿の壁には、周囲に突き出た所があって、脇間の支えになっていた。神殿の壁には、支えが差し込まれていないからである。7回廊となつている神殿の脇間の上いくほど広くなっており、神殿は各階ごとに回廊がついている。しかも、階が上がるごとに広くなっている。地階から最上階へは中間の階を経て上っていく。8次にわたしは、神殿の周囲が一段と高く舗装されているのを見た。それは脇間の土台で、その高さはちょうど二竿、または六アンマであった。9脇間の外側の壁の厚さは五アンマであった。そして、空き地が神殿の脇間と、10神殿を取りま

く周囲の部屋との間にあり、その横幅は二十アンマで

ら入り口の鴨居の上まで、神殿の壁にはケルビムとなつめやしが刻まれていた。

21 拝殿の入り口には四つの側柱があった。聖所の前にあったのは、22 木製の祭壇で、その高さは三アンマ、長さは二アンマであり、四隅には縁があった。その台と側面は木製であった。彼はわたしに、「これは主の前に置かれた聖卓である」と言った。23 拝殿には、二つの扉があって、聖所にも24 二つの扉があった。それぞれの扉は二つに折れるようになっていた。一つの扉は二枚となつており、他方の扉も二枚になっていた。25 それらの拝殿の扉には、壁に刻まれているのと同じように、ケルビムとなつめやしに刻まれていた。廊の正面の外側には、木製の格子がついていた。26 そして、明かり取りの格子窓と、なつめやしの模様、廊の両側と神殿の脇間と差し掛け屋根にほどこされていた。

42 1 それから、彼はわたしを北側の方の外庭に入れて行き、神域と別殿に対して北側にある部屋に入らせた。2 その北側の正面の横幅は百アンマ、その奥行きは五十アンマであった。3 内庭に向かい合つて二十アンマのところ、また、外庭の敷石にも向かい合つて、三段の階段状の建物があった。4 それらの部屋の前には、幅十アンマの通路があり、内庭に沿つ

て幅一アンマの道があった。部屋の入り口は北側にあった。5 その最上階に並んでいる部屋は狭くなつていて、それは、テラスが建物の地階と中間の階より多くの場所をとっていたからである。6 この建物は三段になっていて、そこには外庭にあるような柱がなかった。そのため、この建物は地面から地階、中間の階と順次に狭くなつていた。7 また、外庭に通じる部屋に沿う外側には境壁があった。この長さは部屋に沿って五十アンマであった。8 外庭に面した部屋の長さが五十アンマだからである。こうして、建物の全長は百アンマとなる。9 これらの部屋の下の方には、東側からの入り口があって、外庭から入れられるようになっていた。10 そこから外庭の境壁が始まつていた。東側にも、神域と別殿とに沿って部屋があった。11 その前には道があった。この部屋の形は北側の部屋と同じであり、横幅も奥行きも同じであった。また出口と、その配置、入り口もみな同じ形であった。12 南側の部屋の入り口のうち、一つは道の角にあった。その道は丈夫な隔離壁に面しており、東から入るようになっていた。

る。またそこに、彼らは最も神聖なものを置く。それは穀物の献げ物、贖罪の献げ物、賠償の献げ物である。この場所が神聖だからである。14 祭司たちが聖所に入ったときは、聖所からそのまま外庭へ出てはならない。務めの時に身に着けた衣服はそこに置く。なぜなら、それは神聖だからである。彼らは別の衣服に着替えて、民のいる所に近づかねばならない。」

15 彼が神殿内の測量を終ると、東に面している門からわたしを外へ連れ出し、そして、彼は周囲を測つた。16 彼が東側を測り竿で測ると、長さはその測り竿で五百アンマであった。17 また、移動して北側を測り竿で測ると、長さは測り竿で五百アンマであった。次に転じて、18 南側を測り竿で測ると、長さはその測り竿で五百アンマ。19 彼が西側を測り竿で測ると、その長さはその測り竿で五百アンマであった。20 彼は四方を測つたが、外壁は全体を囲んでおり、その長さは五百アンマ、幅も五百アンマであった。それは、聖なるものを俗なるものから区別するためであった。

43

1 それから、彼はわたしを東の方に向いている門に導いた。2 見よ、イスラエルの神の栄光が、

東の方から到来しつつあった。その音は大水のとどろきのようにあり、大地はその栄光で輝いた。3 わたしが見た幻は、このような幻であった。それは彼が町を滅ぼすために来たとき、わたしが見た幻と同じであった。その幻は、わたしがケバル川の河畔で見た幻と同じであった。わたしはひれ伏した。4 主の栄光は、東の方に向いている門から神殿の中に入った。5 霊はわたしを引き上げ、内庭に導いた。見よ、主の栄光が神殿を満たしていた。6 わたしは神殿の中から語りかける声を聞いた。そのとき、かの人がわたしの傍らに立っていた。

主の顕現
1 それから、彼はわたしを東の方に向いている門に導いた。2 見よ、イスラエルの神の栄光が、

7 彼はわたしに言った。「人の子よ、ここはわたしの王座のあるべき場所、わたしの足の裏を置くべき場所である。わたしは、ここで、イスラエルの子らの間にとこしえに住む。二度とイスラエルの家は、民も王たちも、淫行によって、あるいは王たちが死ぬとき、その死体によって、わが聖なる名を汚すことはない。8 彼らとその敷居をわたしの敷居の脇に据え、彼らの門柱をわたしの門柱の傍らに立てたので、わたしと彼らとの間は、壁一つの隔りとなった。彼らは忌まわしいものを造つて、わが聖なる名を汚したので、わたしは怒りをもって彼らを滅ぼした。9 今、わたしのも

わたしは彼らの間にとこしえに住む。
 10 人の子よ、あなたはイスラエルの家にこの神殿を示しなさい。それは彼らが自分の罪を恥じ、神殿のあるべき姿を測るためである。11 もし彼らが行ってきたすべてのことを恥じたならば、神殿の計画と施設と出入口口、そのすべての計画とすべての掟、計画と律法をすべて彼らに知らせなさい。それを彼らの目の前で書き記し、そのすべての計画と掟に従って施工させなさい。12 以下は山の頂の神殿に関する律法である。周囲を区切られたこの領域はすべて最も神聖である。見よ、これが神殿に関する律法である。

13 祭壇の大きさをアンマで示すと、次のとおりである。ただし、これは普通のアンマに一トファを加えたものである。祭壇の土台の周囲の溝は深さ一アンマ、幅一アンマで、溝の周囲の縁取りの高さは一ゼレトである。祭壇の台座は、次のようである。14 地下の溝から下の段までの高さは二アンマ、その幅は一アンマで、中段から上段までの高さは四アンマ、その幅は一アンマである。15 祭壇の炉の高さは四アンマで、炉の四隅には四つの角が出ている。16 この炉は長さ十二アンマ、幅十二アンマの正方形である。17 これを支える中段の四辺は長さ十四アンマ、幅十四アンマである。その周囲の縁は高さ二分の一アンマ、周りの溝の幅は

一アンマである。祭壇の階段は東に向いている。
 18 彼はわたしに言った。「人の子よ、主なる神はこう言われる。以下は焼き尽くす献げ物をささげ、血を注ぐ祭壇を造る時の掟である。19 ツアドクの子孫であるレビ人の祭司だけが、わたしに仕えるためにわたしに近づくことができる、と主なる神は言われる。あなたは彼らに贖罪の献げ物である若い雄牛を与えなさい。
 20 あなたはその血を取って、祭壇の四つの角と土台の四隅と周囲の縁に注ぎ、それを清め贖いなさい。21 あなたは、贖罪の献げ物の雄牛を取って、それを聖所の外の神殿の定められた場所で焼きなさい。
 22 その翌日、あなたは無傷の雄山羊を贖罪の献げ物としてささげ、それによって、雄牛で清めたように、祭壇を清めなさい。23 あなたは、清めを完了したのち、無傷の若い雄牛と、群れの中から選んだ無傷の雄羊をささげなさい。24 あなたは、それらを主の前にささげ、祭司たちはその上に塩をまき、焼き尽くす献げ物として主にささげる。25 あなたは、七日の間、毎日、贖罪の献げ物の雄山羊をささげ、また若い雄牛と群れの中から選んだ無傷の雄羊を選んでささげなさい。26 七日の間、彼らは祭壇を贖い、清めて、奉獻しなければならぬ。
 27 これらの日が終わると、八日目以後、祭司たちは

あなたたちの焼き尽くす献げ物と和解の献げ物を祭壇にささげる。そして、わたしはあなたたちを受け入れる」と主なる神は言われる。

44

1 それから、彼はわたしを東に面した聖所の外の門の方へ連れ戻した。門は閉じられていた。
 2 主はわたしに言われた。「この門は閉じられたままにしておく。開いてはならない。だれもここを通ってはならない。イスラエルの神、主がここから入られたからである。それゆえ、閉じられたままにしておく。
 3 しかし君主だけは、ここに君主として座り、主の前で食物を食べてもよい。ただし門の廊から入り、またそこから出て行かなければならない。」

祭司の務め

4 それから、彼はわたしを北の門を通って神殿の前に連れて行った。わたしが見ると、主の栄光が主の神殿を満たしていた。わたしはひれ伏した。5 主はわたしに言われた。「人の子よ、わたしがあなたに、主の神殿に関して語るすべてのこと、そのすべての掟とすべての律法に心を留め、自分の目で見、自分の耳で聞きなさい。特に、神殿に入ってよい者と、聖所から排除すべき者すべてに注意しなさい。6 それから、反逆する者であるイスラエルの家に向かって言いなさい。主

なる神はこう言われる。イスラエルの家よ、お前たちのすべての忌まわしい行いは既に十分である。7 お前たちは、心に割礼を受けず、体にも割礼を受けていない外国人を、わたしの聖所の中に引き入れてとどまらせ、彼らにわたしの食物として脂身と血をささげさせ、わたしの神殿を汚し、すべての忌まわしい行いによってわたしの契約を破った。8 お前たちはわたしの聖所の務めを守らず、お前たちの代わりに外国人をわたしの聖所で務めを行う者にした。9 主なる神はこう言われる。心に割礼を受けず、体にも割礼を受けていないすべての外国人、すなわちイスラエルの子らの中には住んでいるすべての外国人は、わたしの聖所に入ってはならない。
 10 レビ人は、イスラエルが迷ったとき、わたしから離れて偶像に従い迷ったので、その罪を負わねばならない。11 彼らはわたしの聖所で奉仕するが、神殿のそれぞれの門に詰めて神殿の雑務を行う。彼らは、民のために焼き尽くす献げ物と会食の献げ物の動物を屠り、民の前で彼らに仕える。12 彼らは民の偶像礼拝を助け、イスラエルの家のつまずきとし、罪を犯させたからである。

それゆえ、わたしは手を上げて誓う、と主なる神は言われる。彼らは自分の罪を負わねばならない。13 彼

らは、祭司としてわたしに仕えるために近づくことはできない。また、最も神聖な、わたしの聖なるいかなるものにも触れることはできない。彼らは自分の犯した恥すべきこと、忌まわしいことの責任を負わねばならない。14 わたしは、彼らを神殿の雑務を行う者とし、神殿で行われるさまざまな仕事を与える。

15 イスラエルの子らが迷って、わたしから離れたとき、わたしの聖所の務めを守ったレビ人の祭司であるツァドクの子孫は、わたしに近づき仕えることができる。彼らはわたしの前に立って、脂肪と血をささげねばならない、と主なる神は言われる。16 彼らはわたしの聖所に入ることができる。彼らはわたしの聖草に近づいて、わたしに仕え、務めを行う。17 彼らが内庭の門に入るときは、亜麻布の衣服を着なければならぬ。内庭の門と神殿で仕えるときは、羊毛のものを身に着けてはならない。18 頭には亜麻布のターバンをかぶり、腰には亜麻布の短いズボンをはかねばならない。汗が出るようなものを着てはならない。19 彼らが民のいる外庭に出て行くときは、務めを行うときに着用した衣服を脱ぎ、神聖な部屋に置き、別の衣服を着なければならぬ。彼らがその衣服で民に神聖さを移すことがないためである。

20 祭司は頭をそってはならない。また髪を伸ばして

はならない。頭髮はきちんと刈り込んでおかねばならない。21 祭司はだれでも、内庭に入るとき、ぶどう酒を飲んでいてはならない。22 彼らは、寡婦や離婚された女を妻にめとってはならない。イスラエルの家の血筋を引く処女をめとらねばならない。しかし、祭司の妻で寡婦になった者は、めとってよい。

23 彼らは、わたしの民に聖と俗の区別を示し、また、汚れたものと清いものの区別を教えねばならない。24 争いのあるときは、彼らが裁く者として臨み、わたしの裁きによって裁かねばならない。彼らは、わたしが定めたすべての祝祭日に、わたしの律法と掟を守らねばならない。また、わたしの安息日を聖別しなければならぬ。25 祭司は、死人の出家に入ってから自分の身を汚してはならない。ただし父、母、息子、娘、兄弟、および未婚の姉妹の場合、身を汚してもよい。26 祭司は、身を清めたのち、七日間、待たねばならない。27 再び聖所で仕えるために、聖所の内庭に入る日には、贖罪の献げ物をささげねばならない、と主なる神は言われる。

28 彼らは嗣業を持たない。わたしが彼らの嗣業である。あなたたちはイスラエルにおいて彼らに財産を与えてはならない。わたしが彼らの財産である。29 彼らは穀物の献げ物、贖罪の献げ物、賠償の献げ物として主なる神に仕えるために近づくことができる。それは、彼らの家を建てる場所であって、聖所の聖域でもある。

5 また、もう一つの長さ二万五千アンマ、幅一万アンマの地域は神殿に仕えるレビ人の所有となり、彼らの住む町となる。

6 あなたたちは、聖なる献げ物としてささげた献納地に浴って、幅五千アンマ、長さ二万五千アンマの区域を都の所有にしなければならぬ。これは、イスラエルの家全体のものである。7 君主の領地は、聖なる献納地と都の所有地の両側にあつて、聖なる献納地と都の所有地に隣接し、西側は西の方に、東側は東の方に広がっている。その長さは一つの部族の割り当て地の西の境から東の境に及ぶ長さに相当する。8 これは、君主がイスラエルにおいて所有する土地である。わたしが立てた君主たちは、もはやわが民を虐げない。彼らはその他の土地をイスラエルの家とその部族にゆだねる。

9 主なる神はこう言われる。
イスラエルの君主たちよ、もう十分だ。
不法と強奪をやめよ。
正義と恵みの業を行い

わが民を追い立てることをやめよ
主なる神は言われる。

てささげられたものを食べることができる。イスラエルにおいてささげられたものは、ことごとく彼らに与えられる。30 あらゆる初物の献げ物の中で最良のものはすべて、また、あなたたちがささげるすべてのものの中で最良の献げ物はすべて、祭司のものとなる。あなたたちが初物の麦粉で作ったものも祭司に与えねばならない。あなたたちの家に祝福をもたらすためである。31 祭司は、鳥でも獣でも、自然に死んだものにせよ、かみ殺されたものにせよ、すべて死んでいたものを食べてはならない。」

聖域

45

1 「あなたたちが、国を嗣業として割り当てるときは、土地の一部を聖なる献げ物として主にささげねばならない。その土地は、長さ二万五千アンマ、幅二万アンマであり、この領域は周囲全体にわたって聖なるものとなる。

2 このうち縦横五百アンマの正方形の区域を聖所の境内とし、その周囲に幅五十アンマの放牧地を設けねばならない。3 あなたは、この地域から長さ二万五千アンマ、幅一万アンマを測り、そこに最も聖なる聖所を設けねばならない。4 それは、この地の聖なる場所であつて、神殿に仕える祭司たちのものとなる。彼ら

祭りと献げ物

10「あなたたちは、正確な天秤、正確なエファ升、正確なバト升を用いなさい。11そのエファ升とバト升は、同じ量の入れ物でなければならぬ。一バトは一ホルの十分の一であり、一エファは一ホルの十分の一である。その測定はホルによる。12一シエケルは二十ゲラである。二十シエケル、二十五シエケル、十五シエケルの合計が一マネである。

13あなたたちがささげるべき献げ物の割合は、次のとおりである。小麦については、一ホルにつき六分の一エファ。大麦については、一ホルにつき六分の一エファ。14油については、一バトにつき六分の一エファ。15油はバト升を用いる。一コルから十分の一バト。十バトは一ホルであり、同様に十バトは一コルである。15また、イスラエルの牧羊地から二百匹の群れにつき羊一匹である。これらのものを殺物の献げ物、焼き尽くす献げ物、和解の献げ物としてささげ、彼らの贖いとせよ、と主なる神は言われる。

16国のすべての民はこれらの献げ物をイスラエルの君主にもたらさねばならない。17そして君主は、焼き尽くす献げ物、殺物の献げ物、ぶどう酒の献げ物を、巡礼の祭り、新月の祭り、安息日、およびイスラエルの

うに七日の間、贖罪の献げ物、焼き尽くす献げ物、殺物の献げ物と油をささげねばならない。

46

1主なる神はこう言われる。「内庭の東向きの門は、仕事をする六日の間、閉じておかねばならない。安息日には門を開く。また、新月の日にも門を開かねばならない。2君主は外から門の廊を通って中に入り、祭司たちが焼き尽くす献げ物と和解の献げ物をささげている間、門柱の傍らに立っていななければならない。そして、門の敷居の所で礼拝した後、出て行く。門は夕方まで閉じてはならない。3国の民は、安息日と新月に、門の入り口の所で主に向かって礼拝しなればならない。

4君主が、安息日に主にささげる焼き尽くす献げ物は、無傷の小羊六匹と無傷の雄羊一匹である。5また、殺物の献げ物は、雄羊一匹について麦粉一エファ、小羊については、彼が望むだけの殺物の献げ物をささげる。また、麦粉一エファについて油一ヒンを添える。6新月の日にはささげるものは、無傷の雄牛の頭、そして、小羊六匹、雄羊一匹である。これらも無傷でなければならぬ。7この雄牛一頭について一エファ、雄羊一匹についても一エファの殺物をささげねばならない。そして、小羊については、そのときに可能なだけの殺物をささげねばならない。麦粉

の家に定められたすべての祝日にささげねばならない。君主は、イスラエルの家の贖いのために、贖罪の献げ物、殺物の献げ物、焼き尽くす献げ物、和解の献げ物をささげねばならない。

18主なる神はこう言われる。「一月一日に、あなたは無傷の雄牛の頭を取って、聖所を清めねばならない。19祭司は贖罪のいけにえの血を取って、それを神殿の門柱と祭壇の台となっている段の四隅と、内庭の門柱に塗らねばならない。20また、その月の七日に、あなたは、誤って罪を犯した者、また知らないで罪を犯した者のために、同じようにして神殿を清めねばならない。

21一月十四日に、あなたたちは、過越祭を七日の間祝い、酵母を入れないパンを食べねばならない。22君主はこの日、自分自身のため、また、国のすべての民のために、贖罪の献げ物の雄牛をささげねばならない。23その祭りの七日の間、焼き尽くす献げ物として、無傷の雄牛七頭と雄羊七匹を七日の間毎日、主にささげねばならない。また、贖罪の献げ物として、雄山羊を毎日ささげねばならない。24更に、殺物の献げ物を雄牛一頭について一エファ、雄羊一匹について一エファささげねばならない。一エファごとに油一ヒンを添えなさい。25七月十五日の祭りにも、同じよ

一エファについては、油一ヒンを添える。

8君主が入るときは、門の廊を通って入り、また、そこを通って出て行かねばならない。9しかし国の民が、定められた祝日に主の前に入るときは、北の門を通って礼拝に来た者は、南の門を通って出て行き、南の門を通って来た者は、北の門を通って出て行かねばならない。入って来た門を通って帰ってはならない。10君主は彼らの間において、彼らが入るときに入り、彼らが出る

ときに出て行かねばならない。11巡礼の祭りと定められた祝日に、殺物の献げ物は、雄牛一頭について麦粉一エファ、雄羊一匹について麦粉一エファ、小羊については、彼が望むだけの殺物の献げ物をささげる。また、麦粉一エファについて、油一ヒンを添える。12また、君主が、随意の献げ物をささげるとき、それが焼き尽くす献げ物であれ、和解の献げ物であれ、随意に主にささげようとするときは、彼のために、東に面した門を開かねばならない。そして、彼は安息日に行うように焼き尽くす献げ物、または和解の献げ物をささげることが出来る。彼はささげ終わると出て行く。彼が出て行った後、門は閉じられる。

13あなたは、朝ごとに無傷の一歳の小羊一匹を、日

て、わたしに水を渡らせると、水は膝に達した。更に、一干アンマを測って、わたしに水を渡らせると、水は腰に達した。5 更に彼が一干アンマを測ると、泳がなければ渡ることのできない川になり、水は増えて、泳がなければ渡ることのできない川になった。6 彼はわたしに、「人の子よ、見ましたか」と言って、わたしを川岸へ連れ戻した。7 わたしが戻つて来ると、川岸には、こちら側にもあちら側にも、非常に多くの木が生えていた。8 彼はわたしに言った。「これらの水は東の地域へ流れ、アラバに下り、海、すなわち汚れた海に入つて行く。すると、その水はきれいになる。9 川が流れて行く所ではどこでも、群がるすべての生き物は生き返り、魚も非常に多くなる。この水が流れる所では、水がきれいになるからである。この川が流れる所では、すべてのものが生き返る。10 漁師たちは岸边に立ち、エン・ゲディからエン・エグライムに至るまで、網を広げて干す所とする。その魚は、いろいろな種類に増え、大海の魚のように非常に多くなる。11 しかし、その沢と沼はきれいにならず、塩を取る事ができる。12 川のほとり、その岸には、こちら側にもあちら側にも、あらゆる果樹が大きくなり、葉は枯れず、果実は絶えることなく、月ごとに実をつける。水が聖所から流れ出るからである。その果実は食用となり、

ごとの焼き尽くす献げ物として、主にささげねばならない。朝ごとに、それをささげねばならない。14 あなたは、朝ごとにそれに添えて穀物の献げ物をささげねばならない。すなわち、朝ごとに上等の小麦粉六分の一エファと、それに振りかける油三分の一ヒンである。これは、主にささげる穀物の献げ物であり、変わることをない永遠の掟である。15 朝ごとに、小羊一匹と穀物の献げ物と油をささげねばならない。これは、変わることをない朝ごとの焼き尽くす献げ物である。16 主なる神はこう言われる。「君主が、その子のだれかに嗣業を贈与するならば、それはその子の所有地となり、それは嗣業に含まれる。17 君主が家臣のだれかに嗣業の一部を贈与すれば、それは解放の年まで彼のものととなる。しかしその後、君主に返さねばならない。君主の嗣業を所有できるのは、その子だけである。18 君主は民の嗣業を取り上げてはならない。彼らの所有地を奪つてはならない。自分の所有地は自分の子らに相続させねばならない。それは、わが民の一人でも、その所有地から追い立てられることがないためである。」

言った。「ここは、祭司たちが賠償の献げ物と贖罪の献げ物を煮、穀物の献げ物を焼くところである。これらのもを外庭に持ち出して、神聖さを民に移すことがないためである。21 彼はわたしを外庭に連れ出して、庭の四隅を回らせた。庭のそれぞれの隅には、また庭があった。22 四隅の庭は、それぞれ囲まれた庭であり、長さ四十アンマ、幅三十アンマであった。四つの庭は同じ大きさで、四隅にあった。23 四つとも、その周囲は石壁で囲まれており、また、石垣を巡らせた煮る場所が設けられていた。24 彼はわたしに言った。「ここは、神殿に仕える者たちが、民のささげるいけにえを煮る場所である。」

命の水

47 1 彼はわたしを神殿の入り口に連れ戻した。すると見よ、水が神殿の敷居の下から湧き上がった。2 彼はわたしを北の門から外へ回らせ、東に向かう外の門に導いた。見よ、水は南壁から流れていた。3 その人は、手に測り縄を持って東の方に出て行き、一干アンマを測り、わたしに水の中を渡らせると、水はくるぶしまでであった。4 更に一干アンマを測つ

葉は薬用となる。」

嗣業の割り当て

13 主なる神はこう言われる。「あなたたちが、イスラエルの十二部族に土地を嗣業として割り当てるとき、境界線は、次のとおりである。ヨセフの割り当て地は二倍である。14 あなたたちは、土地を平等に割り当てねばならない。この土地は、わたしがあなたたちの先祖に与える、と手を上げて誓ったものである。この土地は、あなたたちに嗣業として割り当てられる。」

15 以下が土地の境界線である。北の端は大海からヘトロンの方へ、レボ・ハマト、ツエダド、16 ベロタ、シブライム——それはダマスコの国境とハマトの国境の間にある——を経て、ハウランの境界線に臨むハツアル・ティコンに及ぶ。17 こうして、境界線は海から始まり、ダマスコの国境の北にあるハツアル・エノンに至る。ハマトの国境は更に北にある。これが北の端である。

18 東の端はハウランとダマスコの間を通り、更にギレアドとイスラエルの土地の間、つまりヨルダンを経て東の海に接する地域からタマルに及ぶ。これが東の端である。

19 南の端は、南の方に向かってタマルからカデシユ

に沿っており、長さ二万五千アンマ、幅一万アンマである。両者を合わせた全体の長さは二万五千アンマ、幅は二万アンマである。14 その一部でも売却したり、交換したりしてはならない。この最良の土地を譲り渡してはならない。それは主に属する聖なるものだからである。

15 幅五千アンマ、長さ二万五千アンマの残りの土地は一般用であり、居住地として、また牧草地として都に属するものである。都はその中央に置かれる。16 都の大きさは、次のとおりである。北側は四千五百アンマ、南側も四千五百アンマ、東側も四千五百アンマ、西側も四千五百アンマである。17 都の牧草地は北へ二百五十アンマ、南へ二百五十アンマ、東へ二百五十アンマ、西へ二百五十アンマである。18 都の両側に残された土地は聖なる献納地に沿い、長さは東へ一万アンマ、西へ一万アンマである。それは聖なる献納地に沿っている。この土地の産物は都で働く人々の食糧になる。19 都で働く人々は、イスラエルの全部族から出た人々でありこの土地を耕す。20 献納地は全体で二万五千アンマ四方である。あなたたちは聖なる献納地を都の所有地と合わせてささげねばならない。21 聖なる献納地と都の所有地の両側にある残りの土地は、君主のものである。それは献納地の二万五千アンマの

長さに沿っており、そこから東の境までである。西の方も二万五千アンマの長さに沿い、そこから西の境までである。それは部族の割り当て地に沿っており、君主のものである。その中央には神殿の聖所のある聖なる献納地がある。22 君主の所有地は、レビ族の所有地と都の所有地の両側において、ユダ族の境界線とベニヤミン族の境界線の間にある。それは君主のものである。

23 また残りの部族については、東の端から西の端まで、先ずベニヤミン族のものである。これが一部族。24 次に、ベニヤミン族の境界線に沿って、東の端から西の端まで、シメオン族のものである。これが一部族。25 次に、シメオン族の境界線に沿って、東の端から西の端まで、イサカル族のものである。これが一部族。26 次に、イサカル族の境界線に沿って、東の端から西の端まで、ゼブルン族のものである。これが一部族。27 次に、ゼブルン族の境界線に沿って、東の端から西の端まで、ガド族のものである。これが一部族。28 ガド族の境界線に沿って、南側に南の境界線が延びている。それはタマルからカデシユのメリバの泉を経由して、大海に注ぐ川に達する。29 これが、あなたたちが嗣業としてイスラエルの各部族に割り当てべき土地である。以上が彼らの割り当て地である」と主なる

のメリバの泉に至り、大海に注ぐ川に及ぶ。これが南方、南の端である。

20 西の端は大海で、レボ・ハマトに向かい合った地域に及んでいる。これが西の端である。

21 あなたたちは、この土地を自分たちイスラエルの各部族に分けねばならない。22 この土地を、あなたたち自身とあなたたちの間に滞在し、あなたたちの間で子をもうけるにいたった外国人に、くじで嗣業として割り当てねばならない。彼らをイスラエルの子らの中で同じ資格のある者として扱わねばならない。あなたたちと共に彼らにも嗣業をくじでイスラエルの部族の間に割り当てねばならない。23 外国人には、その滞在している部族の中で嗣業を与えねばならない」と主なる神は言われる。

48 1 部族の名は次のとおりである。「北の限界は、ヘトロン道からレボ・ハマトを経てハツァル・エナンに至る。これがダマスコとの国境である。その北側にハマトがある。その東の端から海までがダン族のものである。これが一部族。2 ダン族の境界線に沿って、東の端から西の端までがアシェル族のものである。これが一部族。3 アシェル族の境界線に沿って、東の端から西の端までがナフタリ族のものである。これが一部族。4 ナフタリ族の境界線に沿って、

東の端から西の端までがマナセ族のものである。これが一部族。5 マナセ族の境界線に沿って、東の端から西の端までがエフライム族のものである。これが一部族。6 エフライム族の境界線に沿って、東の端から西の端までがルベン族のものである。これが一部族。7 ルベン族の境界線に沿って、東の端から西の端までがユダ族のものである。これが一部族。

8 ユダ族の境界線に沿って、東の端から西の端まで、あなたたちがささげる献納地にしなければならぬ。その幅は二万五千アンマで、長さは東の端から西の端に及ぶ各部族の割り当て地の長さと同じである。その中央に聖所が置かれる。9 あなたたちが主にささげる献納地は、長さ二万五千アンマ、幅は一万アンマである。10 祭司のものである聖なる献納地の広さは、次のとおりである。北側の長さは二万五千アンマ、西側の幅は一万アンマ、東側の幅は一万アンマ、南側の長さは二万五千アンマである。その中央に主の聖所が置かれる。11 この聖別された土地は祭司たち、つまりツァドクの子孫である祭司のものである。彼らはイスラエルの子孫が迷ったとき、レビ人たちが迷ったように迷うことなく、わたしの務めを守った。12 彼らの献納地は、国の献納地のなかで最も神聖であり、レビ人の領地に沿っている。13 レビ人のものは祭司の領地

ダニエルの宮廷でのダニエル

1 ユダの王ヨヤキムが即位して三年目のことであった。バビロンの王ネブカドネツアルが攻めて来て、エルサレムを包囲した。² 王は、ユダの王ヨヤキムと、エルサレム神殿の祭具の一部を彼の手中に落とされた。ネブカドネツアルはそれらをシリアルに引いて行き、祭具類は自分の神々の宝物倉に納めた。

3 さて、ネブカドネツアル王は侍従長アシシュペナスに命じて、イスラエル人の王族と貴族の中から、4 体に難点がなく、容姿が美しく、何事にも才能と知恵があり、知識と理解力に富み、宮廷に仕える能力のある少年を何人か連れて来させ、カルデア人の言葉と文書を学ばせた。⁵ 王は、宮廷の肉類と酒を毎日彼らに与えるように定め、三年間養成してから自分に仕えさせることにした。

6 この少年たちの中に、ユダ族出身のダニエル、ハナンヤ、ミシヤエル、アザルヤの四人がいた。⁷ 侍従長は彼らの名前を変えて、ダニエルをベルテシヤツアル、ハナンヤをシャドラク、ミシヤエルをメシヤク、アザルヤをアベド・ネゴと呼んだ。⁸ ダニエルは

ダニエル書

バビロンの宮廷でのダニエル

「わたしは王様が恐ろしい。王様御自身がお前たちの食べ物と飲み物をお定めになったのだから。同じ年ごろの少年に比べてお前たちの顔色が悪くなったら、お前たちのためにわたしの首が危うくなるではないか。」

11 ダニエルは、侍従長が自分たち四人の世話係に定めた人に言った。

12 「どうかわたしたちを十日間試してください。その間、食べる物は野菜だけ、飲む物は水だけにさせてください。13 その後、わたしたちの顔色と、宮廷の肉類をいただいた少年の顔色をよくお比べになり、その上でお考えどおりにしてください。」

14 世話係はこの願いを聞き入れ、十日間彼らを試した。15 十日たってみると、彼らの顔色と健康は宮廷の食べ物を受けているどの少年よりも良かった。16 それ以来、世話係は彼らに支給される肉類と酒を除いて、野菜だけ与えることにした。

17 この四人の少年は、知識と才能を神から恵まれ、

神は言われる。

30 都の出口は、次のとおりである。北側は長さ四千五百アンマである。31 都の門はイスラエルの部族の名にしたがって、北の方に三つの門がある。ルベンの門が一つ、ユダの門が一つ、レビの門が一つである。32 東側も長さ四千五百アンマである。そこに三つの門がある。ヨセフの門が一つ、ベニヤミンの門が一つ、ダンの門が一つである。33 南側も長さ四千五百アンマである。そこに三つの門がある。シメオンの門が一つ、イサカルの門が一つ、ゼブルンの門が一つである。34 西側も長さ四千五百アンマである。そこに三つの門がある。ガドの門が一つ、アシユールの門が一つ、ナフタリの門が一つである。35 都の周囲は一万八千アンマである。この都の名は、その日から、「主がそこにおられる」と呼ばれる。

文書や知恵についてもすべて優れていて、特にダニエルはどのような幻も夢も解くことができた。18ネブカドネツアル王の定めた年数がたつと、侍従長は少年たちを王の前に連れて行った。19王は彼らと語り合ったが、このダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤと並ぶ者はほかにだれもいなかった。この四人は王のそばに仕えることになった。20王は知恵と理解力を要する事柄があれば彼らに意見を求めたが、彼らは常に國中のどの占い師、祈禱師よりも十倍も優れていた。21ダニエルはキユロス王の元年まで仕えた。

巨大な像の夢

2 1 ネブカドネツアル王が即位して二年目のことであった。王は何度か夢を見て不安になり、眠れなくなった。2 王は命令を出して、占い師、祈禱師、まじない師、賢者を呼び出し、自分の夢を説明させようとした。彼らが王の前に進み出ると、3 王は言った。「夢を見たのだが、その夢の意味を知りたくて心が落ち着かない。」

4 賢者たちは王にアラム語で答えた。「王様がとこしえまでも生き永らえられますように。どうぞ僕らにその夢をお話しください。解釈を申し上げ

上にはおりません。大王や支配者の中のだれも、そのようなことを占い師、祈禱師、賢者に求めたことはございません。11 王様のお求めになることは難しく、これに応じることのできるのは、人間と住まいを共になさらぬ神々だけでございます。」

12 王は激しく怒り、憤慨し、バビロンの知者を皆殺しにするよう命令した。13 知者を処刑する定めが出されたので、人々はダニエルとその同僚をも殺そうとして探した。14 バビロンの知者を殺そうと出て来た侍従長アルヨクにダニエルは思慮深く賢明に対応し、

15 この王の高官アルヨクに尋ねた。「どうして王様はこのような厳しい命令を出されたのですか。」アルヨクはダニエルに事情を説明した。16 ダニエルは王のもとに行って、願った。「しばらくの時をいただけますなら、解釈いたします。」

17 ダニエルは家に帰り、仲間のハナンヤ、ミシャエル、アザルヤに事情を説明した。18 そして、他のバビロンの賢者と共に殺されることのないよう、天の神に憐れみを願い、その夢の秘密を求めて祈った。19 すると、夜の幻によってその秘密がダニエルに明かされた。ダニエルは天の神をたたえ、20 こう祈った。

「いいか、わたしの命令は絶対だ。もしお前たちがわたしの見た夢を言い当て、その解釈をしてくれないければ、お前たちの体を八つ裂きにし、お前たちの家も打ち壊す。6 しかし、もしわたしの見た夢を言い当て、正しく解釈してくれば、ほうびとして贈り物と大いなる名譽を授けよう。だから、その夢を言い当て、解釈してみよ。」

7 彼らは繰り返し返した。8 王は言った。「王様、どうぞその夢をお聞かせください。僕らはその解釈をいたしましょう。」9 王は言った。「思ったとおりだ。わたしの命令が必ず実行されることを知っているのだから、時間を稼ごうとしているのだ。9 その夢を話して聞かせることができなければ、お前たちに下される判決は今言ったとおりだ。だから、わたしの前でうそをついたり、いいかげんことを述べ立てたりして、わたしの考えが変わるまで時を稼ごうとしているにちがいない。さあ、夢を話してみよ。そうすれば、解釈できるかどうか分かるだろう。」

10 賢者たちは王に答えた。「王様のお求めに応じることのできる者は、この地

「神の御名をたたえよ、世々とこしえに。」

知恵と力は神のもの。

21 神は時を移し、季節を変え

王を退け、王を立て

知者に知恵を、識者に知識を与えられる。

22 奥義と秘義を現し

闇にひそむものを知り

光は御もとに宿る。

23 わたしの父祖の神よ、感謝と賛美をささげます。

知恵と力をわたしに授け

今、願いをかなえ

24 それから、ダニエルはバビロンの知者皆殺しの命を受けていたアルヨクのもとに行つて、こう言った。

「バビロンの知者を殺さないでください。わたしを

王様のもとに連れて行ってくださいれば、王様に解釈を

申し上げます。」

25 そこで、アルヨクはおそろおそろダニエルを王の

もとに連れて出て、こう言った。

「ユダの捕囚の中に、一人の男が見つかりました。

王様に解釈を申し上げると言っております。」

26 王はベルテシャツアルの名を持つダニエルに尋ね

た。

44 この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されま
す。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の
民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永
遠に続きます。45 山から人手によらず切り出された石
が、鉄、青銅、陶土、銀、金を打つのを御覧になりま
したが、それによって、偉大な神は引き続き起こるこ
とを王様にお知らせになったのです。この夢は確かだ
であり、解釈もまちがいございません。」

46 王を聞いたネブカドネツアルはひれ伏してダニ
エルを拝し、献げ物と香を彼に供えさせた。47 王はダ
ニエルに言った。

「あなたがこの秘密を明かすことができたからには、
あなたたちの神はまことに神々の神、すべての王の
主、秘密を明かす方にちがいない。」

48 王はダニエルを高位につけ、多くのすばらしい
贈り物を与え、バビロン全州を治めさせ、バビロンの
知者すべての上に長官として立てた。49 ダニエルは王
に願って、シャドラク、メシャク、アベド・ネゴをバ
ビロン州の行政官に任命してもらった。ダニエル自身
は王宮にとどまった。

燃え盛る炉に投げ込まれた三人
1 ネブカドネツアル王は一つの金の像を造つ
た。高さは六十アンマ、幅は六アンマで、これ
をバビロン州のドラという平野に建てた。2 ネブカド
ネツアル王は人を遣わして、総督、執政官、地方長
官、参議官、財務官、司法官、保安官、その他諸州の
高官たちを集め、自分の建てた像の除幕式に参列させ
ることにした。3 総督、執政官、地方長官、参議官、
財務官、司法官、保安官、その他諸州の高官たちはそ
の王の建てた像の除幕式に集まり、像の前に立ち並ん
だ。4 伝令は力を入れて叫んだ。

「諸国、諸族、諸言語の人々よ、あなたたちに告げ
る。5 角笛、横笛、六絃琴、豎琴、十三絃琴、風琴な
どあらゆる楽器による音楽が聞こえたなら、ネブカド
ネツアル王の建てられた金の像の前にひれ伏して拝
め。6 ひれ伏して拝まない者は、直ちに燃え盛る炉に
投げ込まれる。」

7 それで、角笛、横笛、六絃琴、豎琴、十三絃琴の
音楽が聞こえてくると、諸国、諸族、諸言語の人々は
皆ひれ伏し、ネブカドネツアル王の建てた金の像を拝
んだ。

8 さてこのとき、何人かのカルデア人がユダヤ人を
中傷しようと進み出て、9 ネブカドネツアル王にこ

「わたしの見た夢を言い当て、それを解釈してくれ
ると言うのか。」

27 ダニエルは王に答えた。

「王様がお求めになっている秘密の説明は、知者、祈
禱師、占い師、星占い師にはできません。28 だが、秘
密を明かす天の神がおられ、この神が将来何事が起こ
るのかをネブカドネツアル王に知らせてくださったの
です。王様の夢、お眠りになっていて頭に浮かんだ
幻を申し上げましょう。29 お休みになって先々のこ
とを思いめぐらしておられた王様に、神は秘密を明か
し、将来起こるべきことを知らせようとなさったので
す。30 その秘密がわたしに明かされたのは、命あるも
のすべてにまさる知恵がわたしにあるからではなく、
ただ王様にその解釈を申し上げ、王様が心にある思い
をよく理解なさるようお助けするためだったのです。」

31 王様、あなたは一つの像を御覧になりました。そ
れは巨大で、異常に輝き、あなたの前に立ち、見るも
恐ろしいものでした。32 それは頭が純金、胸と腕が
銀、腹と腿が青銅、33 すねが鉄、足は一部が鉄、一部
が陶土でできていました。34 見ておられると、一つの
石が人手によらずに切り出され、その像の鉄と陶土の
足を打ち砕きました。35 鉄も陶土も、青銅も銀も金も
共に砕け、夏の打穀場のもみ殻のようになり、風に吹

き払われ、跡形もなくなりました。その像を打った石
は大きな山となり、全地に広がったのです。36 これが
王様の御覧になった夢です。さて、その解釈をいたし
ましょう。

37 王様、あなたはすべての王の王です。天の神はあ
なたに、国と権威と威力と威光を授け、38 人間も野の
獣も空の鳥も、どこに住んでいようとみなあなたの手
にゆだね、このすべてを治めさせられました。すなわ
ち、あなたがその金の頭なのです。39 あなたのあとに
他の国が興りますが、これはあなたに劣るもの。その
次に興る第三の国は青銅で、全地を支配します。40 第
四の国は鉄のように強い。鉄はすべてを打ち砕きます
が、あらゆるものを破壊する鉄のように、この国は破
壊を重ねます。41 足と足指は一部が陶工の用いる陶
土、一部が鉄であるのを御覧になりましたが、そのよ
うにこの国は分裂しています。鉄が柔らかい陶土と混
じっているのを御覧になったように、この国には鉄の
強さもあります。42 足指は一部が鉄、一部が陶土です。
すなわち、この国には強い部分があれば、もろい部分
もあるのです。43 また、鉄が柔らかい陶土と混じり
合っているのを御覧になったように、人々は婚姻に
よって混じり合います。しかし、鉄が陶土と溶け合う
ことがないように、ひとつになることはありません。

う言った。
 「王様がとこしえまでも生き永らえられますように。
 10 御命令によりますと、角笛、横笛、六絃琴、堅琴、十三絃琴、風琴などあらゆる楽器の音楽が聞こえたら、だれでも金の像にひれ伏して拝め、ということでした。11 そうしなれば、燃え盛る炉に投げ込まれるはずで、12 バビロン州には、その行政をお任せになっているユダヤ人シヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴの三人がおりますが、この人々は御命令を無視して、王様の神に仕えず、お建てになった金の像を拜むうとしません。」
 13 これを聞いたネブカドネツアル王は怒りに燃え、シヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴを連れて来るよう命じ、この三人は王の前に引き出された。14 王は彼らに言った。
 「シヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴ、お前たちがわたしの神に仕えず、わたしの建てた金の像を拜まなというのとは本当か。15 今、角笛、横笛、六絃琴、堅琴、十三絃琴、風琴などあらゆる楽器の音楽が聞こえると同時にひれ伏し、わたしの建てた金の像を拜むつもりでいるなら、それでよい。もしも拜まないなら、直ちに燃え盛る炉に投げ込ませる。お前たちをわたしの手から救出す神があるうか。」

「あの三人の男は、縛ったまま炉に投げ込んだはずではなかったか。」
 彼らは答えた。

「王様、そのとおりでございます。」
 25 王は言った。

「だが、わたしには四人の者が火の中を自由に歩いているの見える。そして何の害も受けていない。それに四人目の者は神の子のような姿をしている。」
 26 ネブカドネツアル王は燃え盛る炉の口に近いところを呼びかけた。

「シヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴ、いと高き神に仕える人々よ、出て来なさい。」すると、シヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴは炉の中から出て来た。27 総督、執政官、地方長官、王の側近たちは集まって三人を調べたが、火はその体を損なわず、髪の毛も焦げてはおらず、上着も元のままで火のにおいすらなかった。28 ネブカドネツアル王は言った。

「シヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴの神をたたえよ。彼らは王の命令に背き、体を犠牲にしても自分の神に依り頼み、自分の神以外にはいかなる神にも仕えず、拜もうともしなかった。この僕たちを、神は御使いを送って救われた。29 わたしは命令する。いかなる国、民族、言語に属する者も、シヤドラク、メシヤク、

16 シヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴはネブカドネツアル王に答えた。
 「このお定めにつきまして、お答えする必要はございません。17 わたしたちのお仕える神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができます。すし、必ず救ってください。18 そうでなくとも、御承知ください。わたしたちは王様の神々に仕えることも、お建てになった金の像を拜むことも、決していたしません。」
 19 ネブカドネツアル王はシヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴに対して血相を変えて怒り、炉をいつもの七倍も熱く燃やすように命じた。20 そして兵士の中でも特に強い者に命じて、シヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴを縛り上げ、燃え盛る炉に投げ込ませた。21 彼らは上着、下着、帽子、その他の衣服を着けたまま縛られ、燃え盛る炉に投げ込まれた。22 王の命令は厳しく、炉は激しく燃え上がっていたので、噴き出る炎はシヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴを引いて行った男たちをさえ焼き殺した。23 シヤドラク、メシヤク、アベド・ネゴの三人は縛られたまま燃え盛る炉の中に落ち込んで行った。24 間もなく王は驚きの色を見せ、急に立ち上がり、側近たちに尋ねた。

「だが、わたしには四人の者が火の中を自由に歩いているの見える。そして何の害も受けていない。それに四人目の者は神の子のような姿をしている。」
 26 ネブカドネツアル王は燃え盛る炉の口に近いところを呼びかけた。

大きな木の夢

31 ネブカドネツアル王は、全世界の諸国、諸族、諸言語の住民に、いっそうの繁栄を願って、挨拶を送る。

32 さて、わたしはいと高き神がわたしになさったしるしと不思議な御業を知らせる。

33 この神のしるしは、いかに偉大であり不思議な御業は、いかに力あることか。

その御国は永遠の御国であり、支配は代々に及ぶ。

4

1 わたしネブカドネツアルは、健康に恵まれ、

王宮で心安らかに過ごしていた。2 一夜、わたしは夢を見た。眠りの中に恐ろしい光景が現れ、わたしは頭に浮かんだ幻に悩まされた。3 わたしは命令を下してバビロンの知者を全員召集し、夢の解釈をさせようとした。4 占い師、祈禱師、賢者、星占い師らが来たので、わたしは夢の話をしたが、だれひとり解釈ができなかった。5 最後にダニエルが来た。これ

はわたしの神にちなんでベルテシャツアルという名を
与えた者で、彼には聖なる神の霊が宿っていた。わた
しは彼に夢の話をして、こう言った。
6 「古い師の長ベルテシャツアルよ、お前には聖な
る神の霊が宿っていて、どんな秘密でも解き明かせる
と聞いている。わたしの見た夢はこうだ。解釈をして
ほしい。7 眠っていると、このような幻が頭に浮かん
だのだ。
大地の真ん中に、一本の木が生えていた。
大きな木であった。

8 その木は成長してたくましくなり
天に届くほどの高さになり
地の果てからも見えるまでになった。
9 葉は美しく茂り、実は豊かに実って
すべてを養うに足るほどであった。
その木陰に野の鳥は巣を作り
その枝に空の鳥は巣を得た。
生き物はみな、この木によって食べ物を得た。
10 更に、眠っていると、頭に浮かんだ幻の中で、聖
なる見張りの天使が天から降って来るのが見えた。
11 天使は大声に呼ばわって、こう言った。
『この木を切り倒し、枝を払い
葉を散らし、実を落とせ。』

「王様、この夢があなたの敵に、その解釈があなた
を憎む者にふりかかりますように。17 御覧になったそ
の木、すなわち、成長してたくましくなり、天に届く
ほどの高さになり、地の果てからも見え、18 葉は美し
く茂り、実が豊かに実ってすべてを養うに足り、その
木陰に野の鳥は巣作り、その枝に空の鳥は巣を作る、
19 その木はあなた御自身です。あなたは成長してたく
ましくなり、あなたの威力は大きくなって天にも届く
ほどになり、あなたの支配は地の果てにまで及んでい
ます。20 また、王様は聖なる見張りの天使が天から
降って来るのを御覧になりました。天使はこう言いま
した。この木を切り倒して滅ぼせ。ただし、切り株と
根を地中に残し、これに鉄と青銅の鎖をかけて野の草
の中に置け。天の露にぬれるにまかせ、獣と共に野の
草を食らわせ、七つの時を過ごさせよ、と。21 さて、
王様、それを解釈いたしました。これはいと高き神
の命令で、わたしの主君、王様に起こることです。
22 あなたは人間の社会から追放されて野の獣と共に住
み、牛のように草を食べ、天の露にぬれ、こうして七
つの時を過ごさずして。そうして、あなたはついに、
いと高き神こそが人間の王国を支配し、その御旨のま
まにそれをだれにでも与えられるのだということを悟
るでしょう。23 その木の切り株と根を残すように命じ

その木陰から獣を、その枝から鳥を追い払え。
12 ただし、切り株と根は地中に残し
鉄と青銅の鎖をかけて、野の草の中に置け。
天の露にぬれるにまかせ
獣と共に野の草を食らわせよ。
13 その心は変わって、人の心を失い
獣の心が与えられる。
こうして、七つの時が過ぎるであろう。

14 この宣告は見張りの天使らの決定により
この命令は聖なる者らの決議によるものである。
すなわち、人間の王国を支配するのは、いと高き神
であり、この神は御旨のままにそれをだれにでも与
え、また、最も卑しい人をその上に立てることもでき
るということを、人間に知らせるためである。』
15 これが、わたしネブカドネツアル王の見た夢だ。
さて、ベルテシャツアル、その解釈を聞かせてほし
い。この王国中の知者はだれひとり解き明かせなかつ
たのだが、聖なる神の霊が宿っているというお前なら
できるであろう。』

16 しかし、ベルテシャツアルと呼ばれるダニエルは
驚いた様子で、しばらくの間思い悩んでいた。王は彼
に、「ベルテシャツアル、この夢とその解釈を恐れず
に言うがよい」と言った。彼は答えた。

「王様、この夢があなたの支配者であると悟れ
ば、王国はあなたに返されます。24 王様、どうぞわた
しの忠告をお受けになり、罪を悔いて施しを行い、悪
を改めて貧しい人に恵みをお与えになってください。
そうすれば、引き続き繁栄されるでしょう。」
25 このことはすべて、ネブカドネツアル王の上に起
こった。26 十二か月が過ぎたころのことである。王は
バビロンの王宮の屋上を散歩しながら、27 こう言っ
た。「なんとバビロンは偉大ではないか。これこそ、こ
のわたしが都として建て、わたしの権力の偉大さ、わ
たしの威光の尊さを示すものだ。」28 まだ言い終わら
ぬうちに、天から声が響いた。「ネブカドネツアル王
よ、お前に告げる。王国はお前を離れた。29 お前は人
間の社会から追放されて、野の獣と共に住み、牛のよ
うに草を食らい、七つの時を過ごさずのだ。そうしてお
前はついに、いと高き神こそが人間の王国を支配する
者で、神は御旨のままにそれをだれにでも与えるのだ
ということを知るであろう。」30 この言葉は直ちにネ
ブカドネツアルの身に起こった。彼は人間の社会から
追放され、牛のように草を食らい、その体は天の露に
ぬれ、その毛は鷲の羽のように、つめは鳥のつめのよ
うに生え伸びた。

「王様、この夢があなたの敵に、その解釈があなた
を憎む者にふりかかりますように。17 御覧になったそ
の木、すなわち、成長してたくましくなり、天に届く
ほどの高さになり、地の果てからも見え、18 葉は美し
く茂り、実が豊かに実ってすべてを養うに足り、その
木陰に野の鳥は巣作り、その枝に空の鳥は巣を作る、
19 その木はあなた御自身です。あなたは成長してたく
ましくなり、あなたの威力は大きくなって天にも届く
ほどになり、あなたの支配は地の果てにまで及んでい
ます。20 また、王様は聖なる見張りの天使が天から
降って来るのを御覧になりました。天使はこう言いま
した。この木を切り倒して滅ぼせ。ただし、切り株と
根を地中に残し、これに鉄と青銅の鎖をかけて野の草
の中に置け。天の露にぬれるにまかせ、獣と共に野の
草を食らわせ、七つの時を過ごさせよ、と。21 さて、
王様、それを解釈いたしました。これはいと高き神
の命令で、わたしの主君、王様に起こることです。
22 あなたは人間の社会から追放されて野の獣と共に住
み、牛のように草を食べ、天の露にぬれ、こうして七
つの時を過ごさずして。そうして、あなたはついに、
いと高き神こそが人間の王国を支配し、その御旨のま
まにそれをだれにでも与えられるのだということを悟
るでしょう。23 その木の切り株と根を残すように命じ

31 その時が過ぎて、わたしネブカドネツアルは目を上げて天を仰ぐと、理性が戻って来た。わたしはいと高き神をたたえ、永遠に生きるお方をほめたたえた。

その支配は永遠に続き

その国は代々に及ぶ。

32 すべて地に住む者は無に等しい。

天の軍勢をも地に住む者をも御旨のままにされる。

その手を押さえて

何をするのかと言いうる者はだれもない。

33 言い終わると、理性がわたしに戻った。栄光と輝

きは再びわたしに与えられて、王国の威光となった。

貴族や側近もわたしのもとに戻って来た。こうしてわたしは王国に復帰し、わたしの威光は増し加わった。

34 それゆえ、わたしネブカドネツアルは天の王をほめたたえ、あがめ、賛美する。その御業はまこと、その道は正しく、驕る者を倒される。

壁に字を書く指の幻

5 1 ベルシャツアル王は千人の貴族を招いて大宴会を開き、みんなで酒を飲んでた。2 宴も進んだころ、ベルシャツアルは、その父ネブカドネツアルがエルサレムの神殿から奪って来た金銀の祭具を持って来るように命じた。王や貴族、後宮の女たちが

それで酒を飲むとういうのである。3 そこで、エルサレムの神殿から奪って来た金銀の祭具が運び込まれ、王や貴族、後宮の女たちがそれで酒を飲み始めた。4 こうして酒を飲みながら、彼らは金や銀、青銅、鉄、木や石などで造った神々をほめたたえた。5 その時、人の手の指が現れて、ともし火に照らされてる王宮の白い壁に文字を書き始めた。王は書き進むその手先を見た。6 王は恐怖にかられて顔色が変わり、腰が抜け、膝が震えた。7 王は大声をあげ、祈禱師、賢者、星占い師などを連れて来させ、これらバビロンの知者にこう言った。「この字を読み、解釈をしてくれる者には、紫の衣を着せ、金の鎖を首にかけて、王国を治める者のうちの第三の位を与えよう。」8 宮廷の知者たちは皆集まって来たが、だれもその字を読むことができず、解釈もできなかった。9 ベルシャツアル王はいよいよ恐怖にかられて顔色が変わり、貴族も皆途方に暮れた。10 王や貴族が話しているのを聞いた王妃は、宴会場にまで来てこう言った。「王様がとこしえまでも生き永らえられませうに。そんなに心配したり顔色を変えたりなさらないでくださいませ。11 お国には、聖なる神の霊を宿している人が一人おられます。父王様の代に、その人はすばらしい才能、神々のような知恵を示

したものでございます。お父上のネブカドネツアル王様は、この人を占い師、祈禱師、賢者、星占い師などの長にしておられました。12 この人には特別な霊の力があって、知識と才能に富み、夢の解釈、謎解き、難問の説明などがよくできるのでございます。ダニエルという者で、父王様はベルテシャツアルと呼んでいらっしやいました。このダニエルをお召しになれば、その字の解釈をしてくれることのできましよう。」

13 そこで、ダニエルが王の前に召し出された。王は彼に言った。「父王がユダから捕らえ帰ったユダヤ人の捕囚の一人、ダニエルというのはお前か。14 聞くところによると、お前は神々の霊を宿していて、すばらしい才能と特別な知恵を持っているそうだ。15 賢者や祈禱師を連れて来させてこの文字を読ませ、解釈させようとしたのだが、彼らにはそれができなかった。」

16 お前はいろいろと解釈をしたり難問を解いたりする力を持つと聞いた。もしこの文字を読み、その意味を説明してくれたなら、お前に紫の衣を着せ、金の鎖を首にかけて、王国を治める者のうち第三の位を与えよう。」

17 ダニエルは王に答えた。「贈り物など不要でございます。報酬はだれか他の者にお与えください。しかし、王様のためにその文字を読み、解釈をいたしま

しょう。18 王様、いと高き神は、あなたの父ネブカドネツアル王に王国と権勢と威光をお与えになりました。19 その権勢を見て、諸国、諸族、諸言語の人々はすべて、恐れおののいたのです。父王様は思うままに殺し、思うままに生かし、思うままに栄誉を与え、思うままに没落させました。20 しかし、父王様は傲慢になり、頑に尊大にふるまったので、王位を追われ、栄光は奪われました。21 父王様は人間の社会から追放され、心は野の獣のようになり、野生のろばと共に住み、牛のように草を食らい、天から降る露にその身をぬらし、ついに悟ったのは、いと高き神こそが人間の王国を支配し、その御旨のままに王を立てられるのだということでした。22 さて、ベルシャツアル王よ、あなたはその王子で、これらのことをよくご存じでありながら、なお、へりくだらうとはなさらなかった。23 天の主に逆らって、その神殿の祭具を持ち出させ、あなた御自身も、貴族も、後宮の女たちも皆、それで飲みながら、金や銀、青銅、鉄、木や石で造った神々、見ることも聞くこともできず、何も知らないその神々を、ほめたたえておられます。だが、あなたの命と行動の一切を手中に握っておられる神を畏れ敬おうとはなさらない。24 そのため神は、あの手を遣わして文字を書かせたのです。25 さて、書かれた文字はこうです。

合いに出してこう言った。「王様、向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願ひ事をする者があれば、獅子の洞窟に投げ込まれるという勅令に署名をなされたものではございませんか。」王は答えた。「そのとおりだ。メディアアとペルシアの法律は廃棄されることではない。」¹⁴ 彼らは王に言った。「王様、ユダヤからの捕囚の一人ダニエルは、あなたさまをも、署名なされたその禁令をも無視して、日に三度祈りをささげています。」¹⁵ 王はこれ聞いてたいそう悩み、なんとかダニエルを助ける方法はないものかと心を砕き、救おうとして日の暮れるまで努力した。¹⁶ 役人たちは王のもとに来て言った。「王様、ご存じのとおり、メディアアとペルシアの法律によれば、王による勅令や禁令は一切変更してはならないことになっております。」¹⁷ それで王は命令を下し、ダニエルは獅子の洞窟に投げ込まれることになって引き出された。王は彼に言った。「お前がいつも拝んでいる神がお前を救ってくださいるように。」¹⁸ 一つの石が洞窟の入り口に置かれ、王は自分の印と貴族たちの印で封をし、ダニエルに対する処置に変更がないようにした。

¹⁹ 王は宮殿に帰ったが、その夜は食を断ち、側女も近寄らせず、眠れずに過ごし、²⁰ 夜が明けるやいなや、急いで獅子の洞窟へ行った。²¹ 洞窟に近づくと、王は不安に満ちた声をあげて、ダニエルに呼びかけた。「ダニエル、ダニエル、生ける神の僕よ、お前がいつも拝んでいる神は、獅子からお前を救い出す力があつたか。」²² ダニエルは王に答えた。「王様がとこしえまでも生き永らえられますように。」²³ 神様が天使を送って獅子の口を閉ざしてくださいましたので、わたしは無実が認められたのです。そして王様、あなたさまに對しても、背いたことはございません。」²⁴ 王はたいそう喜んで、ダニエルを洞窟から引き出すように命じた。ダニエルは引き出されたが、その身に何の害も受けていなかった。神を信頼していたからである。²⁵ 王は命令を下して、ダニエルを「陥れようとした者たちを引き出させ、妻子もろとも獅子の洞窟に投げ込ませた。穴の底にも達しないうちに、獅子は彼らに飛びかかり、骨までもかみ砕いた。」

²⁶ ダレイオス王は、全地に住む諸国、諸族、諸言語の人々に、次のように書き送った。「いっそうの繁栄を願って挨拶を送る。²⁷ わたしは以下のとおりに定める。この王国全域において、すべての民はダニエルの神を恐れかしこまなければならない。この神は生ける神、世々にいましその主権は滅びることなく、その支配は永遠。」

メネ、メネ、テケル、そして、バルシン。²⁶ 意味はこうです。メネは数えるということで、すなわち、神はあなたの治世を数えて、それを終わらせられたのです。²⁷ テケルは量を計ることで、すなわち、あなたは秤にかけられ、不足と見られました。²⁸ バルシンは分けるということ、すなわち、あなたの王国は二分されて、メディアアとペルシアに与えられるのです。」²⁹ これを聞いたベルシャツアルは、ダニエルに「紫の衣を着せ、金の鎖をその首にかけないように命じ、王国を治める者のうち第三の位を彼に与えるという布告を出した。」³⁰ その同じ夜、カルデア人の王ベルシャツアルは殺された。

獅子の洞窟に投げ込まれたダニエル

6 1 さて、王国を継いだのは、メディアア人ダレイオスであった。彼は既に六十二歳であった。² ダレイオスは、王国に百二十人の総督を置いて全国を治めさせることにし、³ また、王に損失がないようにするため、これらの総督から報告を受ける大臣を三人、その上に置いた。ダニエルはそのひとりであった。⁴ ダニエルには優れた霊が宿っていたので、他の大臣や総督のすべてに傑出していた。王は彼に王国全体を治めさせようとした。⁵ 大臣や総督は、政務に関して

ダニエルを陥れようと口実を探した。しかし、ダニエルは政務に忠実で、何の汚点も怠慢もなく、彼らは訴え出る口実を見つけることができなかった。⁶ それで彼らは、「ダニエルを陥れるには、その信じている神の法に関してなんらかの言いがかりをつけるほかはない」と話し合い、⁷ 王のもとに集まってこう言った。「ダレイオス王様がとこしえまでも生き永らえられますように。」⁸ 王国の大臣、執政官、総督、地方長官、側近ら一同相談いたしました。王様に次のような勅令による禁止事項をお定めいただくとういうことになりました。すなわち、向こう三十日間、王様を差し置いて他の人間や神に願ひ事をする者は、だれであれ獅子の洞窟に投げ込まれる、と。⁹ 王様、どうぞこの禁令を出し、その書面に御署名ください。そうすれば、これはメディアアとペルシアの法律として変更不可能なものとなり、廃止することはできなくなります。」¹⁰ ダレイオス王は、その書面に署名して禁令を發布した。¹¹ ダニエルは王が禁令に署名したことを知っていたが、家に帰るといつものとおり二階の部屋に上がり、エルサレムに向かって開かれた窓際にひざまずき、日に三度の祈りと賛美を自分の神にささげた。¹² 役人たちはやって来て、ダニエルがその神に祈り求めているのを見届け、¹³ 王の前に進み出、禁令を引き

たしはその言葉^{ことば}を心^{こころ}に留^とめた。

雄羊と雄山羊の幻

8 1 わたしダニエルは先にも幻を見たが、その後ベルシヤツアル王の治世^{ちせい}第三年に、また幻を見た。2 その幻の中^{まなか}にあって、見るとわたしはエラム州^{ラムしゅう}の都^{みやこ}サスにおり、ウライ川のほとりにいるようであった。3 目を上げて眺めると、見よ、一頭の雄羊が川岸^{かわぎし}に立っていた。二本の角が生えていたが共に長く、一本は他の一本より更に長くて、後ろの方に生えていた。4 見ていると、この雄羊は西、北、南に向かつて突進し、これにかなう獣は一頭もなく、その力から救い出すものもなく、雄羊はほしいままに、また、高慢^{たかまん}にふるまい、高ぶった。

5 これについて考えていると、見よ、西から一頭の雄山羊が全地の上を飛ぶような勢いで進んで来た。その額には際立った一本の角が生えていた。6 この雄山羊は先に見た川岸に立っている二本の角のある雄羊に向かつて、激しい勢いで突進した。7 みるみるうちに雄山羊は雄羊に近づき、怒りに燃えてこれを打ち倒し、その二本の角を折ったが、雄羊には抵抗する力かなかった。雄山羊はこれを地に投げ打ち、踏みつけた。その力から雄羊を救い出すものはなかった。8 雄

山羊は非常に尊大^{そんだい}になったが、力の極みで角は折れ、その代わりに四本の際立った角が生えて天の四方に向

かった。9 そのうちの一本からもう一本の小さな角が生えて、非常に強大になり、南へ、東へ、更にあの「麗しの地」へと力を伸ばした。10 これは天の万軍に及ぶまで力を伸ばし、その万軍、つまり星のうちの幾つかを地に投げ落とし、踏みじった。11 その上、天の万軍の長にまで力を伸ばし、日ごとの供え物を廃し、その聖所を倒した。12 また、天の万軍を供え物と共に打ち倒して罪をばびこらせ、真理を地になげうち、思うままにふるまった。13 わたしは一人の聖なる者が語るのを聞いた。またもう一人の聖なる者がその語っている者に言った。「この幻、すなわち、日ごとの供え物が廃され、罪が荒唐をもたらし、聖所と万軍とが踏みじられるというこの幻の出来事は、いつまで続くのか。14 彼は続けた。「日が暮れ、夜の明けると二千三百回に及んで、聖所はあるべき状態に戻る。」

15 わたしダニエルは、この幻を見ながら、意味を知りたいと願っていた。その時、見よ、わたしに向かつて勇士のような姿が現れた。16 すると、ウライ川から人の声^{こゑ}がしてこう言った。「ガブリエル、幻をこの人に説明せよ。」17 彼がわたしの立っている所に近づいて来たので、わたしは恐れてひれ伏した。彼はわたし

に言った。「人の子よ、この幻は終わりの時に關するものだということを悟りなさい。」18 彼がこう話している間に、わたしは氣を失って地に倒れたが、彼はわたしを捕らえて立ち上がらせ、19 こう言った。「見よ、この怒りの時の終わりに何が起るかをお前に示そう。定められた時には終わりが来る。20 お前の見た二本の角のある雄羊はメディアとベルシアの王である。21 また、あの毛深い雄山羊はギリシアの王である。その額の大きな角は第一の王だ。22 その角が折れて代わりに四本の角が生えたが、それはこの国から、それほどの力を持たない四つの国が立つということである。23 四つの国の終わりに、その罪惡の極みとして高慢で狡猾な一人の王が起る。

24 自力によらずに強大になり驚くべき破壊を行い、ほしいままにふるまい力ある者、聖なる民を滅ぼす。

25 才知にたけその手にかかればどんな悪だくみも成功し驕り高ぶり、平然として多くの人を滅ぼす。

26 この夜と朝の幻についてわたしの手によらずに滅ぼされる。わたしの手によらずに滅ぼされる。

しかし、お前は見たことを秘密にしておきなさい。まだその日は遠い。」
27 わたしダニエルは疲れ果てて、何日か病気になるまでいた。その後、起きて宮廷の務めに戻った。しかし、この幻にぼう然となり、理解できずにいた。
9 1 ダレイオスの治世第一年のことである。ダレイオスはメディア出身で、クセルクセスの子であり、カルデア人の国を治めていた。2 さて、わたしダニエルは文書を読んでいて、エルサレムの荒廢の時が終わるまでには、主が預言者エレミヤに告げられたように七十年という年数のあることを悟った。3 わたしは主なる神を仰いで断食し、粗布をまとい、灰をかぶって祈りをささげ、嘆願した。4 わたしは主なる神に祈り、罪を告白してこう言った。
「主よ、畏るべき偉大な神よ、主を愛しその戒めに従う者には契約を守って慈しみを施される神よ、5 わたしたちは罪を犯し悪行を重ね、背き逆らって、あなたの戒めと裁きから離れ去りました。6 あなたの僕である預言者たちが、御名によってわたしたちの王、指導者、父祖、そして地の民のすべてに語ったのに、それに聞き従いませんでした。7 主よ、あなたは正しく

います。わたしたちユダの者、エルサレムの住民、すなわち、あなたに背いた罪のために全世界に散らされて、遠くにまた近くに住むイスラエルの民すべてが、今日のように恥を被っているのは当然なのです。8 主よ、恥を被るのはわたしたちであり、その王、指導者、父祖なのです。あなたに対して罪を犯したのですから。9 憐れみと赦しは主である神のもの。わたしたちは神に背きました。10 あなたの僕である預言者たちを通して与えられた、律法に従って歩むようにという主なる神の声に聞き従いませんでした。11 イスラエルはすべて、あなたの律法を無視し、御声に耳を傾けませんでした。ですから、神の僕モーセの律法に記されている誓いの呪いが、わたしたちの上にふりかかっています。12 わたしたちにも、わたしたちを治めた指導者にも告げられていた主の御言葉は成就し、恐ろしい災難が襲いました。エルサレムに下されたこの災難ほど恐ろしいものは、いまだ天下に起こったことはありませんでした。13 モーセの律法に記されているこの恐ろしい災難は、紛れもなくわたしたちを襲いました。それでもなお、わたしたちは罪を離れて主なる神の怒りをなだめることをせず、またあなたのまことに目覚めることもできませんでした。14 主はその悪を見張っ

ておられ、それをわたしたちの上に下されました。わたしたちの主なる神のなされることはすべて正しく、それに対して、わたしたちは御声に聞き従いませんでした。15 わたしたちの神である主よ、強い御手をもって民をエジプトから導き出し、今日に至る名声を得られた神よ、わたしたちは罪を犯し、逆らいました。16 主よ、常に変わらぬ恵みの御業をもってあなたの都、聖なる山エルサレムからあなたの怒りと憤りを翻してください。わたしたちの罪と父祖の悪行のために、エルサレムもあなたの民も、近隣の民すべてから嘲られています。17 わたしたちの神よ、僕の祈りと嘆願に耳を傾けて、荒廃した聖所に主御自身のために御顔の光を輝かしてください。18 神よ、耳を傾けて聞いてください。目を開いて、わたしたちの荒廃と、御名をもって呼ばれる都の荒廃とを御覧ください。わたしたちが正しいからではなく、あなたの深い憐れみのゆえに、伏して嘆願の祈りをささげます。19 主よ、聞いてください。主よ、お救いください。主よ、耳を傾けて、お計らいください。わたしは神よ、御自身のために、救いを遅らせないでください。あなたの都、あなたの民は、御名をもって呼ばれているのですから。」

20 こうしてなお訴え、祈り、わたし自身とわたしの

民イスラエルの罪を告白し、わたしの中の神の聖なる山について、主なるわたしの神に嘆願し続けた。21 こうして訴え祈っているとき、先の幻で見た者、すなわちガブリエルが飛んで来て近づき、わたしに触れた。それは夕べの献げ物のころのことであった。22 彼は、わたしに理解させようとしてこう言った。「ダニエルよ、お前を目覚めさせるために来た。23 お前が嘆き祈り始めた時、御言葉が出されたので、それを告げに来た。お前は愛されている者なのだ。この御言葉を悟り、この幻を理解せよ。」

24 お前の民と聖なる都に対して

七十週が定められている。

それが過ぎると逆らいは終わり

罪は封じられ、不義は償われる。

とこしえの正義が到来し

幻と預言は封じられ

最も聖なる者に油が注がれる。

25 これを知り、目覚めよ。

エルサレム復興と再建についての御言葉が出されてから

油注がれた君の到来まで

七週あり、また、六十二週あって

危機のうちに広場と堀は再建される。

26 その六十二週のと油注がれた者は不当に断たれ

都と聖所は

次に来る指導者の民によって荒らされる。

その終わりには洪水があり

終わりまで戦いが続き

荒廃は避けられない。

27 彼は一週の間、多くの者と同盟を固め

半週でいけにえと献げ物を廃止する。

憎むべきものの翼の上に荒廃をもたらすものが座す。そしてついに、定められた破滅が荒廃の上に注がれる。」

終わりの時についての幻

10

ある。ペルシアの王キユロスの治世第三年のこと

一つの言葉が啓示された。この言葉は真実であり、理

解するのは非常に困難であったが、幻のうちに、ダニ

エルに説明が与えられた。

2 そのころわたしダニエルは、三週間にわたる嘆

きの祈りをしてきた。3 その三週間は、一切の美食

を遠ざけ、肉も酒も口にせず、体には香油も塗らな

かった。4 一月二十四日のこと、チグリスという大河

2 さて、お前に真理を告げよう。見よ、ペルシアになお三人の王が立つ。次に、第四の王はだれにもまさって富み栄え、富の力をもつてすべての者を動員し、ギリシア王国に挑戦する。3そこに、勇壮な王が起り、大いに支配し、ほしほしに行動する。4その支配が確立するやいなや、この王国は砕かれて、天の四方向に分割される。彼の子孫はこれを継がず、だれも彼のような支配力を持つ者はない。この王国は根こそぎにされ、子孫以外の支配者たちに帰する。5このうち、南の王となった者は強くなるが、將軍の一人が王をしのぐ権力を取り、大いに支配する。6何年か後、二国は和睦し、南の王の娘は北の王に嫁ぎ、兩國の友好を図る。だが、彼女は十分な支持を得ず、その子孫も力を持たない。やがて、彼女も、供の者も、彼女の子らも、その支持者らも裏切られる。7だが、彼女の妻家から一つの芽が出て支配の座に着き、北の王の城塞に攻め入ってこれを破り、勝利を得る。8彼は戦利品として、鎗物の神像や金銀の財宝をエジプトに運び去る。その後何年か、北の王に対して手を出さない。9北の王は南の王国に向かって行くが、自分の国に引き揚げる。10その子らは奮い立って進軍し、洪水のような一進一退の後、敵の城塞に攻め寄せ、北の王は激怒して出陣し、北の王と戦う。北の王は

の岸にわたしはいた。5目を上げて眺めると、見よ、一人の人が麻の衣を着、純金の帯を腰に締めて立っていた。6体は寶石のようで、顔は稲妻のよう、目は松明の炎のようで、腕と足は磨かれた青銅のよう、話す声は大群衆の声のようであった。7この幻を見たのはわたしだニエルひとりであつて、共にいた人々は何も見なかったのだが、強い恐怖に襲われて逃げ出し、隠れてしまった。8わたしはひとり残つてその壮大な幻を眺めていたが、力が抜けていき、姿は変わり果てて打ちのめされ、氣力を失つてしまった。9その人の話す声が聞こえてきたが、わたしは聞きながら意識を失い、地に倒れた。10突然、一つの手がわたしに触れて引き起こしたので、わたしは手と膝をついた。11彼はこう言った。「愛されている者だニエルよ、わたしがお前に語ろうとする言葉をよく理解せよ、そして、立ち上がれ。わたしはこうしてお前のところに遣わされて来たのだ。12こう話しかけられて、わたしは震えながら立ち上がった。13彼は言葉を継いだ。「ダニエルよ、恐れることはない。神の前に心を尽くして苦行し、神意を知ろうとし始めたその最初の日から、お前の言葉は聞き入れられており、お前の言葉のためにわたしは来た。14ペルシア王国の天使長が二十一日間わたしに抵抗したが、大天使長のひとりミカエルが助け

に来てくれたので、わたしはペルシアの王たちのところにいる必要がなくなつた。14それで、お前の民に將來起こるであろうことを知らせるために来たのだ。この幻はその時に関するものだ。15こう言われてわたしは顔を地に伏せ、言葉を失つた。16すると見よ、人の子のような姿の者がわたしの唇に触れたので、わたしは口を開き、前に立つその姿に話しかけた。「主よ、この幻のためにわたしは大層苦しみ、力を失いました。17どうして主の僕であるわたしのような者が、主のようなお方と話すことなどできましようか。力はうせ、息も止まらなばかりです。18人のようなその姿は、再びわたしに触れて力づけてくれた。19彼は言った。「恐れることはない。愛されている者よ。平和を取り戻し、しっかりしなさい。こう言われて、わたしは力を取り戻し、こう答えた。「主よ、お話しください。わたしは力が出てきました。20彼は言った。「なぜお前のところに来たか、分かつたであろう。今、わたしはペルシアの天使長と闘うために帰る。わたしが去るとすぐギリシアの天使長が現れるであろう。21しかし、真理の書に記されていることをお前に教えよう。お前たちの天使長ミカエルのほかに、これらに対してわたしを助ける者はないのだ。11 1彼はわたしを支え、力づけてくれる。

大軍を集めて立ち向かうが、彼らは敵の手に陥る。12この大軍を捕らえて南の王は大いに高ぶり、幾万人もの兵を殺すが、決定的に勝つことはできない。13北の王は再び前回にまさる大軍を集め、数年の後に強力な軍隊の軍備を整えて進軍する。14その時には、多くの者が南の王に対して立ち上がる。お前の民の中からも、暴力に頼る者らが幻を成就させようとして立ち上がるが、失敗する。15北の王は進軍し、堡壘を築き、砦に守られた町を占領する。南の王はこれに抵抗する力を持たず、えり抜きの軍勢も立ち向かうことができな。16敵は意のままに行動し、対抗する者はない。あの『麗しの地』に彼は支配を確立し、一切をその手に収める。17彼は南の王国全体を支配しようとする。和睦を図り、娘を与え、それによってこの国を滅ぼそうとするが、娘の力は続かず、役に立たない。18次に、彼は島々に目を向け、その多くを占領するが、ある軍人が彼の悪行にとどめを刺し、その悪行に報いる。19北の王は自国の城塞に帰るが、そこで失墜し、倒れて消えうせる。20彼に代わって立つ者は、王国の栄光のためにと、税を取る者を巡回させる。しかし、幾日もたたないうちに、怒りにも戦いにも遭わずに滅び去る。21代わって立つ者は卑しむべき者で、王としての名

1 その時、大天使ミカエルが立つ。
 2 彼はお前の民の子らを守護する。
 3 その時まで、苦難が続く
 4 国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。
 5 しかし、その時には救われるであろう
 6 お前の民、あの書に記された人々は。
 7 多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。
 8 ある者は永遠の生命に入り

12

それに対して北の王は、戦車、騎兵、大船隊をもって、嵐のように押し寄せ、各国に攻め入り、洪水のように通過して行く。41あの『麗しの地』もこうして侵略され、多くの者が倒れる。アンモンの選ばれた者、エドム、モアブはその手を免れない。42彼は国から国へと手を伸ばし、エジプトもその手を免れない。43エジプトの隠された宝、金銀、宝物はすべて彼の支配するところとなり、リビアとクシュは彼の進むところに従う。44次いで、東と北からの知らせに危険を感じ、多くの者を滅ぼし絶やそうと、大いに激昂して進軍する。45海とあの『麗しの地』の聖なる山との間に天幕を張って、王の宿営とする。しかし、ついに彼の終わりの時が来るが、助ける者はない。

ある者は永久に続く恥と憎悪の的となる。
 3 目覚めた人々は天空の光のように輝き
 4 多くの者の救いとなった人々は
 5 とこしえに星と輝く。
 6 ダニエルよ、終わりの時が来るまで、お前はこれらのことを秘め、この書を封じておきなさい。多くの者が動揺するであろう。そして、知識は増す。
 7 わたしダニエルは、なお眺め続けていると、見よ、更に二人の人が、川の兩岸に一人ずつ立っているのが見えた。8 その一人が、川の流れの上に立つ、あの麻の衣を着た人に向かって、「これらの驚くべきことはいつまで続くのでしょうか」と尋ねた。9 すると、川の流れの上に立つ、あの麻の衣を着た人が、左右の手を天に差し伸べ、永遠に生きるお方によってこう誓うのが聞こえた。「一時期、二時期、そして半時期たつて、聖なる民の力が全く打ち砕かれると、これらの事はすべて成就する。」10 こう聞いてもわたしには理解できなかったので、尋ねた。「主よ、これらのことの終わりはどうなるのでしょうか。」11 彼は答えた。「ダニエルよ、もう行きなさい。終わりの時までこれらの事は秘められ、封じられている。12 多くの者は清められ、白くされ、練られる。逆らう者はなお逆らう。逆らう者はだれも悟らないが、目覚めた人々は悟る。11日ご

誉は与えられず、平穏な時期に現れ、甘言を用いて王権を取る。22洪水のような勢力も彼によって押し流され、打ち破られ、契約の君も破られる。23この王は、僅かの腹心と共に悪計を用いて多くの者と同盟を結び、勢力を増し、強大になって行く。24平穏な時期に彼は最も豊かな地方を侵略し、先祖の地れもしたことはないようなことを行い、戦利品や財宝を分配する。また、諸方の砦に対して計略を練るが、それは一時期のことである。25やがて彼は力と勇気を奮い起こし、南の王に対して大軍を整える。南の王も非常に強大な軍勢をもってこれと戦うが、計略にかかり、勝つことができぬ。26すなわち、南の王の禄を食む者ら自身を彼を打ち破る。その軍勢は押し流され、多くの者が傷つき倒れる。27これら二人の王は、互いに悪意を抱きながら一つの食卓を囲み、虚言を語り合う。しかし、何事も成功しない。まだ終わりの時ではないからである。28北の王は莫大な富を獲得して自国に引き揚げる。聖なる契約に逆らう思いを抱いて、ほしいままにふるまい、自国に帰る。29時が来て、彼は再び南に攻め入るが、これは最初でも最後でもない。30キティムの船隊が攻めるので、彼は力を失う。彼は再び聖なる契約に対し、怒りを燃やして行動し、また聖なる契約を離れる者があることに気づく。31彼は軍隊を派遣

して、皆すなわち聖所を汚し、日ごとの供え物を廃止し、憎むべき荒廃をもたらすものを立てる。32契約に逆らう者を甘言によって棄教させるが、自分の神を知る民は確固として行動する。33民の目覚めた人々は多くの者を導くが、ある期間、剣にかかり、火刑に処され、捕らわれ、略奪されて倒される。34こうして倒れるこの人々を助ける者は少なく、多くの者は彼らにくみするが、実は不誠実である。35これらの指導者の何人かが倒されるのは、終わりの時に備えて練り清められ、純白にされるためである。まだ時は来ていない。36あの王はほしいままにふるまい、いよいよ驕り高ぶって、どのような神よりも自分を高い者と考える。すべての神にまさる神に向かって恐るべきことを口にし、怒りの時が終わるまで栄え続ける。定められたことは実現されねばならないからである。37先祖の神々を無視し、女たちの慕う神をも、そして他のどのような神をも尊ばず、自分を何者にもまさって偉大であると思う。38代わりに、先祖の知らなかった神、すなわち砦の神をあがめ、金銀、寶石、宝物でこれを飾り立てる。39強固な砦の数々を異国の神に頼って攻め、気に入った者には栄誉を与えて多くの者を支配させ、封土を与える。
 40 終わりの時に至って、南の王は彼に戦いを挑む。

との供え物が廃止され、憎むべき荒廃をもたらすものが立てられてから、千二百九十日が定められている。12 待ち望んで千三百三十五日に至る者は、まことに幸いである。13 終わりまでお前の道を行き、憩いに入りなさい。時の終わりにあたり、お前に定められている運命に従って、お前は立ち上がるであろう。」

ホセア書

1 ユダの王、ウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤの時代、イスラエルの王ヨアシュの子ヤロブアムの時代に、ベエリの子ホセアに臨んだ主の言葉。

ホセアの妻と子

2 主がホセアに語られたことの初め。主はホセアに言われた。

「行け、淫行の女をめぐり

淫行による子らを受け入れよ。

この国は主から離れ、淫行にふけているからだ。」

3 彼は行って、ティブライムの娘ゴメルをめぐった。彼女は身ごもり、男の子を産んだ。4 主は彼に言われた。

「その子をイズレエルと名付けよ。

間もなく、わたしはイエフの王家に

イズレエルにおける流血の罰を下し

イスラエルの家におけるその支配を絶つ。

5 その日が来ると

イズレエルの平野で

わたしはイスラエルの弓を折る。」

6 彼女は再び身ごもり、女の子を産んだ。主は彼に言われた。

「その子を

ロ・ルハマ（憐れまれぬ者）と名付けよ。

わたしは、もはやイスラエルの家を憐れまず彼らを決して赦さないからだ。

7 だが、ユダの家には憐れみをかけ

彼らの神なる主として、わたしは彼らを救う。

弓、剣、戦い、馬、騎兵によって

救うのではない。」

8 彼女はロ・ルハマを乳離れさせると、また身ごもって、男の子を産んだ。9 主は言われた。

「その子を

ロ・アンミ（わが民でない者）と名付けよ。

あなたたちはわたしの民ではなく

わたしはあなたたちの神ではないからだ。」

2

イスラエルの回復

1 イスラエルの人々は、その数を増し

海の砂のようになり

量することも、数えることもできなくなる。

彼らは